外部仕上

展示・図書室	屋根・傾斜壁	カラーGL0.5　立てハゼ葺き（さざ波加工） ゴムアスルーフィング2.0+硬質木毛板t20 軒先、ケラバ：屋根同材包み 軒裏：カラーGL0.5スパンドレル 軒樋、竪樋：カラーGL	外壁	フッ素GLサイディングｔ15　ウレタン充填 透湿防水シート 根廻：化粧コンクリート打放し		ポーチ 胸像ステージ	床：磁器質タイル　下地：CON 壁：外壁と同じ 天井：カラーGL0.5スパンドレル 床：磁器質タイル　下地：CON	図書テラス 顕彰図書室スロープ	床：磁器質タイル・段鼻タイル 床：豆砂利洗出し仕上
研修・事務室	陸屋根	シート防水　下地：硬質木毛板t20 竪樋：カラーGL+飾り枡 笠木：アルミFB形状　ステンカラー	外壁	磁器質タイル 亜鉛メッキ鋼板t15　ウレタン充填 下地：通気用縦胴縁ｔ18+透湿防水シート 根廻：磁器質タイル接着張り		アプローチ	塗膜防水　下地：硬質木毛板t20 軒先・カラーアルミ 軒裏：カラーGL0.5スパンドレル 軒樋、竪樋：カラーGL 柱：溶融亜鉛メッキリン酸処理の上DP塗装		

内部仕上表

室名	下地	床	幅木	下地	壁	下地	天井	廻り縁	スクリーン ブラインド	備考
風除室	CON	磁器質タイル	磁器質タイル	LGS65	磁器質タイル ＋ 亜鉛メッキ鋼板t15	LGS19	GB-D9.5	塩ビ製		
ホール	同上	タイルカーペット	ビニルH40 木目柄	LGS50 LGS65 LGS90	不燃化粧板t6 ＋ GB-R12.5 不燃内装薄塗材A ＋ GB-R12.5+9.5	同上	DR9 ＋ GB-NC9.5 EP塗装 ＋ GB-NC9.5	同上	ロールスクリーン	ブラインドボックス・ピクチャーレール
展示室	同上	磁器質タイル3色張分け	別途工事	同上	グラフィックシート・不燃クロス（別途工事） GB-R12.5+9.5　一部FG6×2枚	同上	EP塗装 ＋ DR9 ＋ GB-NC9.5 一部FG6×2（仕上別途工事）	別途工事		タイル張分け用SUS床見切
顕彰図書室	同上	タイルカーペット	ビニルH40	LGS50 LGS90	EP-G塗装 ＋ GB-R12.5+9.5 不燃化粧板t6 ＋ GB-R12.5	同上	DR9 ＋ GB-NC9.5 不燃内装薄塗材D ＋ GB-NC9.5	塩ビ製	ロールスクリーン	サインパネル・ブラインドボックス・書架
図書室	同上	同 上	ビニルH40 木目柄	LGS50 LGS65 LGS90	不燃化粧板t6 ＋ GB-R12.5 不燃内装薄塗材A ＋ GB-R12.5+9.5	同上	DR9 ＋ GB-NC9.5 EP塗装 ＋ GB-NC9.5	同上	ロールスクリーン	ブラインドボックス・書架
研修室	同上	同 上	ビニルH40	S LGS50 LGS65	EP-G塗装 ＋ GB-R12.5+9.5	同上	DR9 ＋ GB-NC9.5	同上	横型ブラインド25	100インチスクリーン+アルミ天井ボックス
倉庫	同上	ビニル床シート	ビニルH100	S LGS50 LGS65	同 上	同上	GB-D9.5	同上		
事務室	同上	タイルカーペット	ビニルH40	同上	同 上	同上	同 上	同上	横型ブラインド25	コンパクトキッチン・ブックポスト・ポスト
前室	同上	同 上	同上	LGS50 LGS65 LGS90	不燃内装薄塗材B ＋ GB-R12.5+9.5	同上	DR9 ＋ GB-NC9.5	同上		ピクチャーレール
前室倉庫	同上	ビニル床シート	ビニルH100	同上	EP-G塗装 ＋ GB-R12.5+9.5	同上	GB-D9.5	同上		
収蔵庫	同上	単層フローリングt15 クッションt2裏張り付	木製素地	LGS50 LGS90	内装用調湿板t6 ＋ GB-R12.5	同上	DR9 ＋ GB-NC9.5	木製素地		
多目的WC	同上	ビニル床タイル	ビニルタイル H450	LGS65	不燃内装薄塗材C ＋ GB-R12.5+9.5	同上	GB-D9.5	塩ビ製		
MWC・WWC	同上	同 上	SUS-H60 ブラック-HL	LGS50 LGS65 LGS90	不燃内装薄塗材C ＋ GB-R12.5+9.5 不燃化粧板t6 ＋ GB-R12.5	同上	GB-D9.5 EP塗装 ＋ GB-NC9.5	同上		洗面カウンター・面台

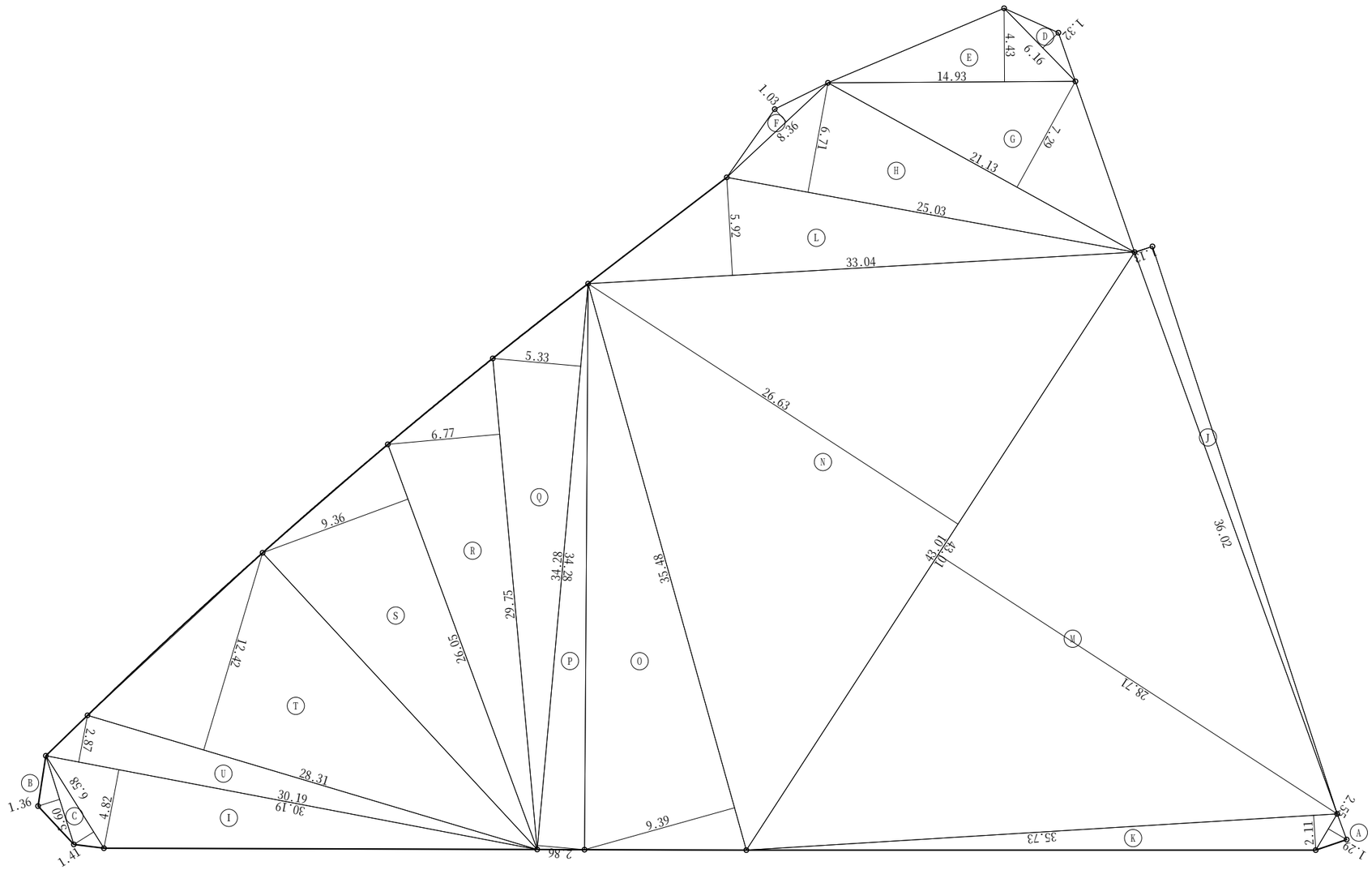
特記事項

特記事項	記号凡例	記号凡例+防火認定
床：PF25　外壁：GW50　天井：GW100 内壁:研修室・倉庫 GW50（吸音） タイルカーペットは2色混ぜ貼りとし、割付けは現場指示とする ピクチャーレールはホワイト色とする	下地記号 CON：コンクリート　MOR：モルタル　S：鉄骨　LGS：軽量鉄骨	GB-R：石膏ボードt12.5　NM-8619　：　GB-NC9.5　NM-0441 GB-D：化粧石膏ボード　NM-1864 DR9：ロックウール化粧吸音板　NM-8599 FG6 ： 繊維混入石膏板　NM-2967 内装用調湿板：調湿建材認定　珪酸カルシウム板　NM-3734 不燃化粧板：樹脂フィルム貼りメラミン板　VG品柄　NM-1975 グラフィックシート：印刷用塩化ビニルフィルム　NM-2398 不燃内装薄塗材　NM-8572

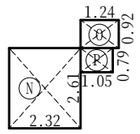
有限会社 環境計画建築研究所 DESIGN ENVIRONMENTAL
１級建築士事務所登録１５７２号
１級建築士登録６２４５６号
矢 田 和 弘

工事名	図面名	縮尺	図番
永井隆記念館施設整備事業 永井隆記念館建設（建築主体）工事	仕上表		A-05

記号	計算式(m)	面積(㎡)
A	2.55 × 1.29 ÷ 2	1.64
B	5.60 × 1.36 ÷ 2	3.81
C	6.58 × 1.41 ÷ 2	4.64
D	6.16 × 1.32 ÷ 2	4.07
E	14.93 × 4.43 ÷ 2	33.07
F	8.36 × 1.03 ÷ 2	4.31
G	21.13 × 7.29 ÷ 2	77.02
H	25.03 × 6.71 ÷ 2	83.98
I	30.19 × 4.82 ÷ 2	72.76
J	36.02 × 1.13 ÷ 2	20.35
K	35.73 × 2.11 ÷ 2	37.70
L	33.04 × 5.92 ÷ 2	97.80
M	43.01 × 28.71 ÷ 2	617.41
N	43.01 × 26.63 ÷ 2	572.68
O	35.48 × 9.39 ÷ 2	166.58
P	34.28 × 2.86 ÷ 2	49.02
Q	34.28 × 5.33 ÷ 2	91.36
R	29.75 × 6.77 ÷ 2	100.70
S	26.05 × 9.36 ÷ 2	121.91
T	28.31 × 12.42 ÷ 2	175.81
U	30.19 × 2.87 ÷ 2	43.32
合計面積		2,379.94

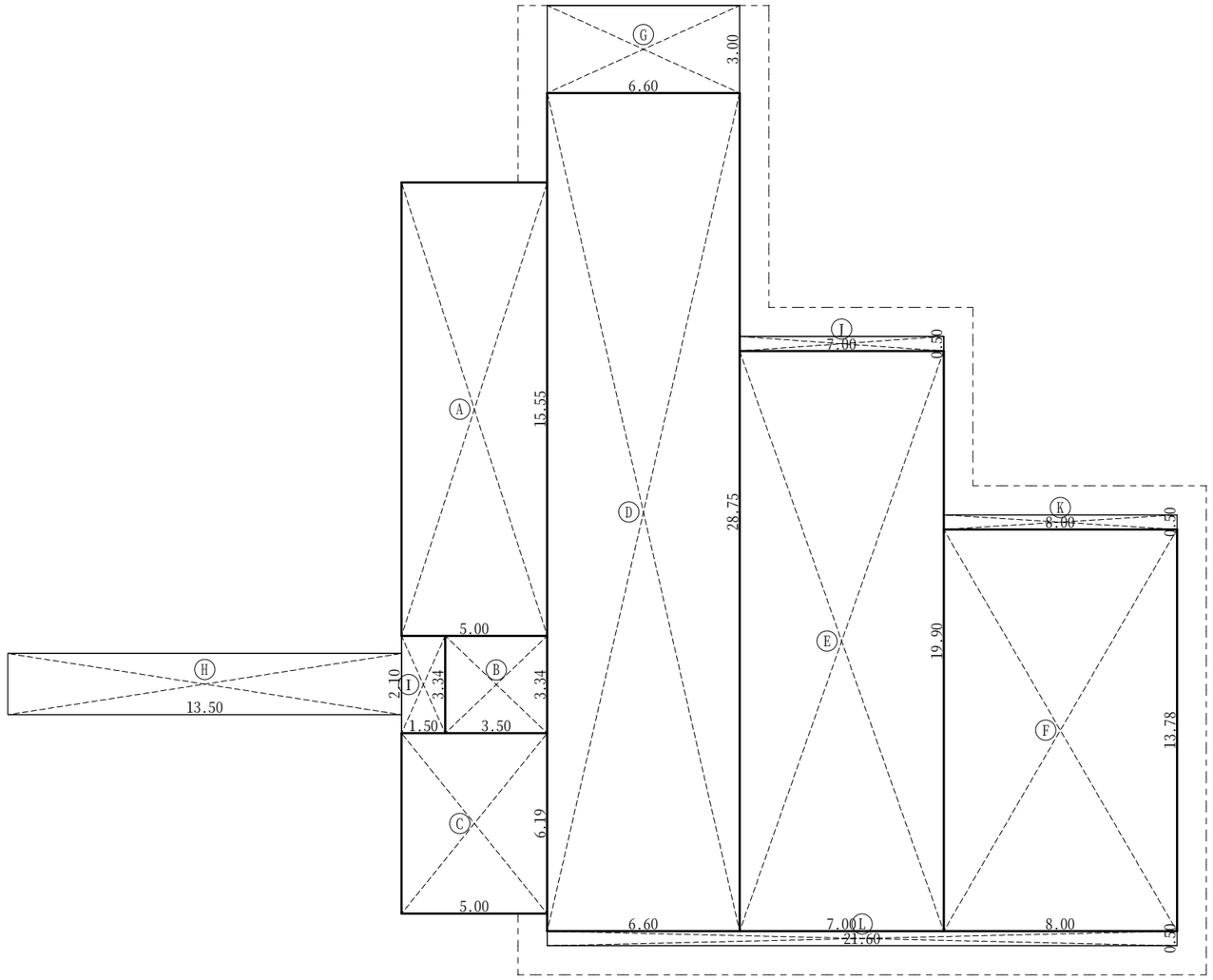


有限会社 環境計画建築研究所 DESIGN ENVIRONMENTAL	1級建築士事務所登録１５７２号 1級建築士登録６２４５６号 矢 田 和 弘			工事名	永井隆記念館施設整備事業 永井隆記念館建設（建築主体）工事	図面名	敷地求積図	縮尺 1/300	図番 A-06



展示住居面積

記号	計算式(m)	面積(㎡)
N	2.32 × 2.61	6.06
O	1.24 × 0.92	1.14
P	1.05 × 0.79	0.83
合計面積		8.03



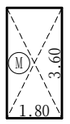
床面積

記号	計算式(m)	面積(㎡)
A	5.00 × 15.55	77.75
B	3.50 × 3.34	11.69
C	5.00 × 6.19	30.95
D	6.60 × 28.75	189.75
E	7.00 × 19.90	139.30
F	8.00 × 13.78	110.24
G	6.60 × 3.00	19.80
合計面積		579.48

記号	計算式(m)	面積(㎡)
H	13.50 × 2.10	28.35
I	1.50 × 3.34	5.01
J	7.00 × 0.50	3.50
K	8.00 × 0.50	4.00
L	21.60 × 0.50	10.80
合計面積		51.66

建築面積

記号	計算式(m)	面積(㎡)
	579.48 + 51.66	631.14



駐輪場面積

記号	計算式(m)	面積(㎡)
M	1.80 × 3.60	6.48
合計面積		6.48

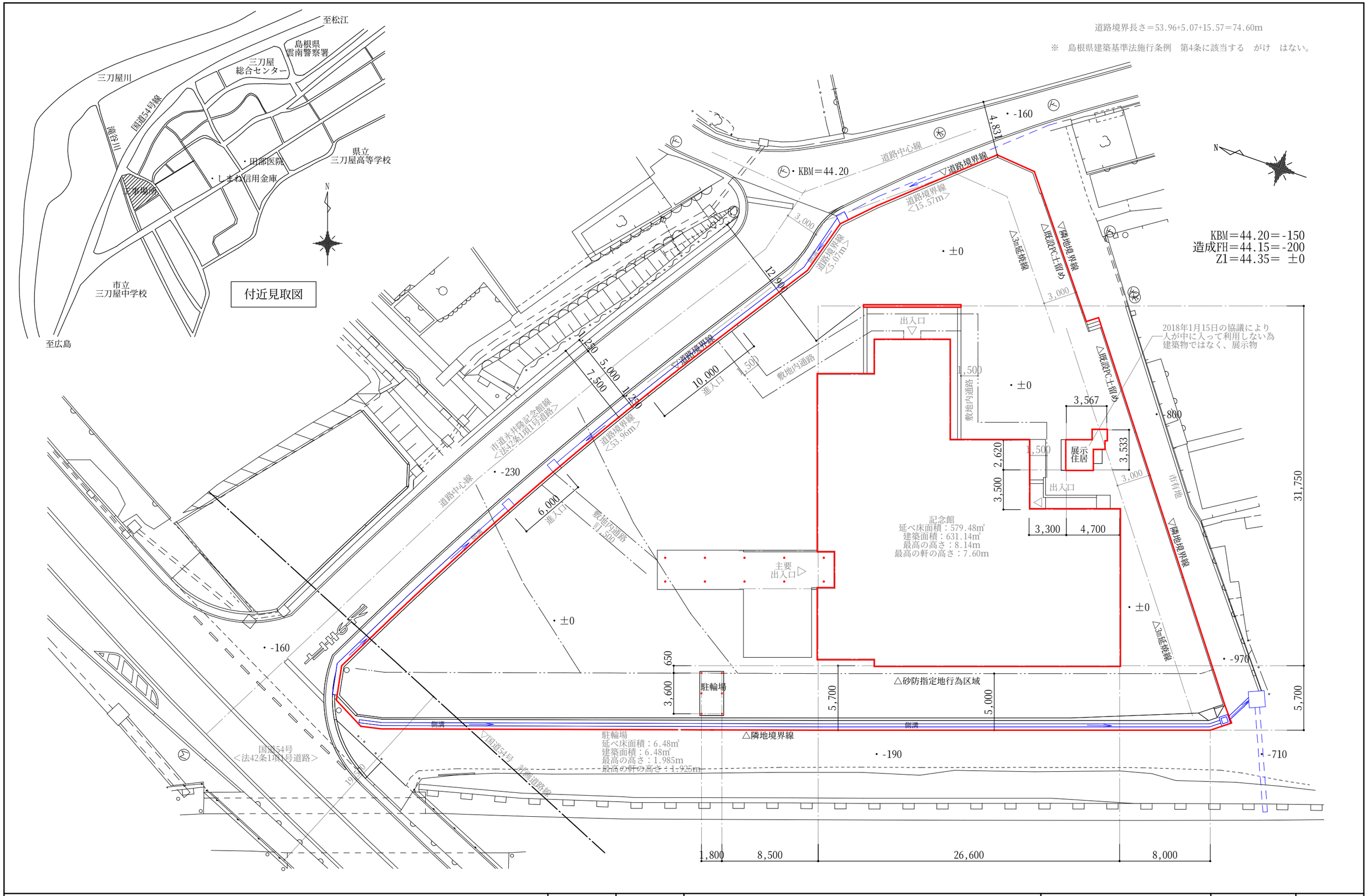
有限会社 環境計画建築研究所 DESIGN ENVIRONMENTAL
1級建築士事務所登録１５７２号
1級建築士登録６２４５６号
矢 田 和 弘

工事名 永井隆記念館施設整備事業
永井隆記念館建設（建築主体）工事

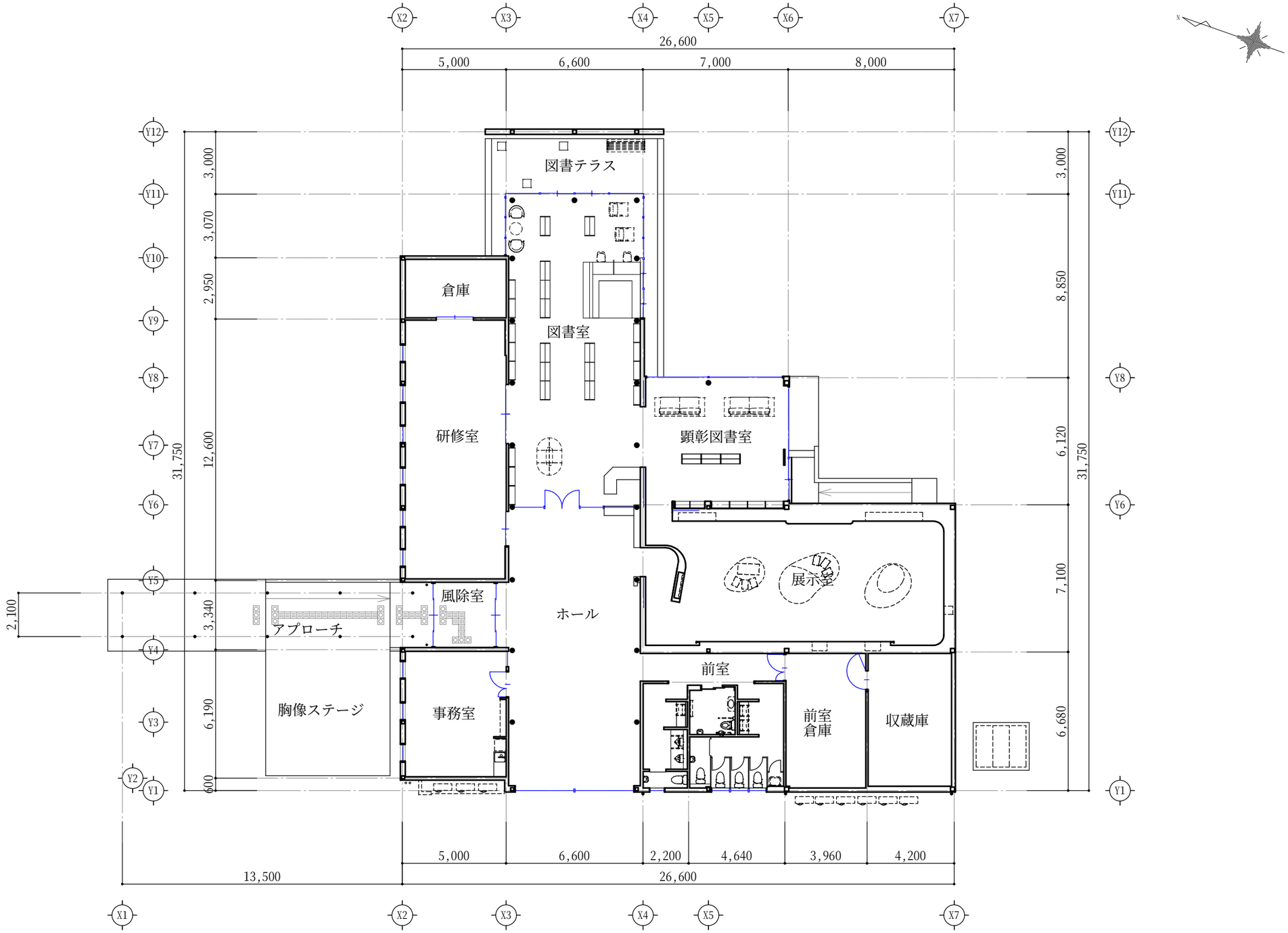
図面名 床面積求積図

縮尺 1/200

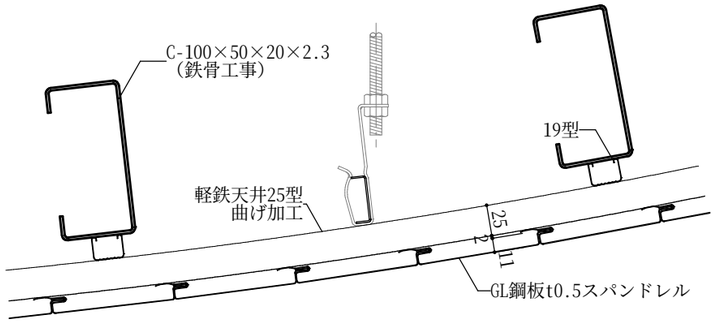
図番 A-07



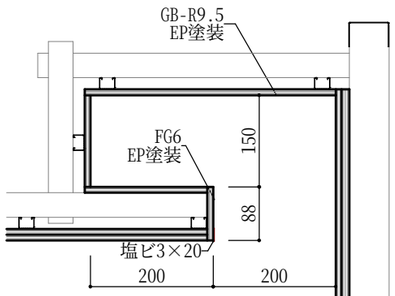
有限会社 環境計画建築研究所 DESIGN ENVIRONMENTAL	1級建築士事務所登録１５７２号 1級建築士登録６２４５６号 矢田和弘		工事名	永井隆記念館施設整備事業 永井隆記念館建設（建築主体）工事	図面名	付近見取図 配置図	縮尺 1/300	図番 A-08



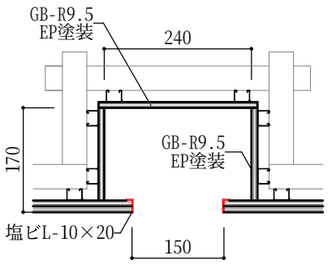
有限会社 環境計画建築研究所 DESIGN ENVIRONMENTAL	1級建築士事務所登録１５７２号 1級建築士登録６２４５６号 矢田和弘			工事名	永井隆記念館施設整備事業 永井隆記念館建設（建築主体）工事	図面名 平面図	縮尺 1/200	図番 A-09



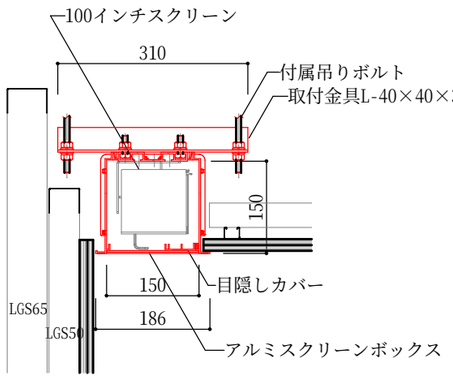
曲面屋根軒天詳細図
S=1/5



照明ボックスA詳細図
S=1/10



照明ボックスB詳細図
S=1/10

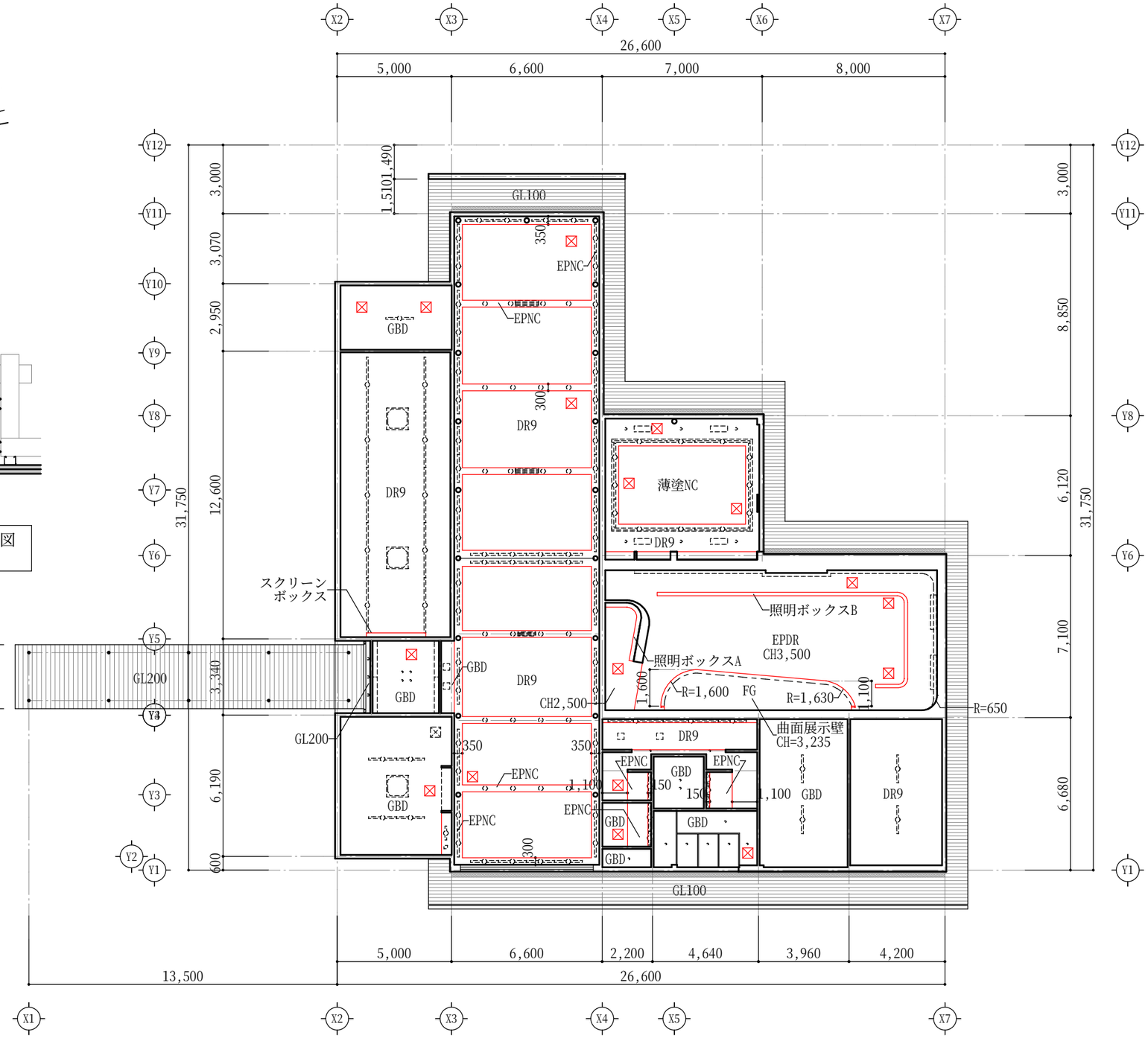


スクリーンボックス詳細図
S=1/10

仕上リスト

GL100	GL鋼板t0.5×W100
GL200	GL鋼板t0.5×W200
DR9	DR9
GBD	GB-D9.5
EPDR	EP塗装　DR9
EPNC	EP塗装　GB-NC9.5
薄塗NC	不燃内装薄塗材　GB-NC
FG	FG6×2枚（仕上別途工事）

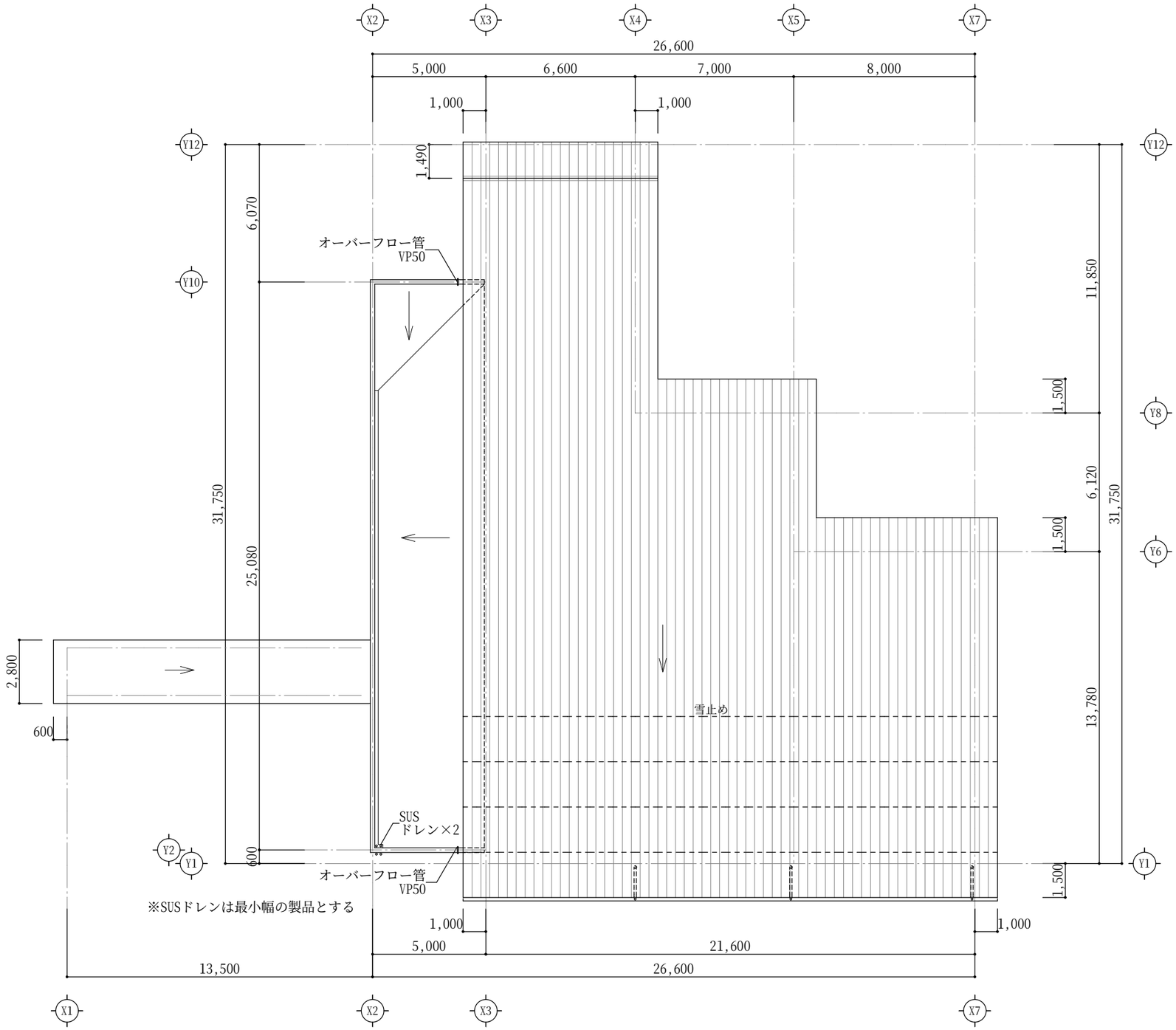
有孔板を示す



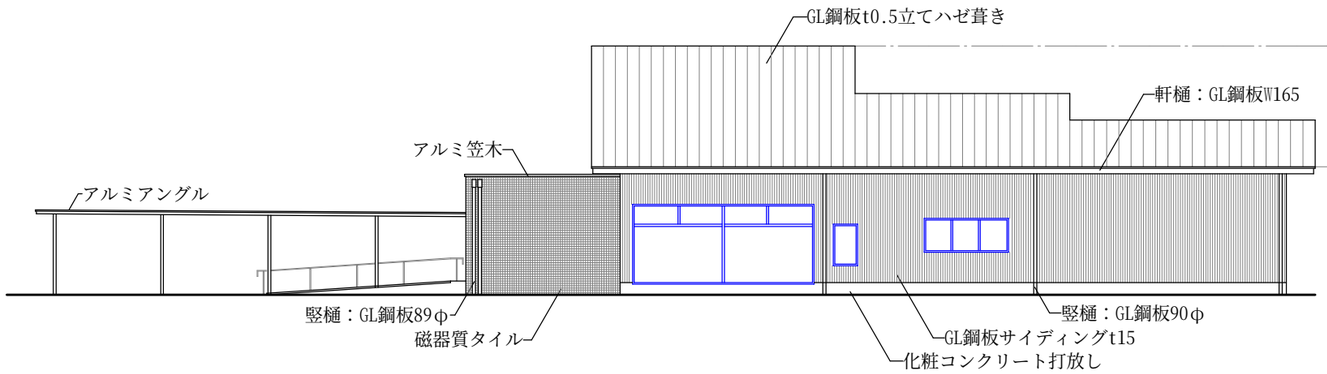
⊠ 天井点検口450×450スリム目地（ホワイトカラー）納まり

施工図は、別途工事（電気設備・機械設備・展示製作）を含む総合図を作成する

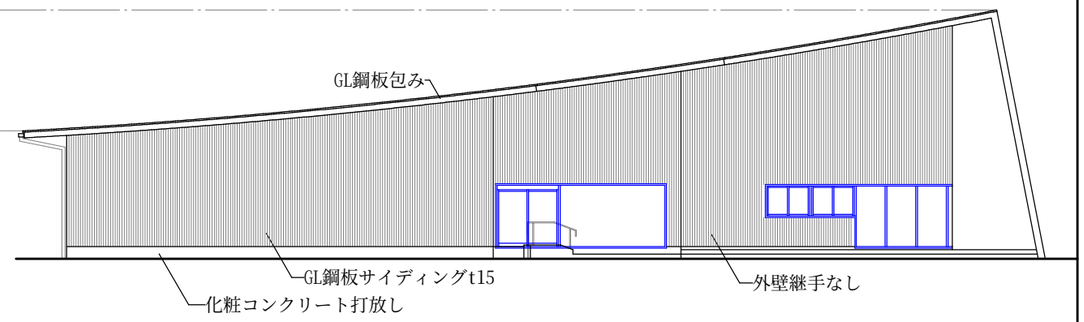
有限会社 環境計画建築研究所 DESIGN ENVIRONMENTAL	1級建築士事務所登録１５７２号 1級建築士登録６２４５６号 矢田和弘			工事名	永井隆記念館施設整備事業 永井隆記念館建設（建築主体）工事	図面名	天井伏図	縮尺 1/200	図番 A-10



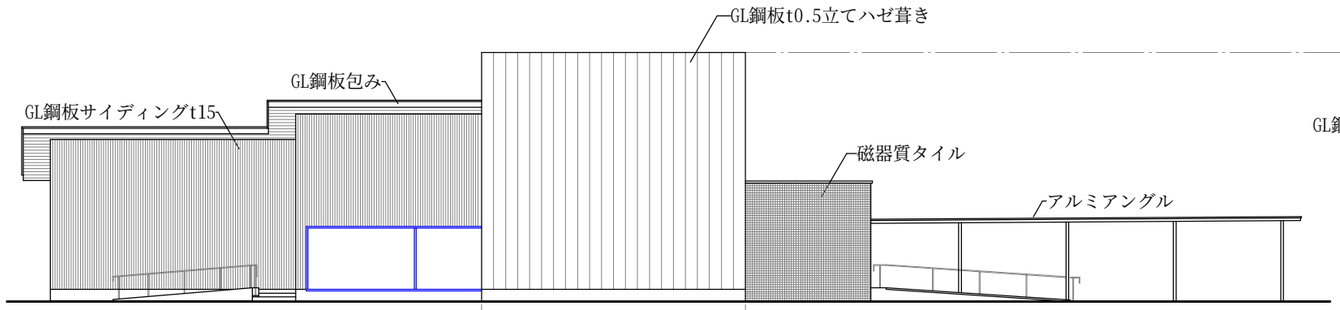
有限会社 環境計画建築研究所 DESIGN ENVIRONMENTAL	1級建築士事務所登録１５７２号 1級建築士登録６２４５６号 矢田和弘			工事名	永井隆記念館施設整備事業 永井隆記念館建設（建築主体）工事	図面名	屋根伏図	縮尺 1/200	図番 A-11

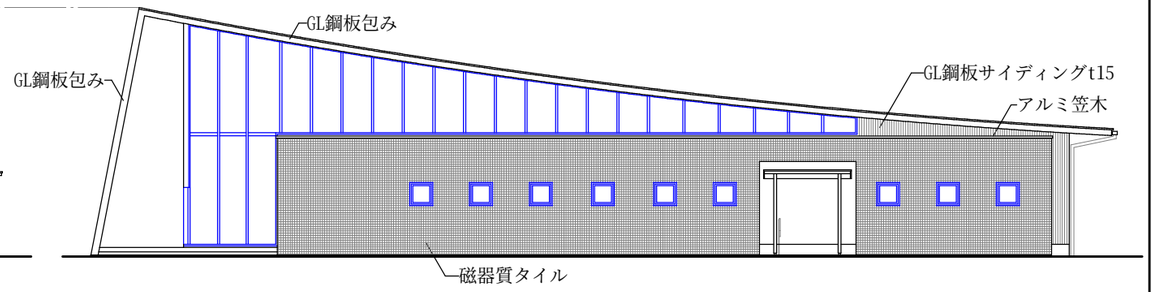


西側立面図

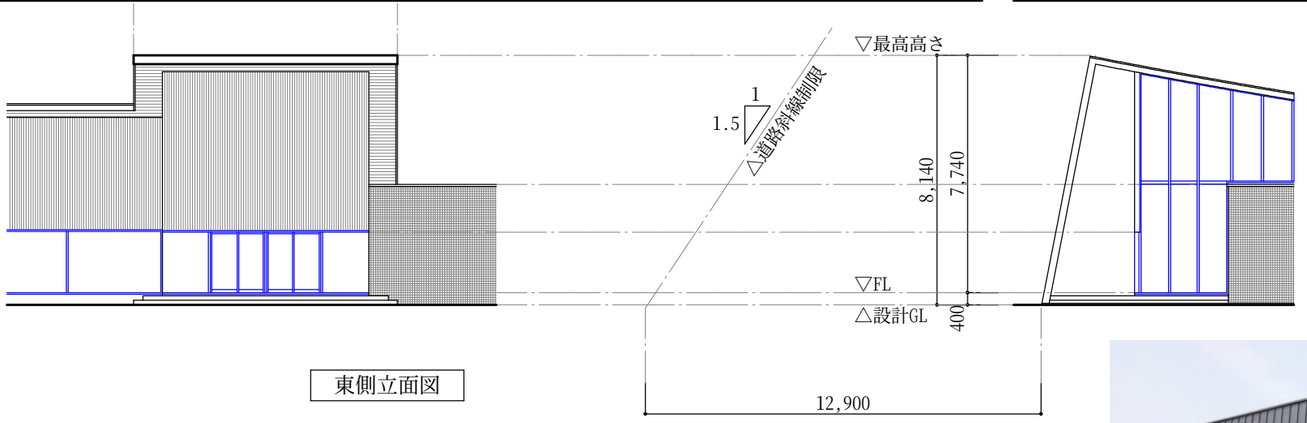


南側立面図



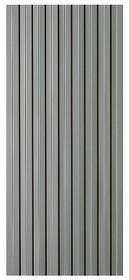


北側立面図



東側立面図

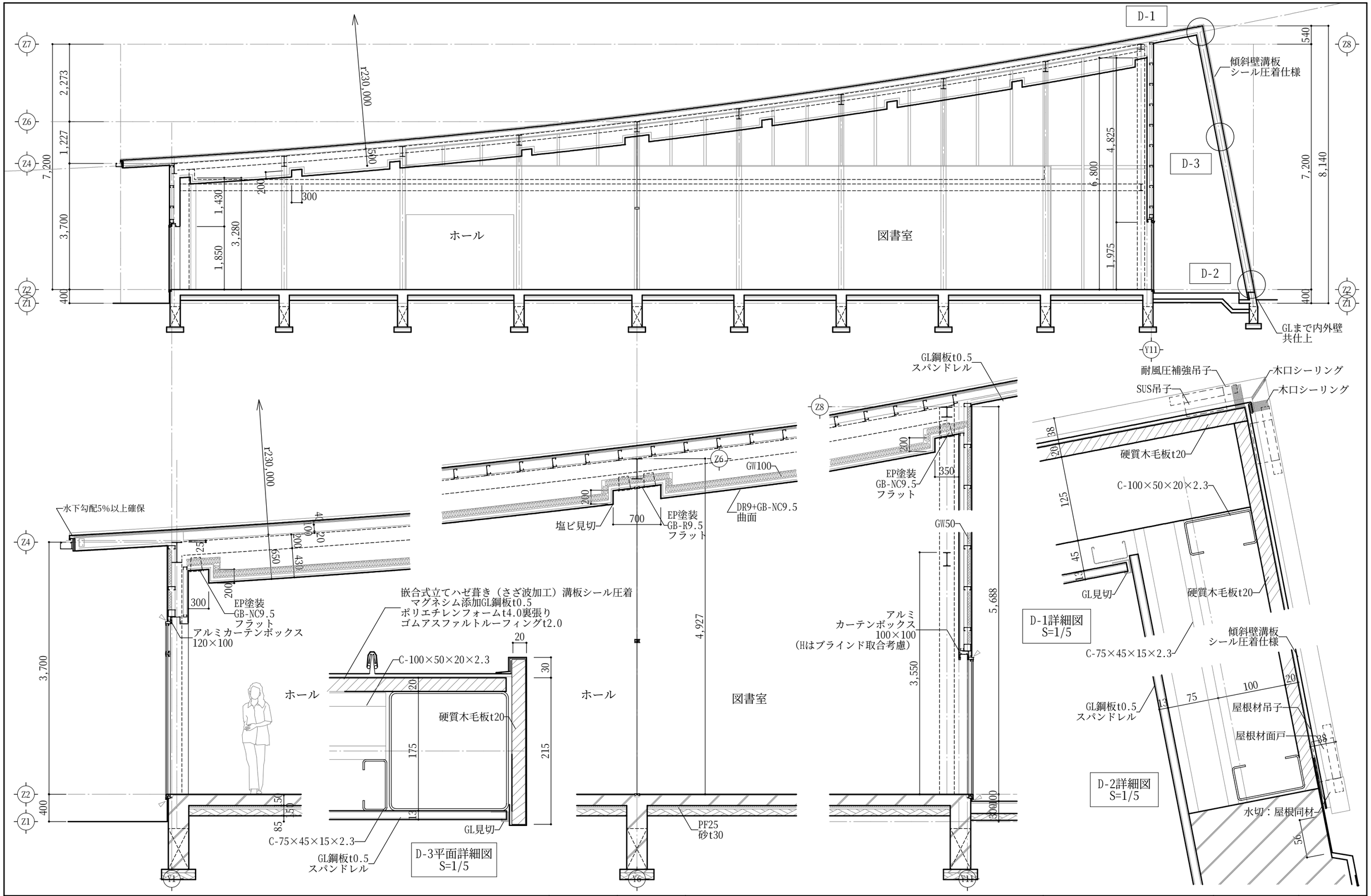
GL鋼板立てハゼ葺き
イメージ



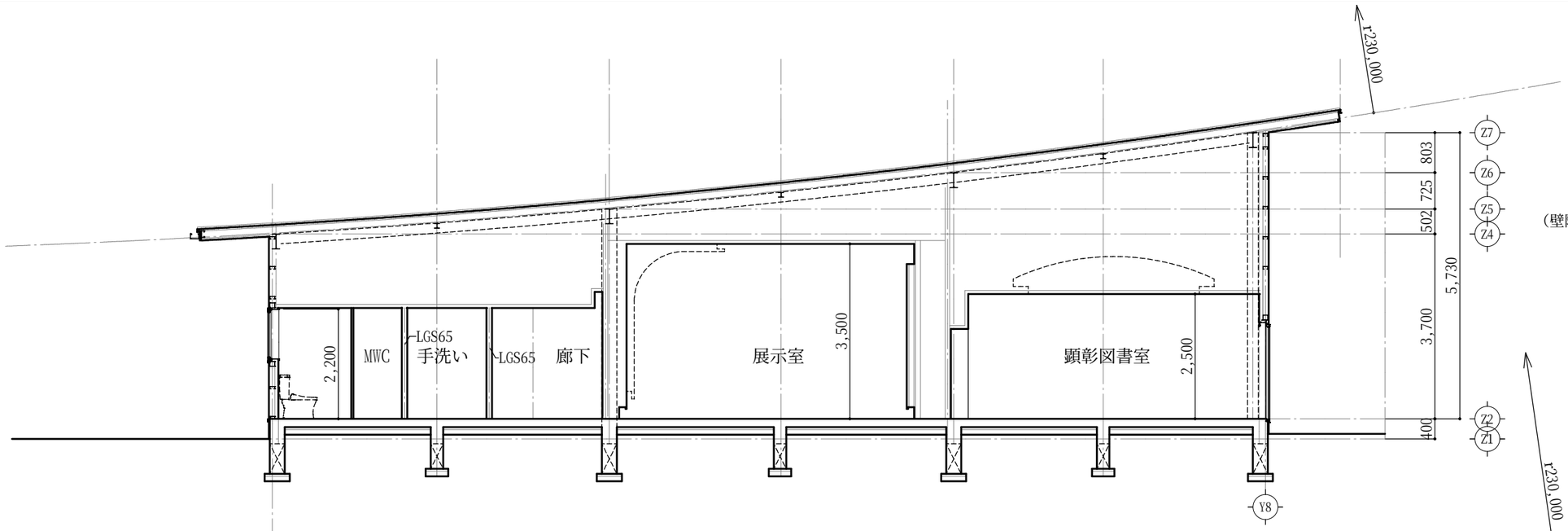
GL鋼板サイディングt15
イメージ

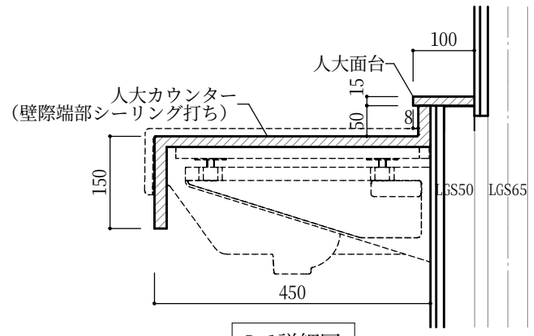
磁器質タイル
イメージ

有限会社 環境計画建築研究所 DESIGN ENVIRONMENTAL	1級建築士事務所登録１５７２号 1級建築士登録６２４５６号 矢田和弘			工事名	永井隆記念館施設整備事業 永井隆記念館建設（建築主体）工事	図面名 立面図	縮尺 1/200 図番 A-12



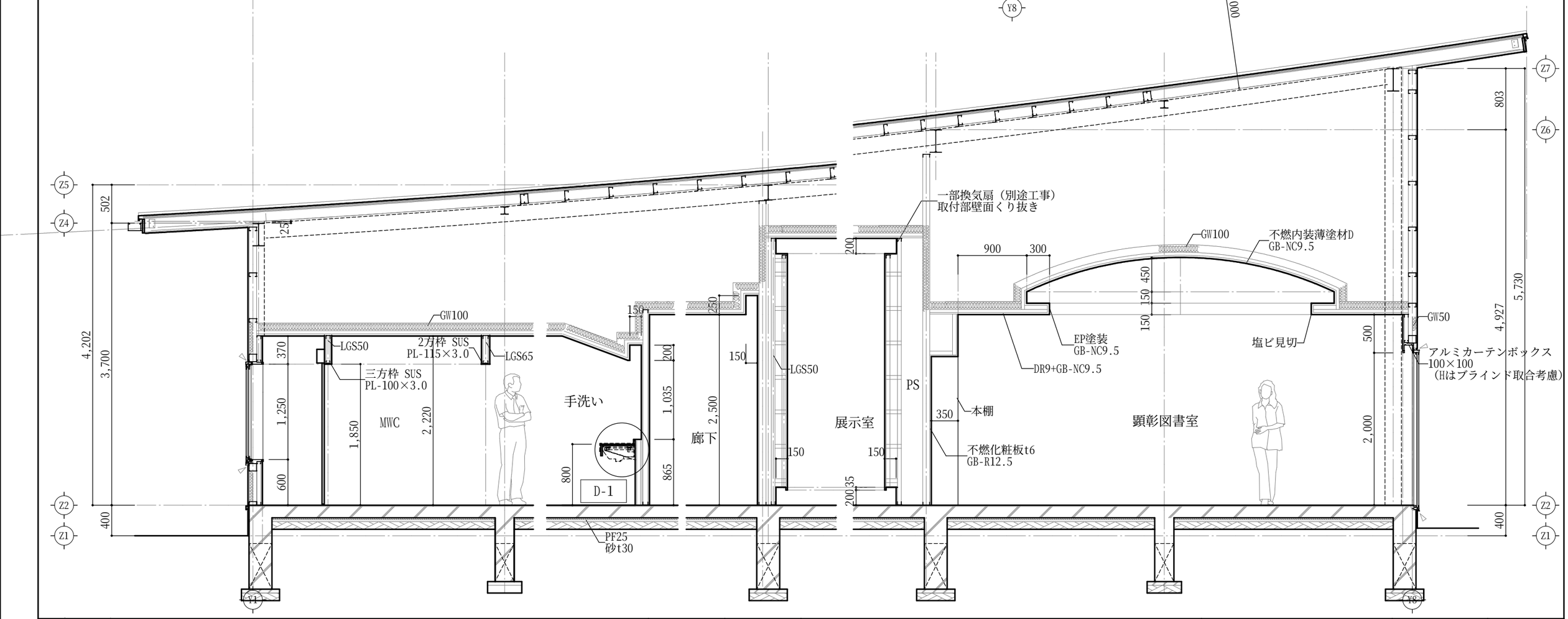
有限会社 環境計画建築研究所 DESIGN ENVIRONMENTAL	1級建築士事務所登録１５７２号 1級建築士登録６２４５６号 矢田和弘		工事名	永井隆記念館施設整備事業 永井隆記念館建設（建築主体）工事	図面名 断面詳細図 1	縮尺 1/100 1/50	図番 A-13



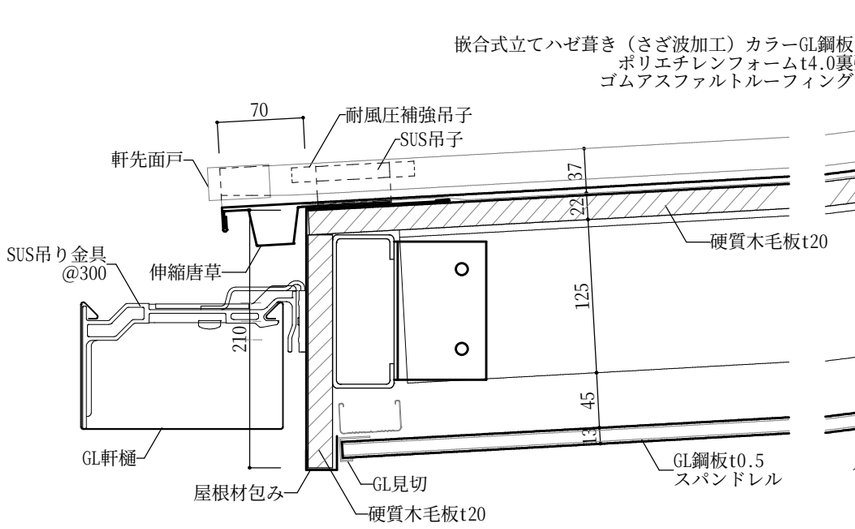


D-1詳細図
S=1/10

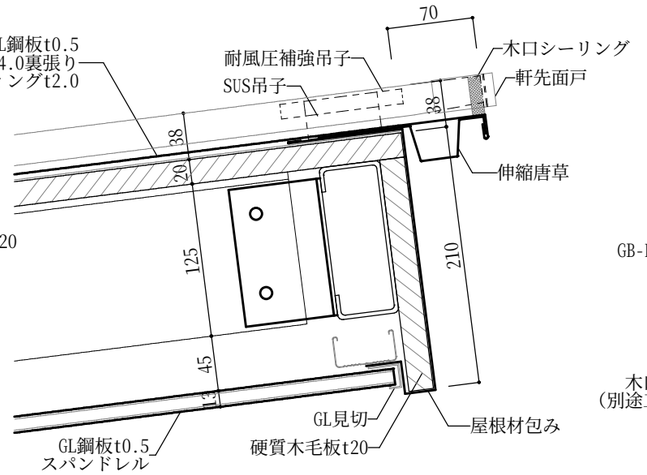
人大：TOTO㈱マーブライトグラニット柄同等品
（ブラケット付）



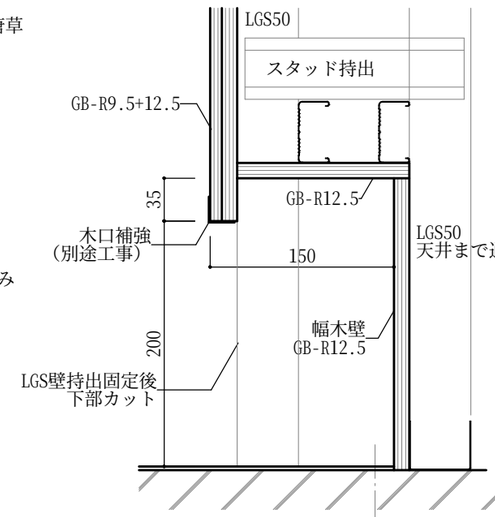
有限会社 環境計画建築研究所 DESIGN ENVIRONMENTAL	1級建築士事務所登録１５７２号 1級建築士登録６２４５６号 矢田和弘			工事名	永井隆記念館施設整備事業 永井隆記念館建設（建築主体）工事	図面名	断面詳細図 2	縮尺	1/100 1/50	図番	A-14

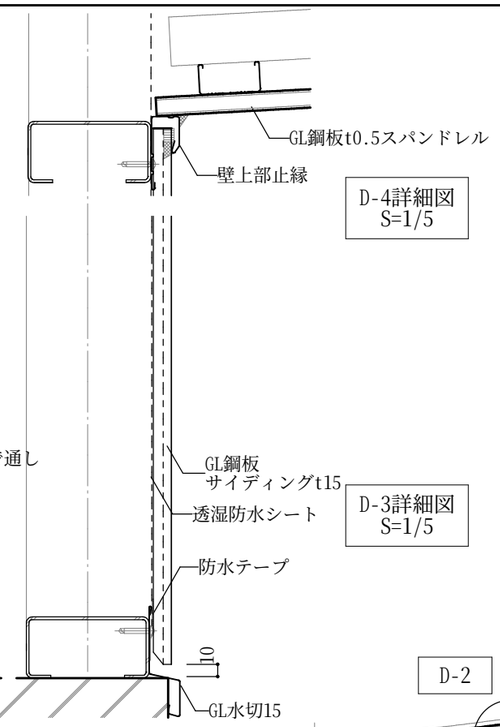


D-1詳細図
S=1/5



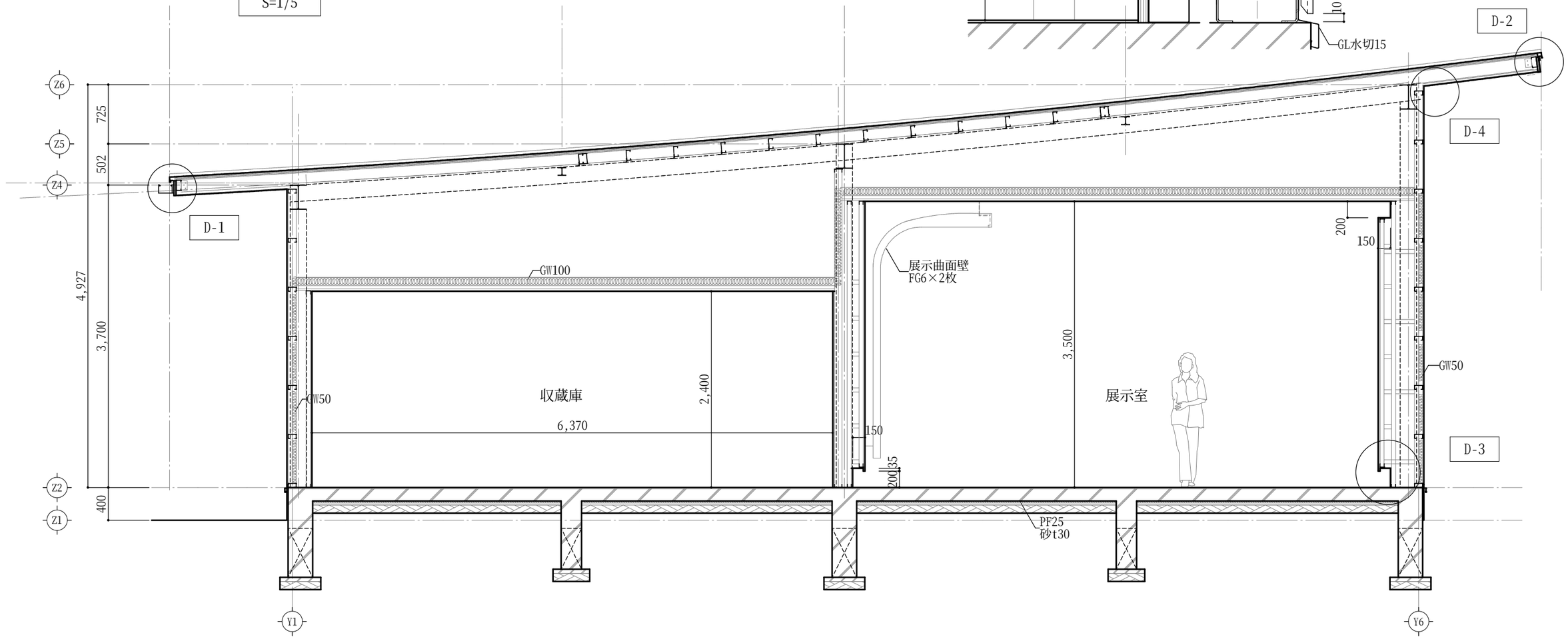
D-2詳細図
S=1/5



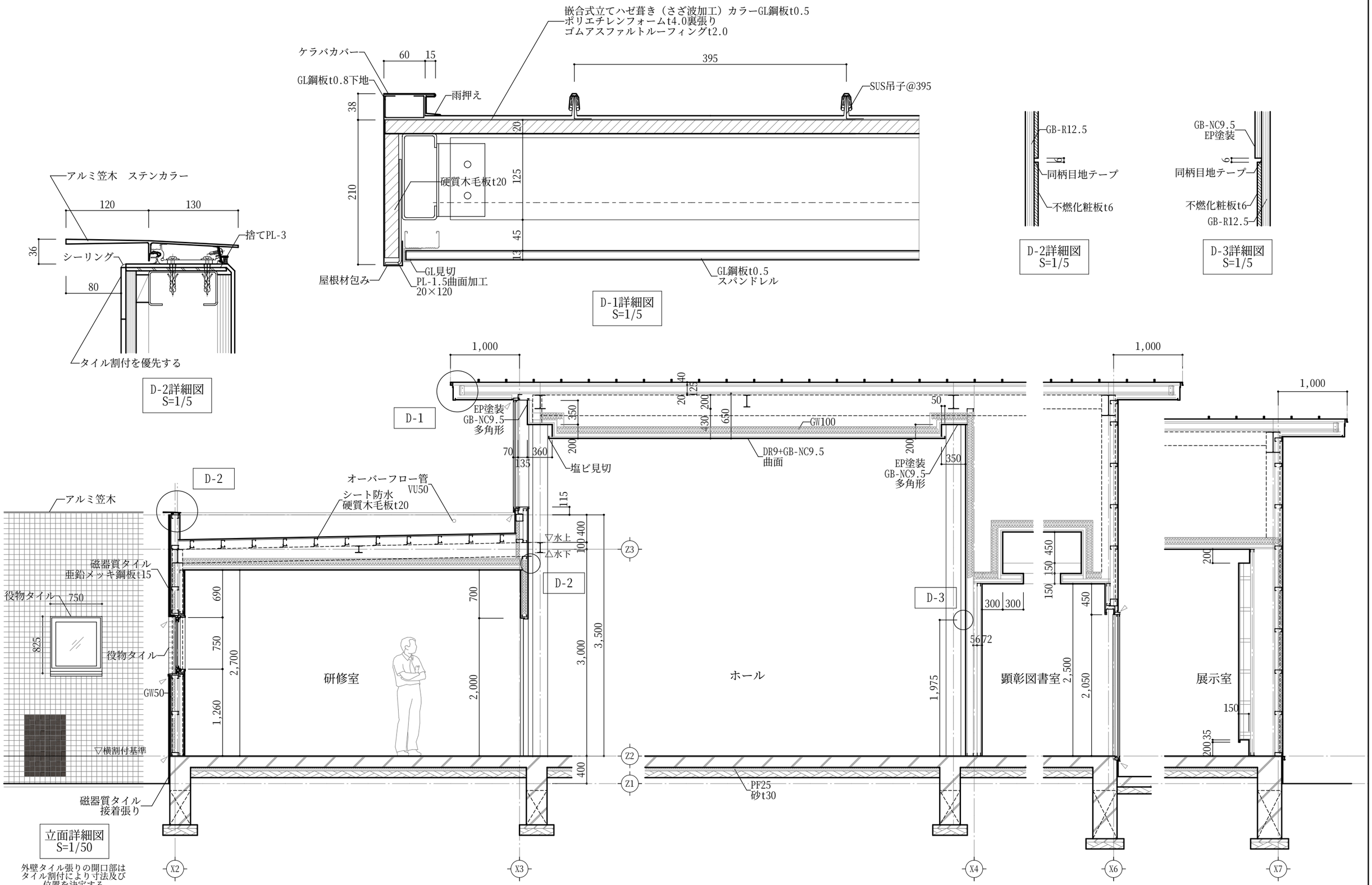


D-4詳細図
S=1/5

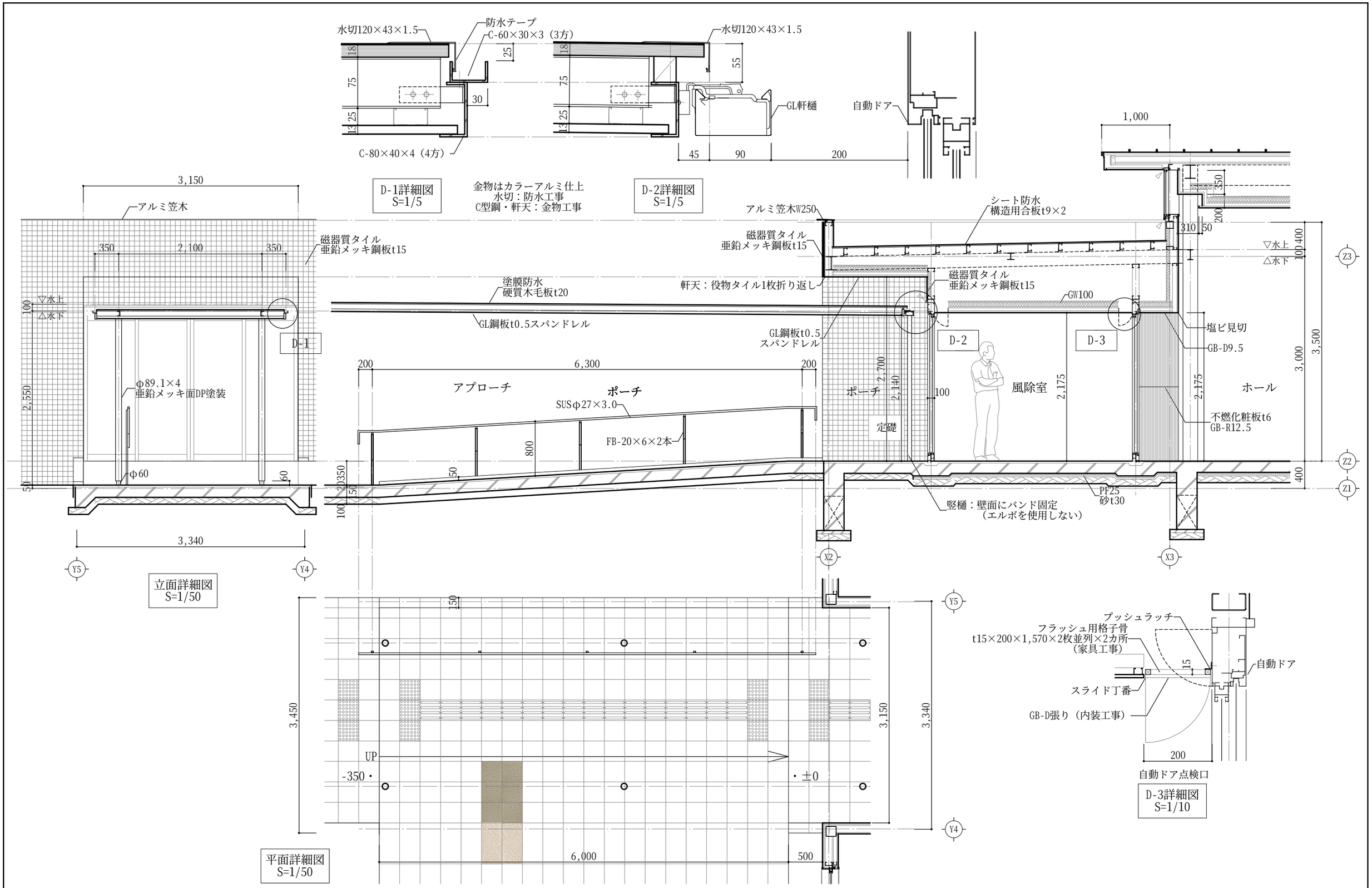
D-3詳細図
S=1/5



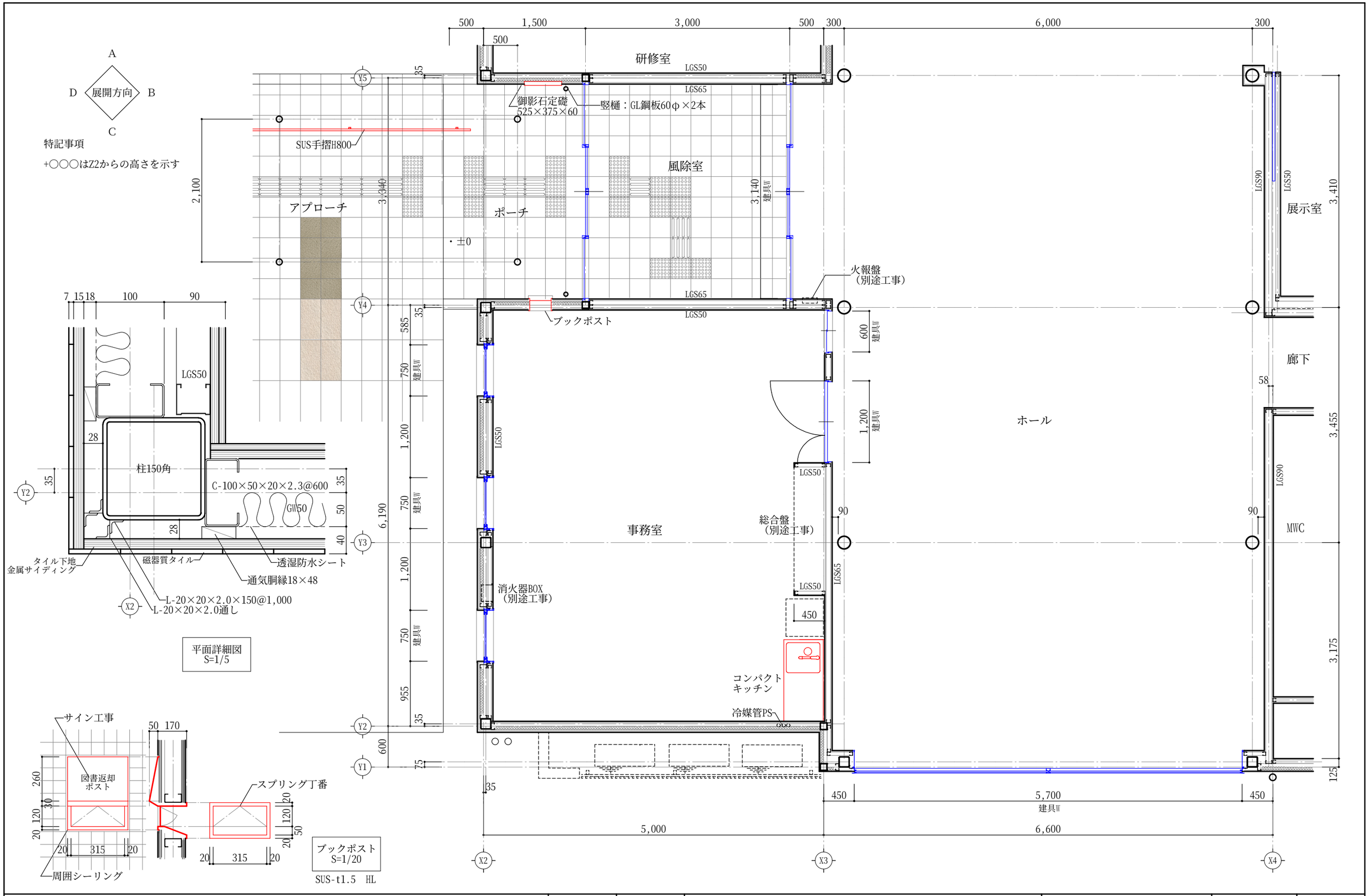
有限会社 環境計画建築研究所 DESIGN ENVIRONMENTAL	1級建築士事務所登録１５７２号 1級建築士登録６２４５６号 矢田和弘		工事名	永井隆記念館施設整備事業 永井隆記念館建設（建築主体）工事	図面名	断面詳細図 3	縮尺 1/50	図番 A-15



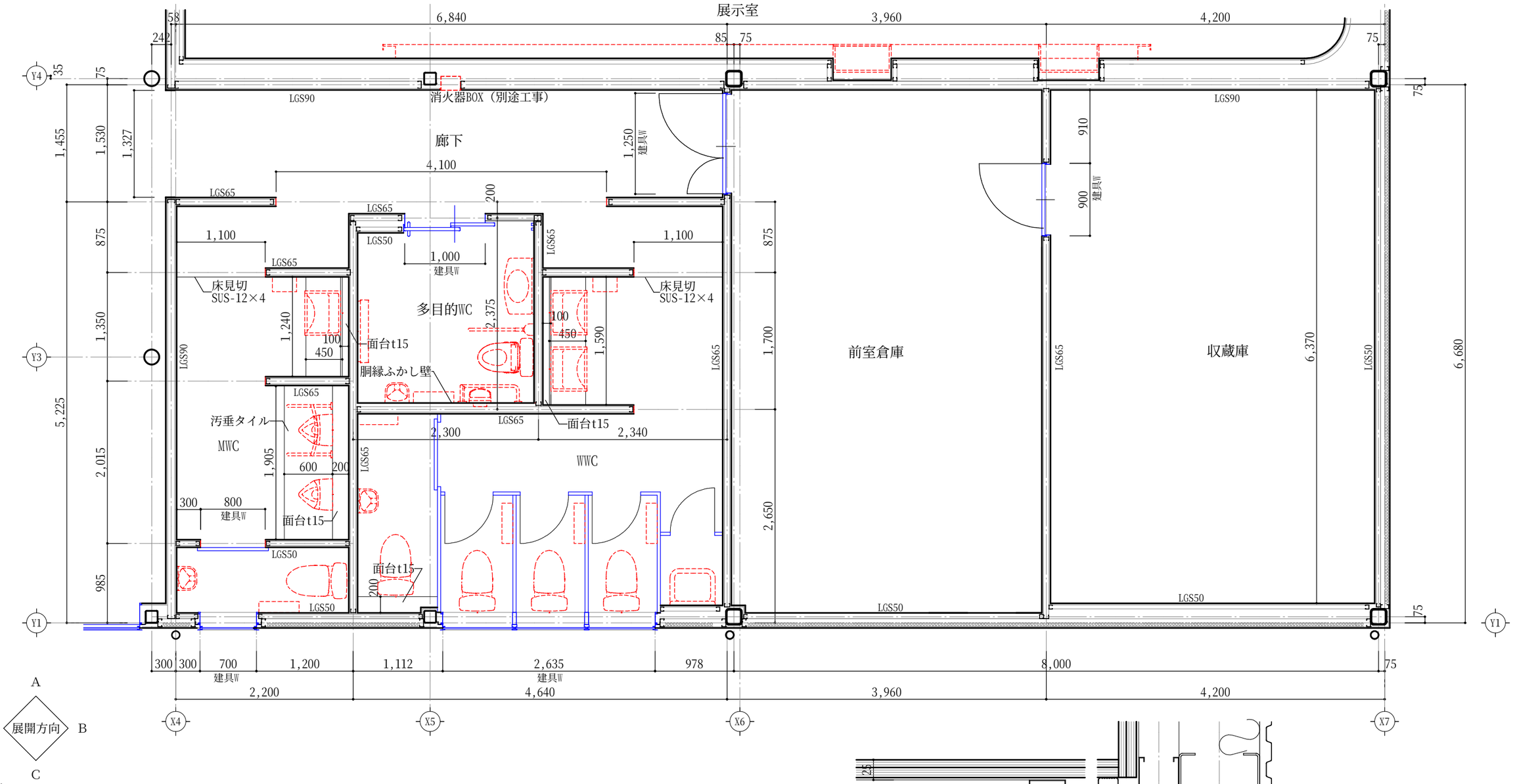
有限会社 環境計画建築研究所 DESIGN ENVIRONMENTAL	1級建築士事務所登録１５７２号 1級建築士登録６２４５６号 矢田和弘			工事名	永井隆記念館施設整備事業 永井隆記念館建設（建築主体）工事	図面名 断面詳細図 4	縮尺 1/50	図番 A-16



有限会社 環境計画建築研究所 DESIGN ENVIRONMENTAL	1級建築士事務所登録1572号 1級建築士登録62456号 矢田和弘		工事名	永井隆記念館施設整備事業 永井隆記念館建設（建築主体）工事	図面名 断面詳細図 5	縮尺 1/50	図番 A-17



有限会社 環境計画建築研究所 DESIGN ENVIRONMENTAL	1級建築士事務所登録１５７２号 1級建築士登録６２４５６号 矢田和弘			工事名	永井隆記念館施設整備事業 永井隆記念館建設（建築主体）工事	図面名 平面詳細図 1	縮尺 1/50	図番 A-18

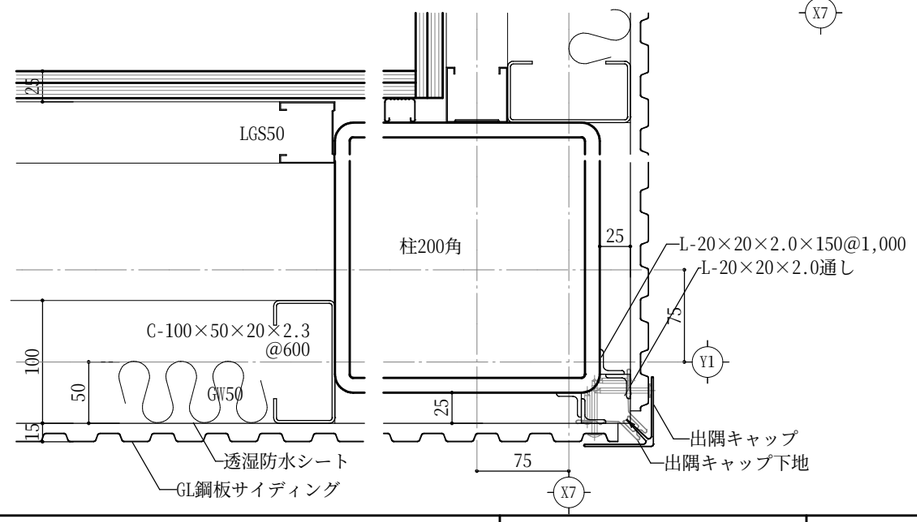


特記事項

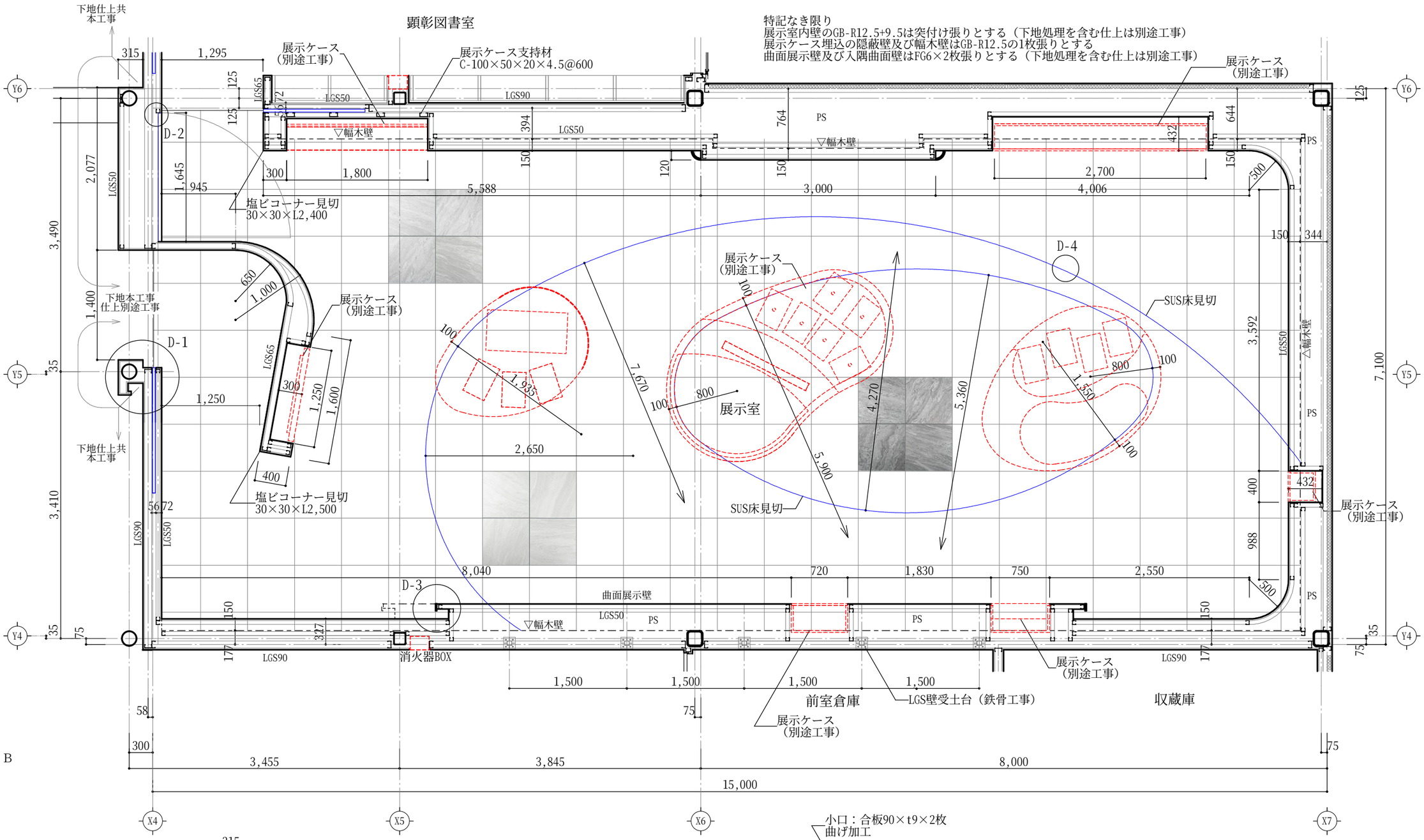
+○○○はZ2からの高さを示す

平面詳細図
S=1/5

外壁出入隅、端部、開口部廻り等は
防水パッキン、防水テープ、シーリング
で止水処理する

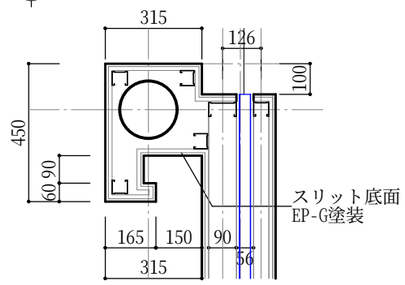


有限会社 環境計画建築研究所 DESIGN ENVIRONMENTAL	1級建築士事務所登録１５７２号 1級建築士登録６２４５６号 矢田和弘		工事名	永井隆記念館施設整備事業 永井隆記念館建設（建築主体）工事	図面名 平面詳細図 2	縮尺 1/50	図番 A-19

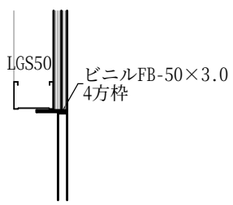


特記事項

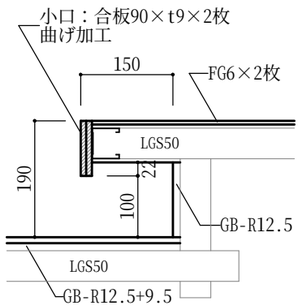
+○○○はZ2からの高さを示す



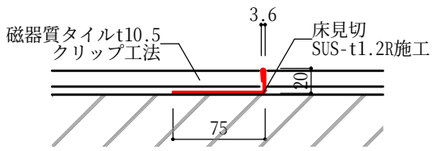
D-1詳細図
S=1/20



D-2詳細図
S=1/10



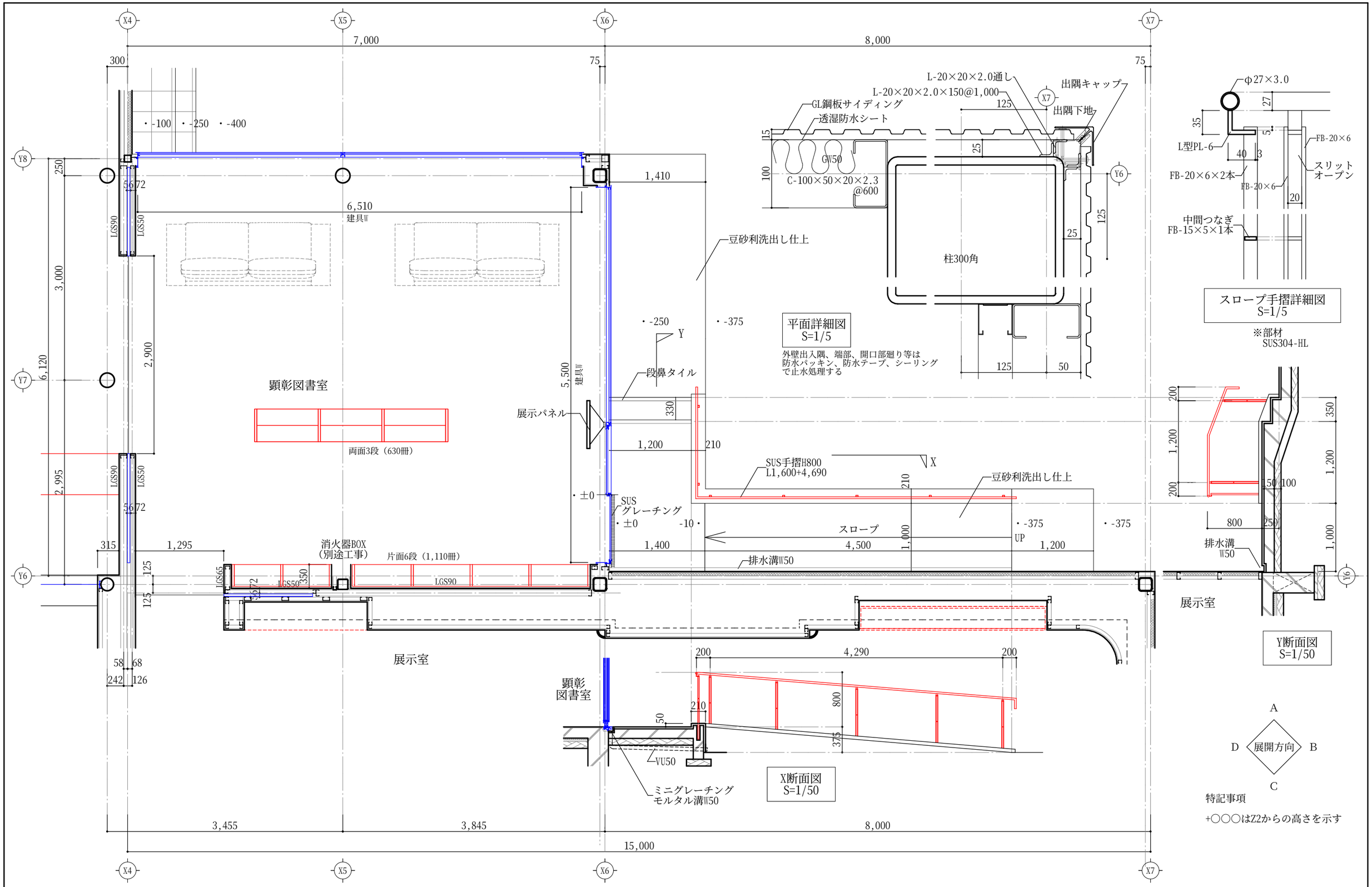
D-3詳細図
S=1/10



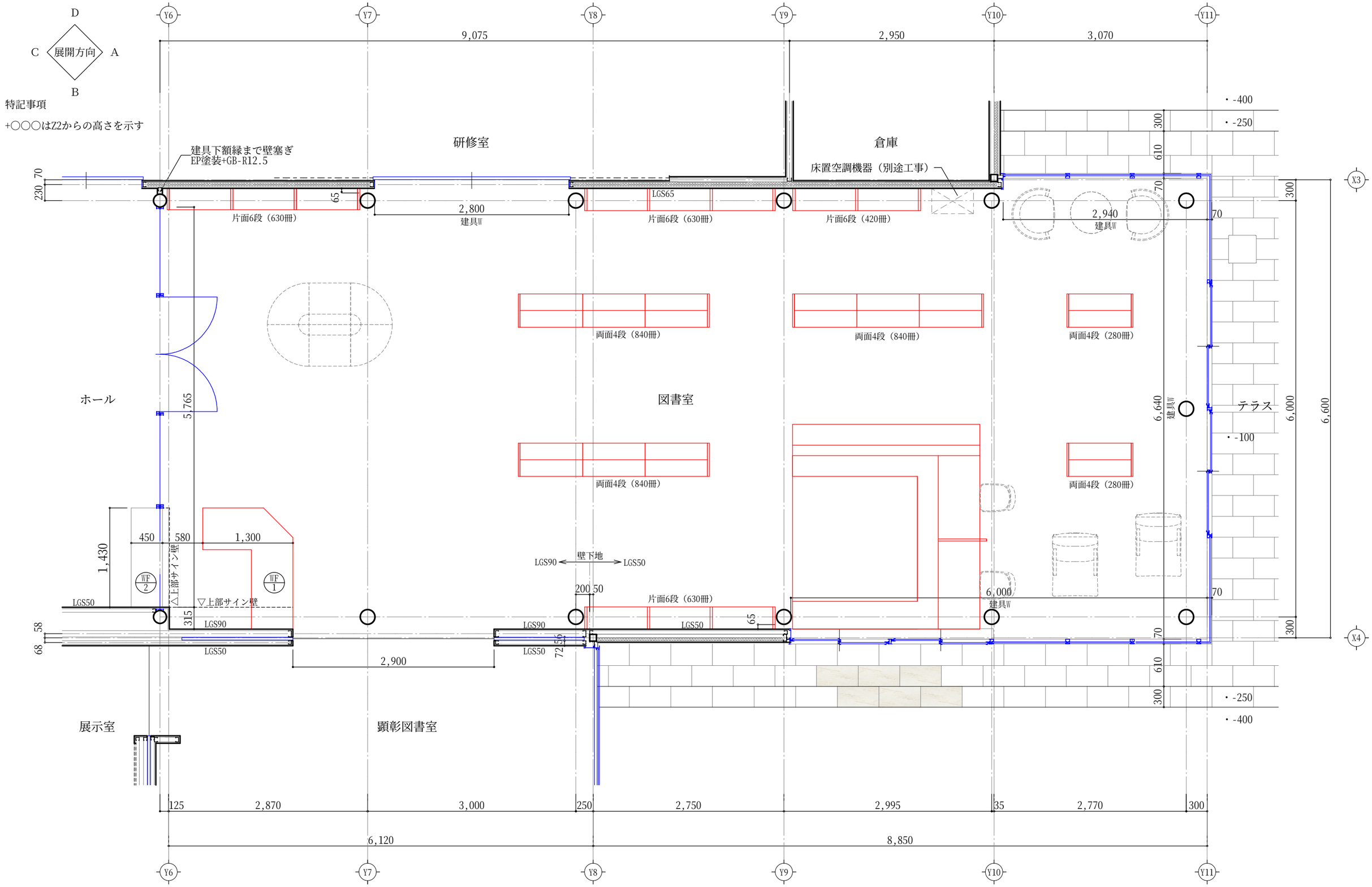
床見切及びタイルのR加工は元請業者が現寸型紙を各専門業者に支給の上、丁寧に施工する。
またタイルは金物との取合い精度を確保すること。

D-4詳細図
S=1/5

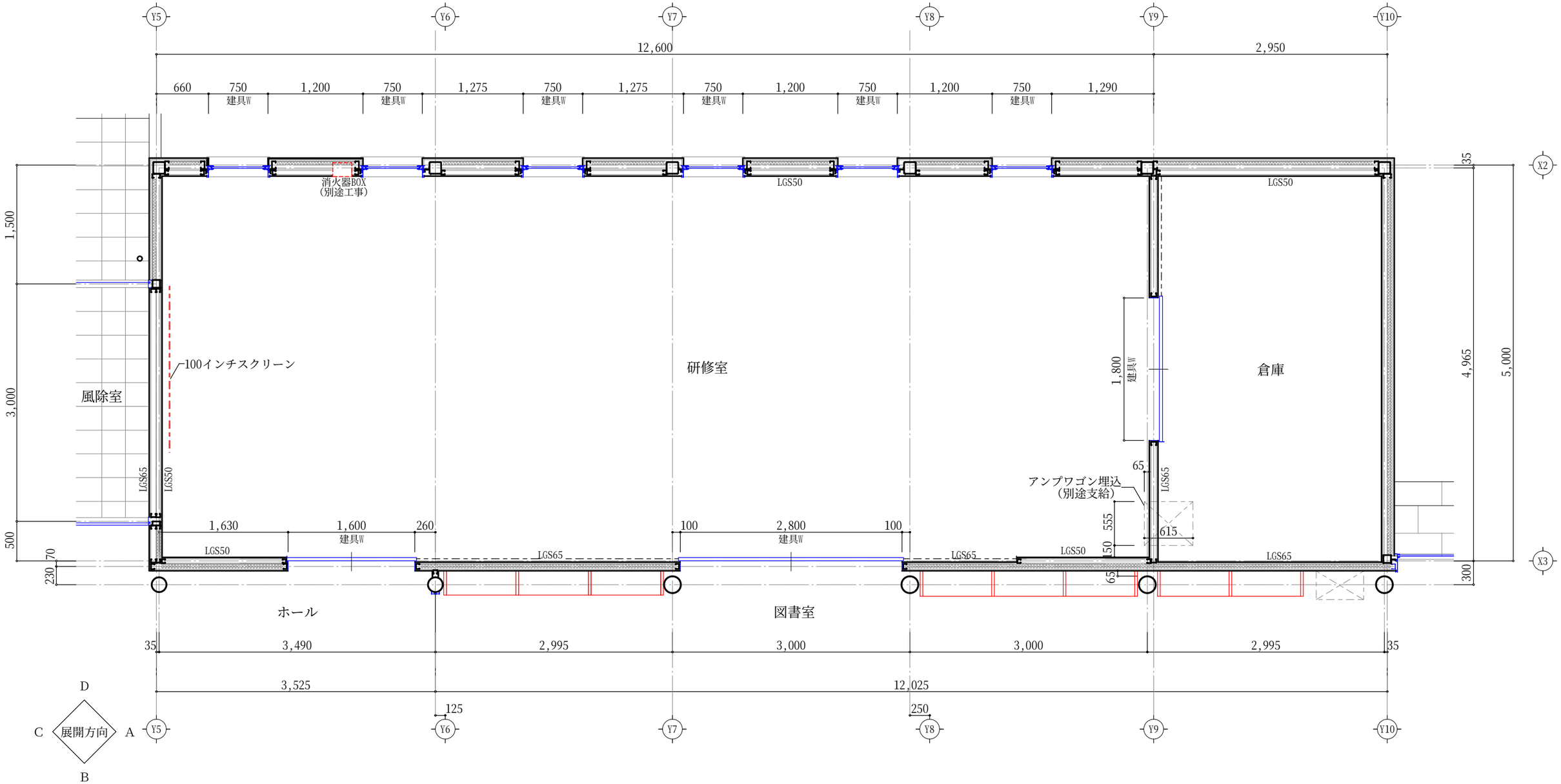
有限会社 環境計画建築研究所 DESIGN ENVIRONMENTAL	1級建築士事務所登録1572号 1級建築士登録62456号 矢田和弘		工事名	永井隆記念館施設整備事業 永井隆記念館建設（建築主体）工事	図面名	平面詳細図 3	縮尺 1/50	図番 A-20



有限会社 環境計画建築研究所 DESIGN ENVIRONMENTAL	1級建築士事務所登録１５７２号 1級建築士登録６２４５６号 矢田和弘			工事名	永井隆記念館施設整備事業 永井隆記念館建設（建築主体）工事	図面名	平面詳細図 4
縮尺	1/50	図番	A-21				



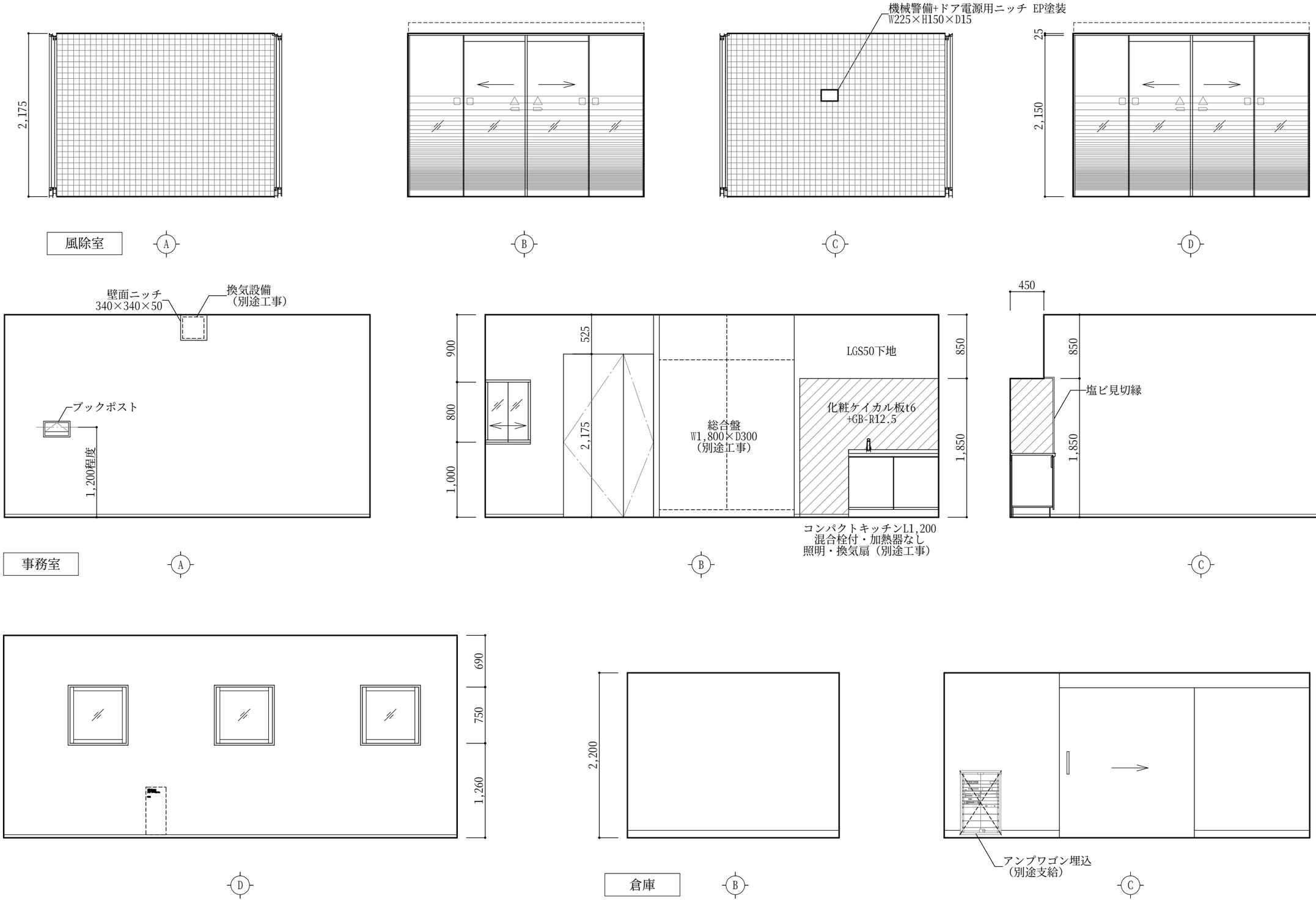
有限会社 環境計画建築研究所 DESIGN ENVIRONMENTAL	1級建築士事務所登録１５７２号 1級建築士登録６２４５６号 矢田和弘			工事名	永井隆記念館施設整備事業 永井隆記念館建設（建築主体）工事	図面名 平面詳細図 5	縮尺 1/50	図番 A-22



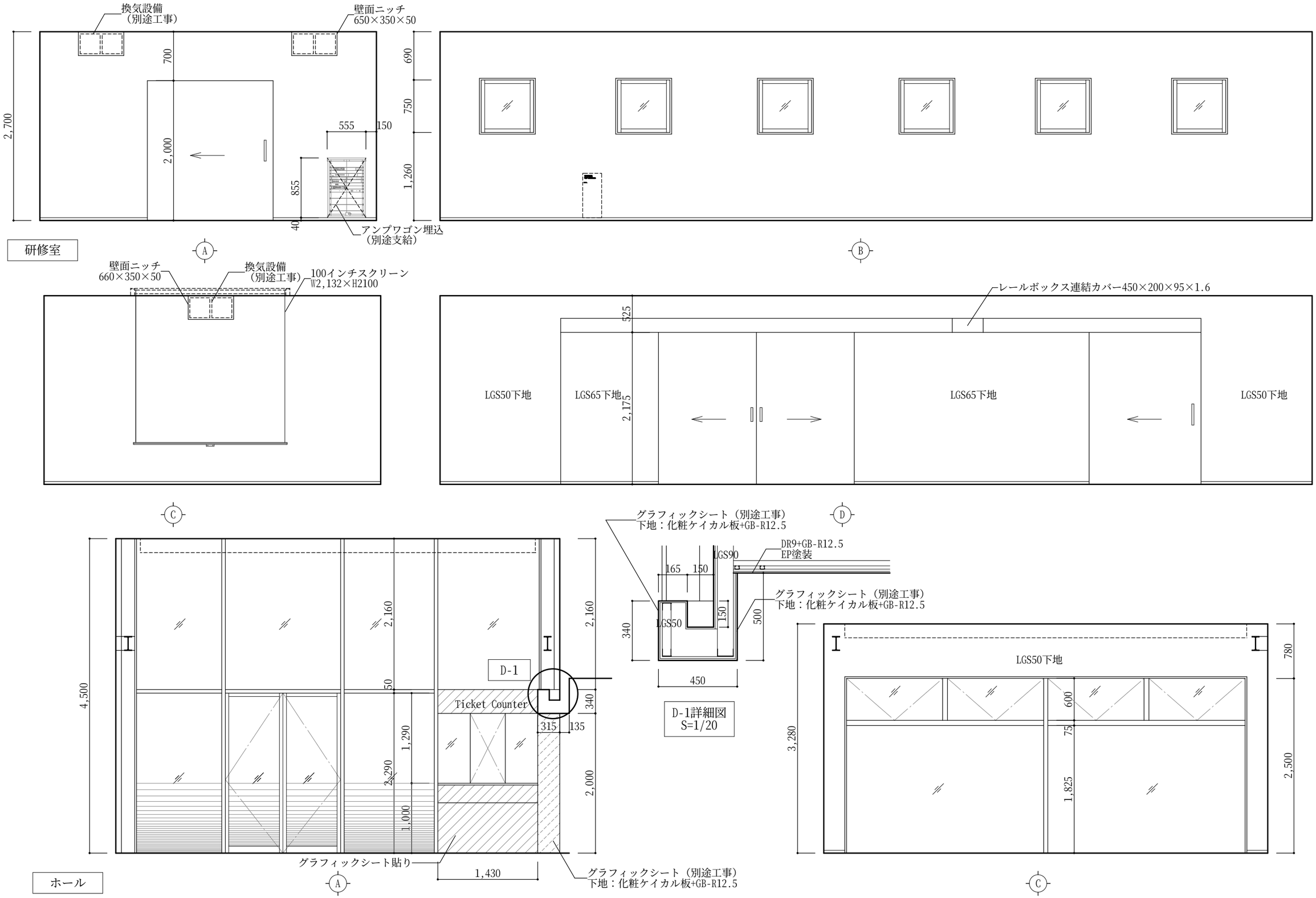
特記事項

+○○○はZ2からの高さを示す

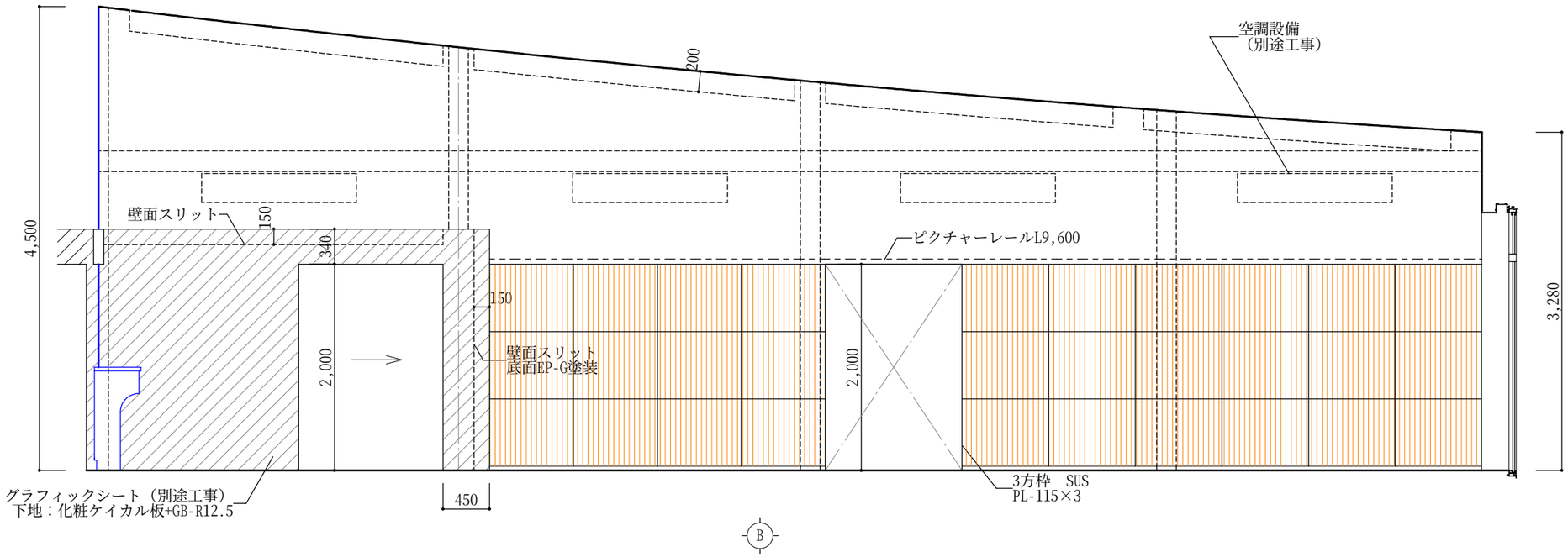
有限会社 環境計画建築研究所 DESIGN ENVIRONMENTAL	1級建築士事務所登録１５７２号 1級建築士登録６２４５６号 矢田和弘			工事名	永井隆記念館施設整備事業 永井隆記念館建設（建築主体）工事	図面名	平面詳細図 6
縮尺	1/50	図番	A-23				

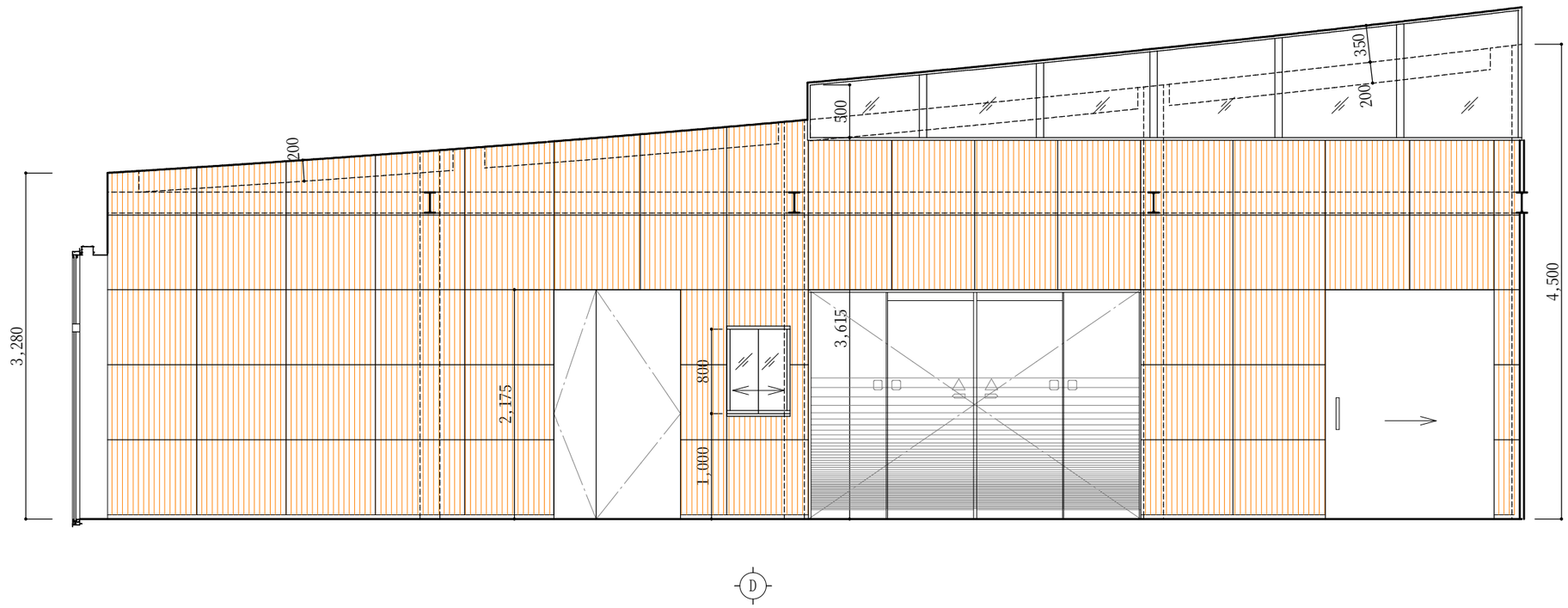


有限会社 環境計画建築研究所 DESIGN ENVIRONMENTAL	1級建築士事務所登録1572号 1級建築士登録62456号 矢田和弘		工事名	永井隆記念館施設整備事業 永井隆記念館建設（建築主体）工事	図面名	展開図 1	縮尺 1/50	図番 A-24

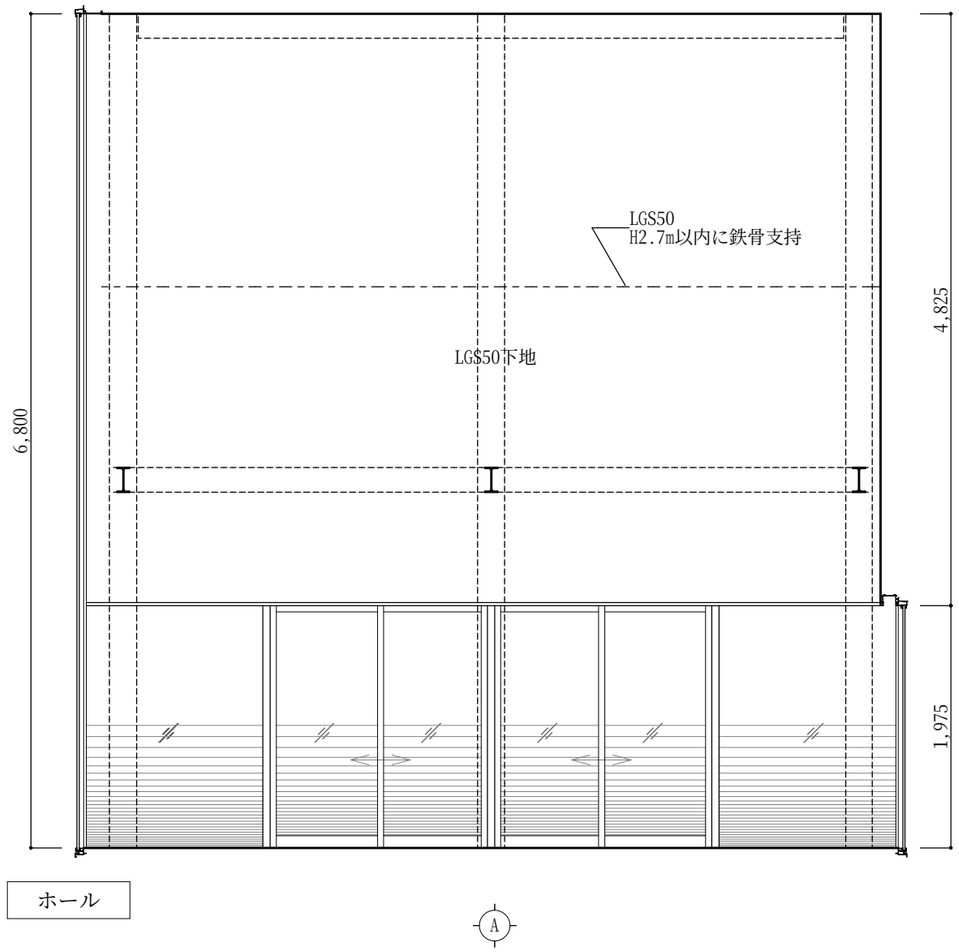


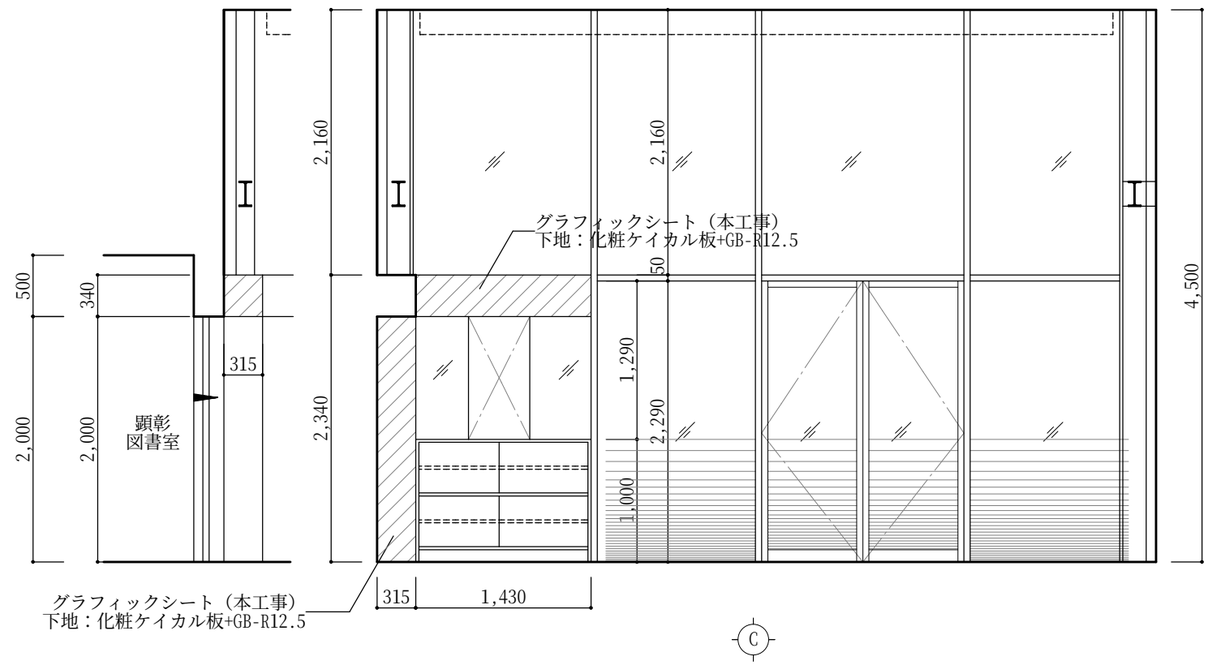
有限会社 環境計画建築研究所 DESIGN ENVIRONMENTAL	1級建築士事務所登録１５７２号 1級建築士登録６２４５６号 矢田和弘			工事名	永井隆記念館施設整備事業 永井隆記念館建設（建築主体）工事	図面名 展開図 2	縮尺 1/50	図番 A-25



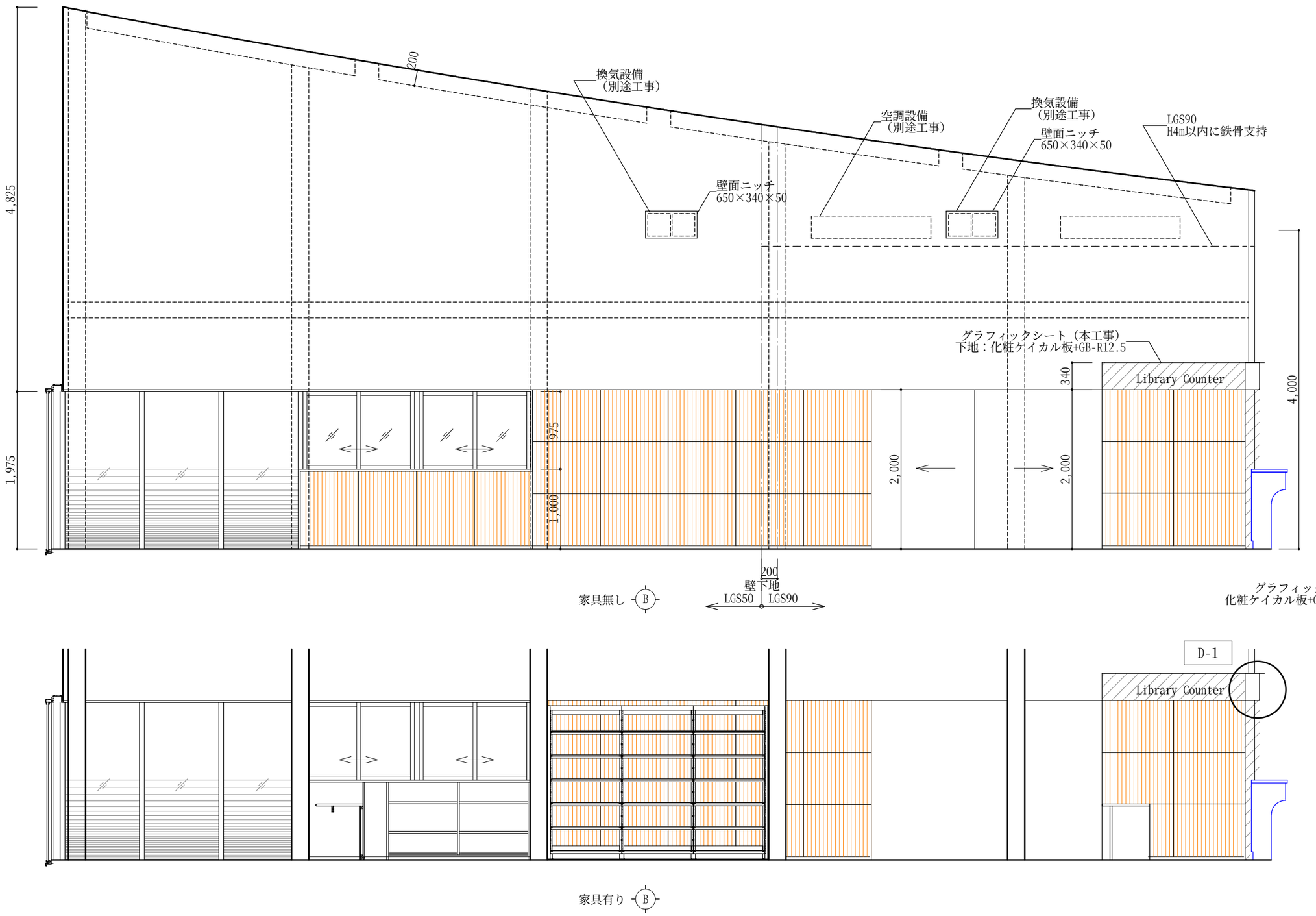


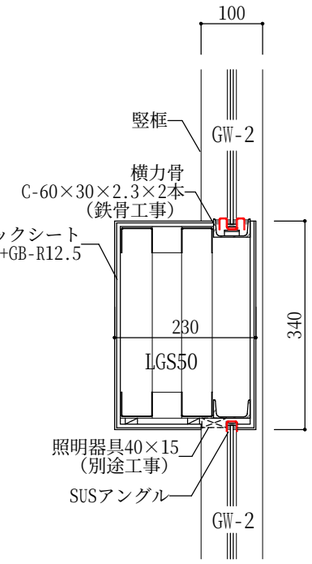
有限会社 環境計画建築研究所 DESIGN ENVIRONMENTAL	1級建築士事務所登録１５７２号 1級建築士登録６２４５６号 矢田和弘		工事名	永井隆記念館施設整備事業 永井隆記念館建設（建築主体）工事	図面名	展開図　3	縮尺 1/50	図番 A-26





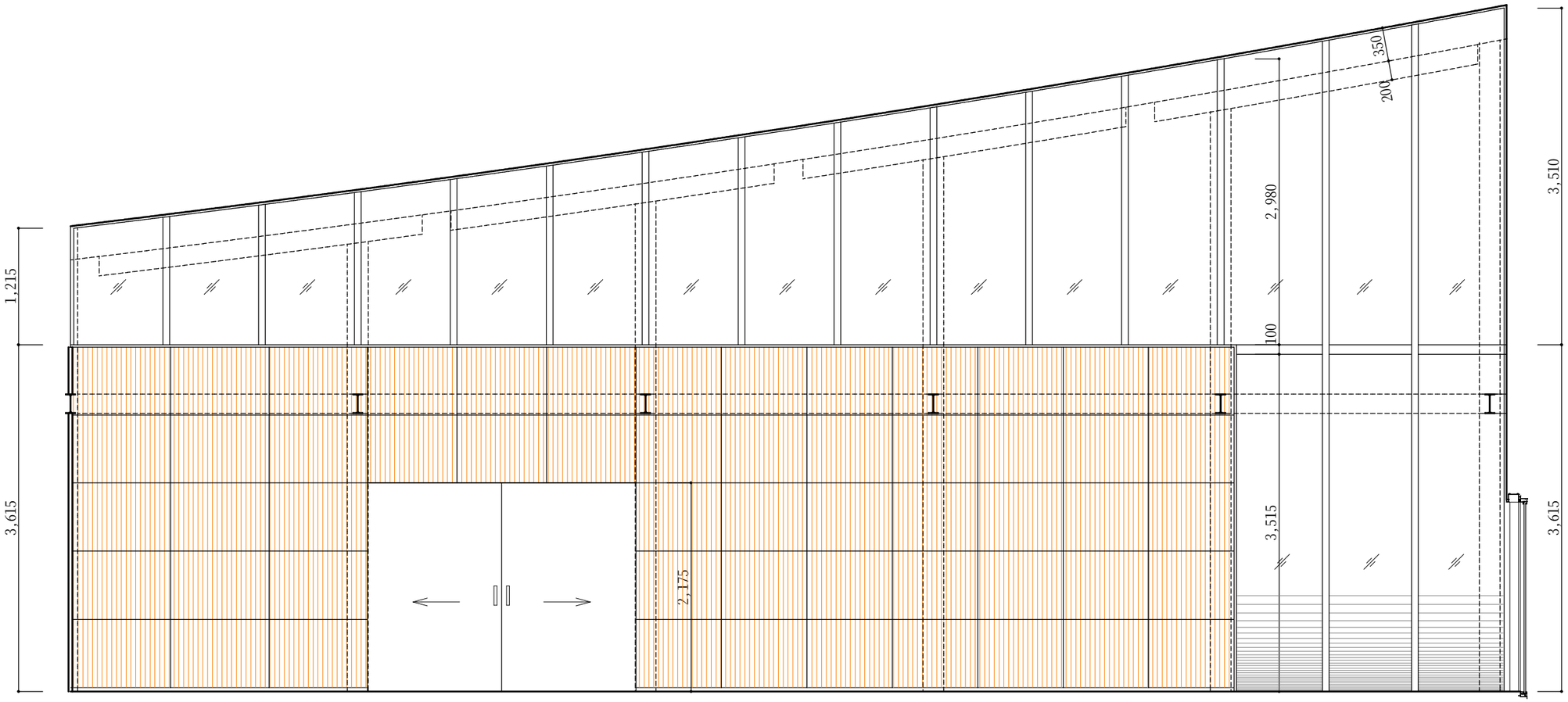
有限会社 環境計画建築研究所 DESIGN ENVIRONMENTAL	1級建築士事務所登録１５７２号 1級建築士登録６２４５６号 矢田和弘		工事名	永井隆記念館施設整備事業 永井隆記念館建設（建築主体）工事	図面名	展開図 4	縮尺 1/50	図番 A-27



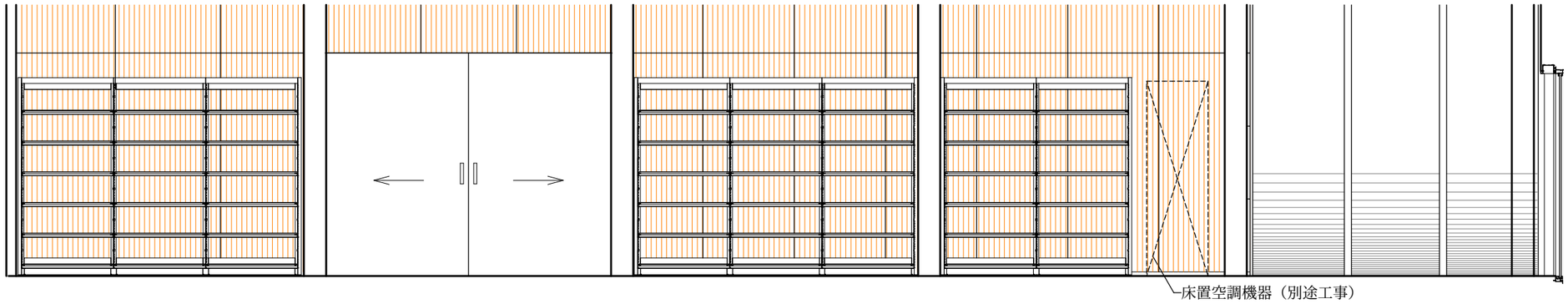


D-1詳細図
S=1/10

有限会社 環境計画建築研究所 DESIGN ENVIRONMENTAL	1級建築士事務所登録１５７２号 1級建築士登録６２４５６号 矢田和弘		工事名	永井隆記念館施設整備事業 永井隆記念館建設（建築主体）工事	図面名	展開図 5	縮尺 1/50	図番 A-28

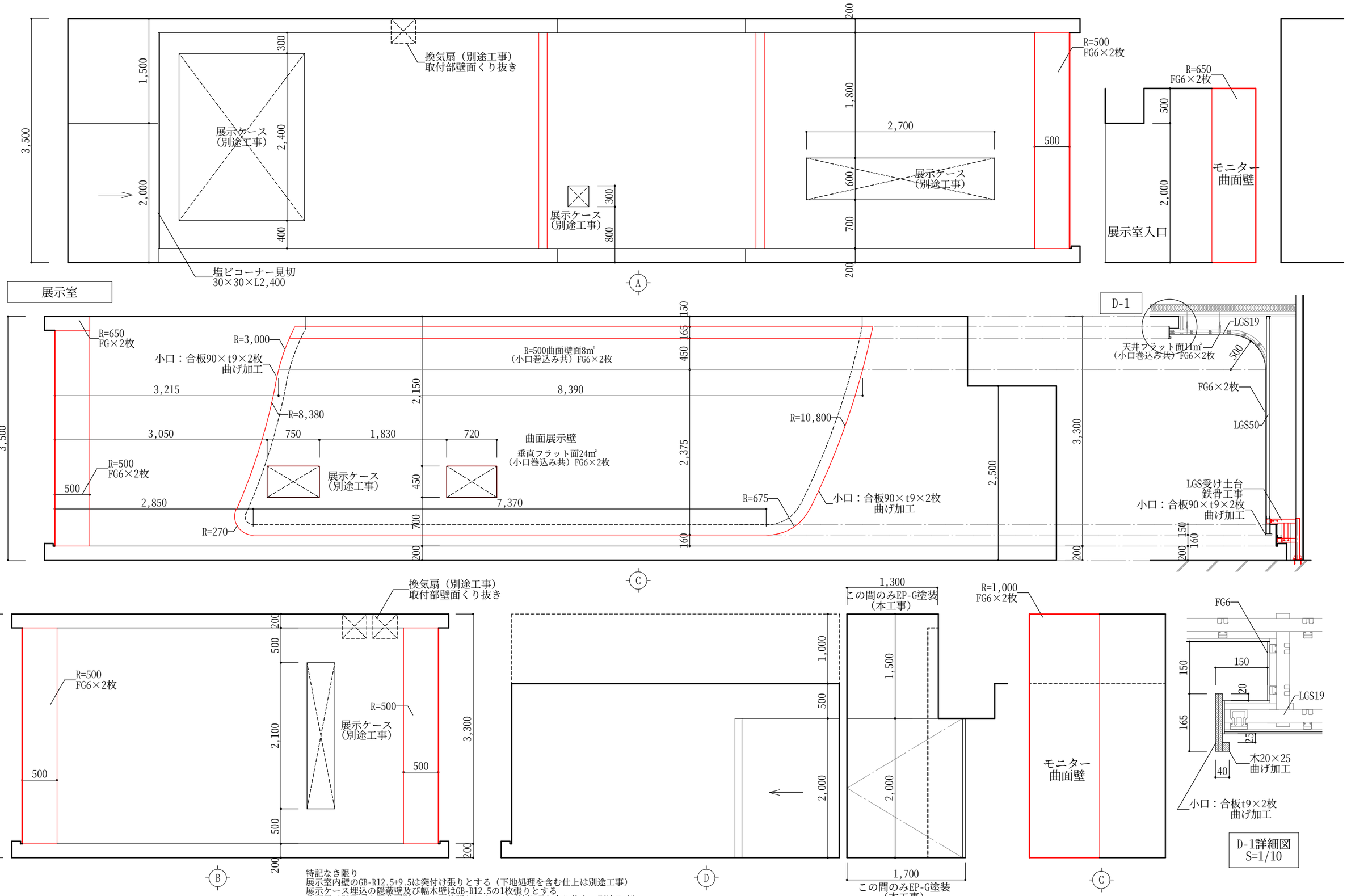


家具無し Ⓓ



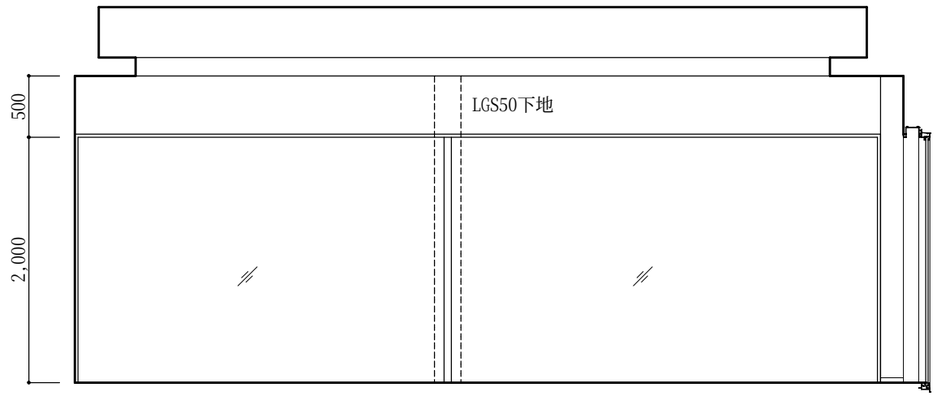
家具有り Ⓓ

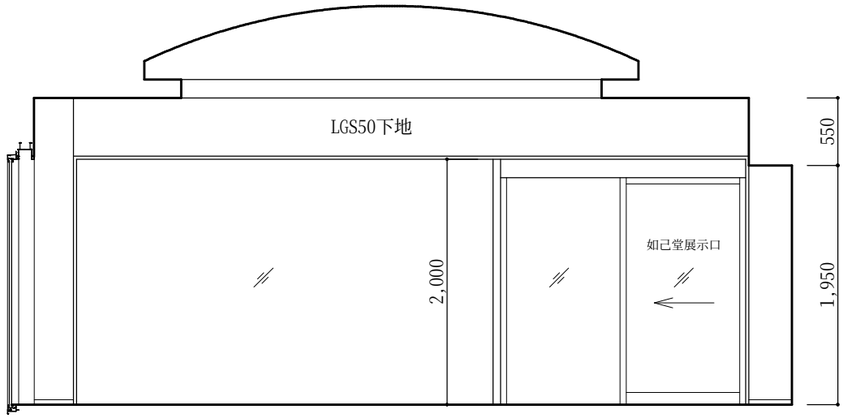
有限会社 環境計画建築研究所 DESIGN ENVIRONMENTAL	1級建築士事務所登録１５７２号 1級建築士登録６２４５６号 矢田和弘		工事名	永井隆記念館施設整備事業 永井隆記念館建設（建築主体）工事	図面名	展開図 6	縮尺 1/50	図番 A-29



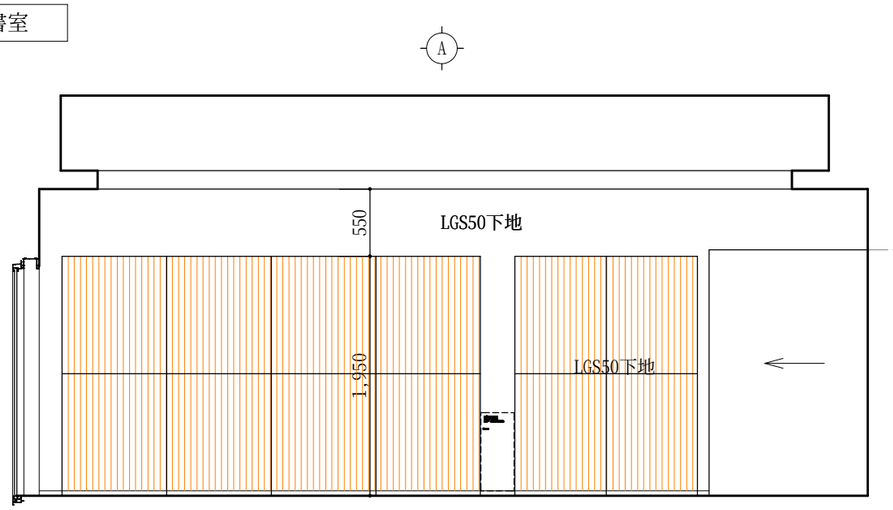
特記なき限り
展示室内壁のGB-R12.5+9.5は突付け張りとする（下地処理を含む仕上は別途工事）
展示ケース埋込の隠蔽壁及び幅木壁はGB-R12.5の1枚張りとする
曲面展示壁及び入隅曲面壁はFG6×2枚張りとする（下地処理を含む仕上は別途工事）

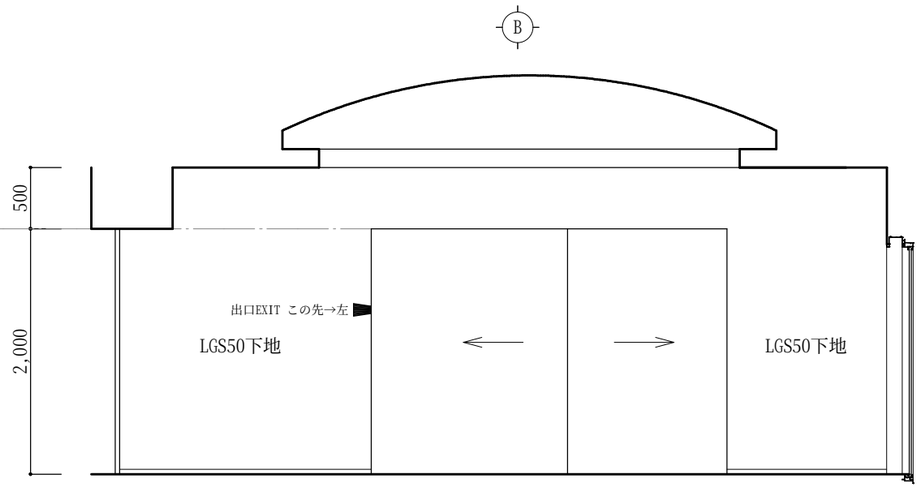
有限会社 環境計画建築研究所 DESIGN ENVIRONMENTAL	1級建築士事務所登録１５７２号 1級建築士登録６２４５６号 矢田和弘		工事名	永井隆記念館施設整備事業 永井隆記念館建設（建築主体）工事	図面名	展開図 7	縮尺 1/50	図番 A-30





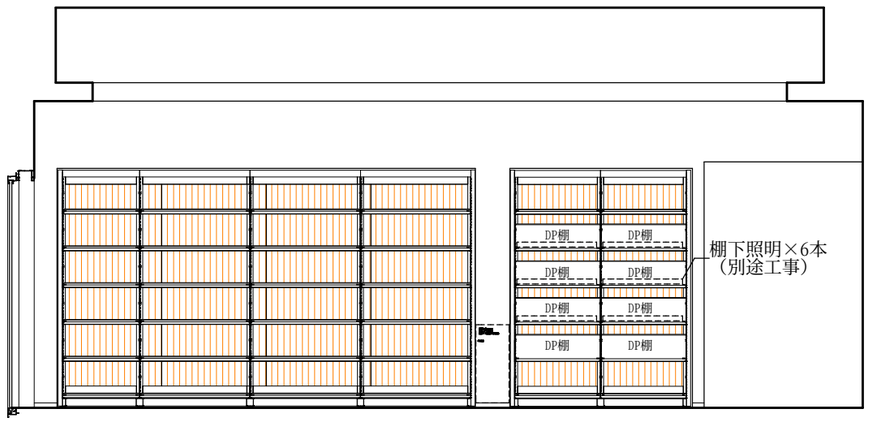
顕彰図書室





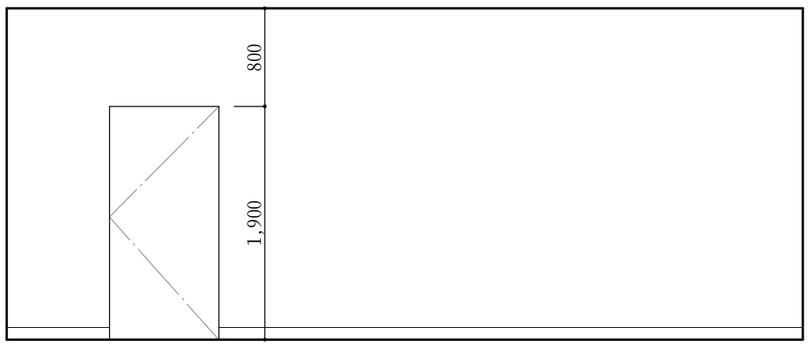
家具無し C

D



家具有り C

有限会社 環境計画建築研究所 DESIGN ENVIRONMENTAL	1級建築士事務所登録１５７２号 1級建築士登録６２４５６号 矢田和弘		工事名	永井隆記念館施設整備事業 永井隆記念館建設（建築主体）工事	図面名	展開図 8	縮尺 1/50	図番 A-31

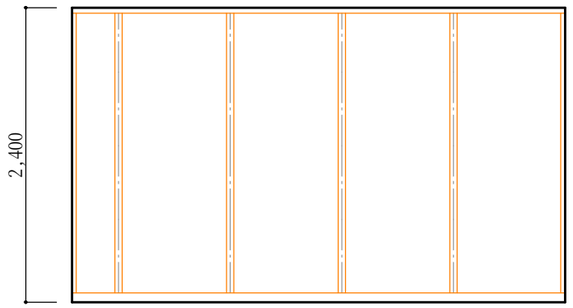


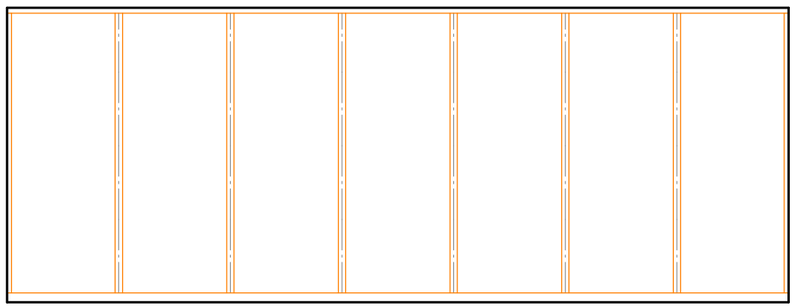
前室倉庫

A C

B

D



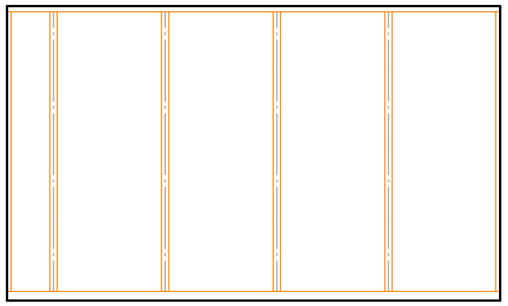


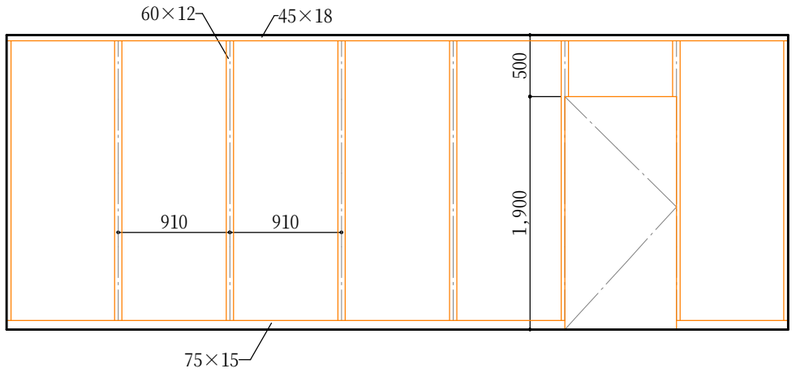
収蔵庫

A

B

収蔵庫内　幅木・廻り縁・壁押え縁：スプルース素地
収蔵庫内装工事は一般内装業者の施工とする。

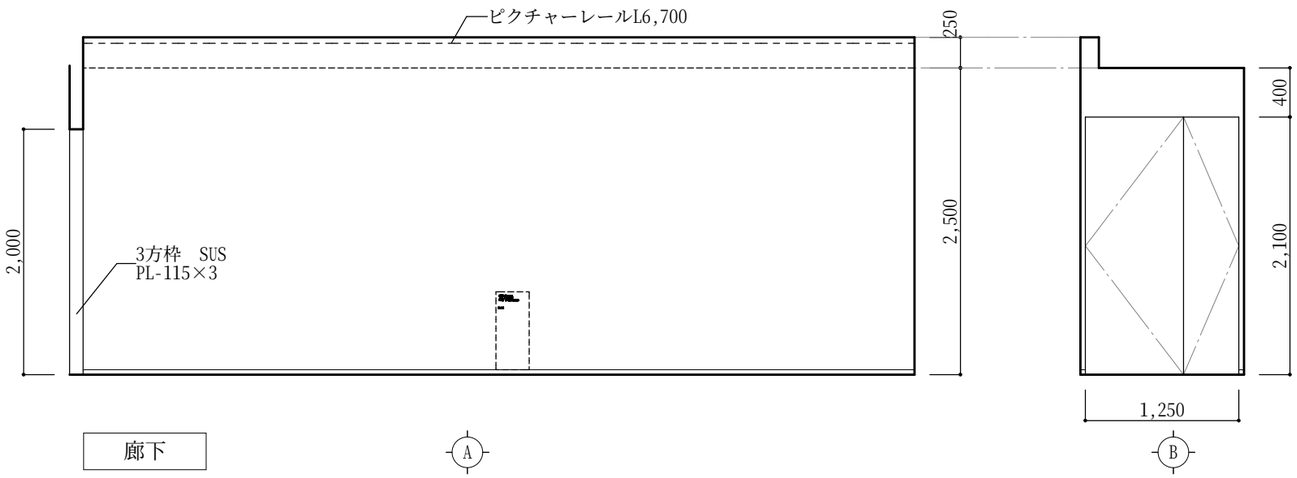


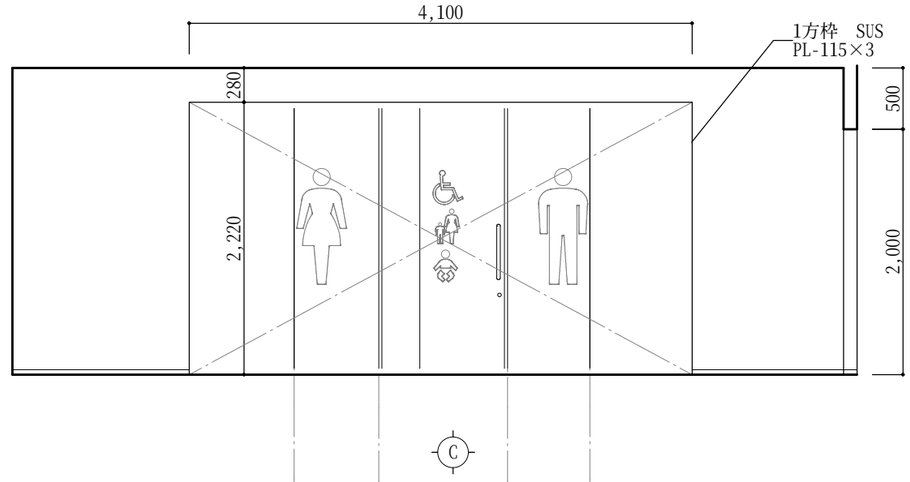


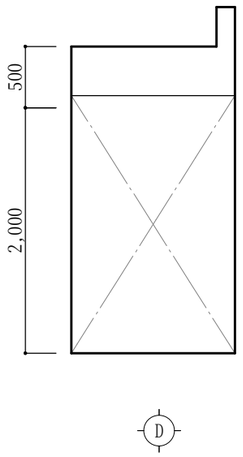
C

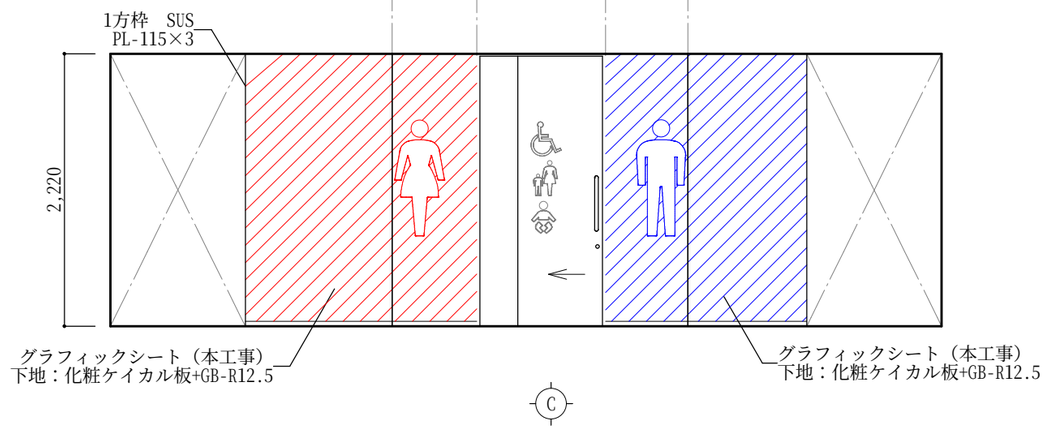
D

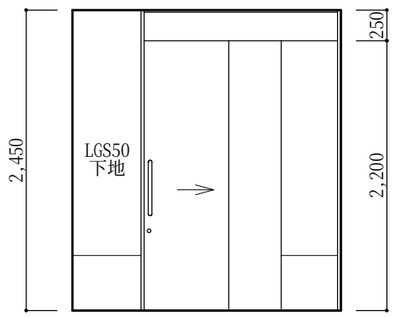
有限会社 環境計画建築研究所 DESIGN ENVIRONMENTAL	1級建築士事務所登録１５７２号 1級建築士登録６２４５６号 矢田和弘		工事名	永井隆記念館施設整備事業 永井隆記念館建設（建築主体）工事	図面名	展開図　9	縮尺 1/50	図番 A-32

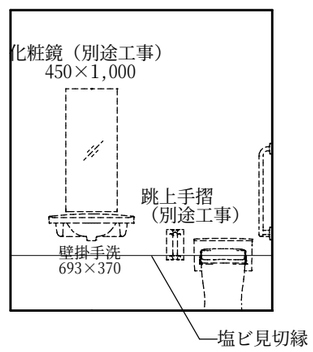


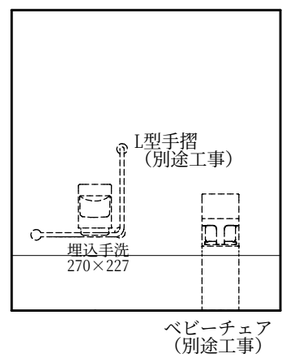


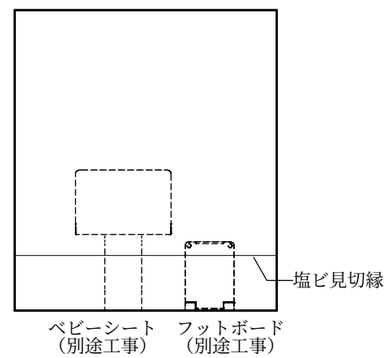




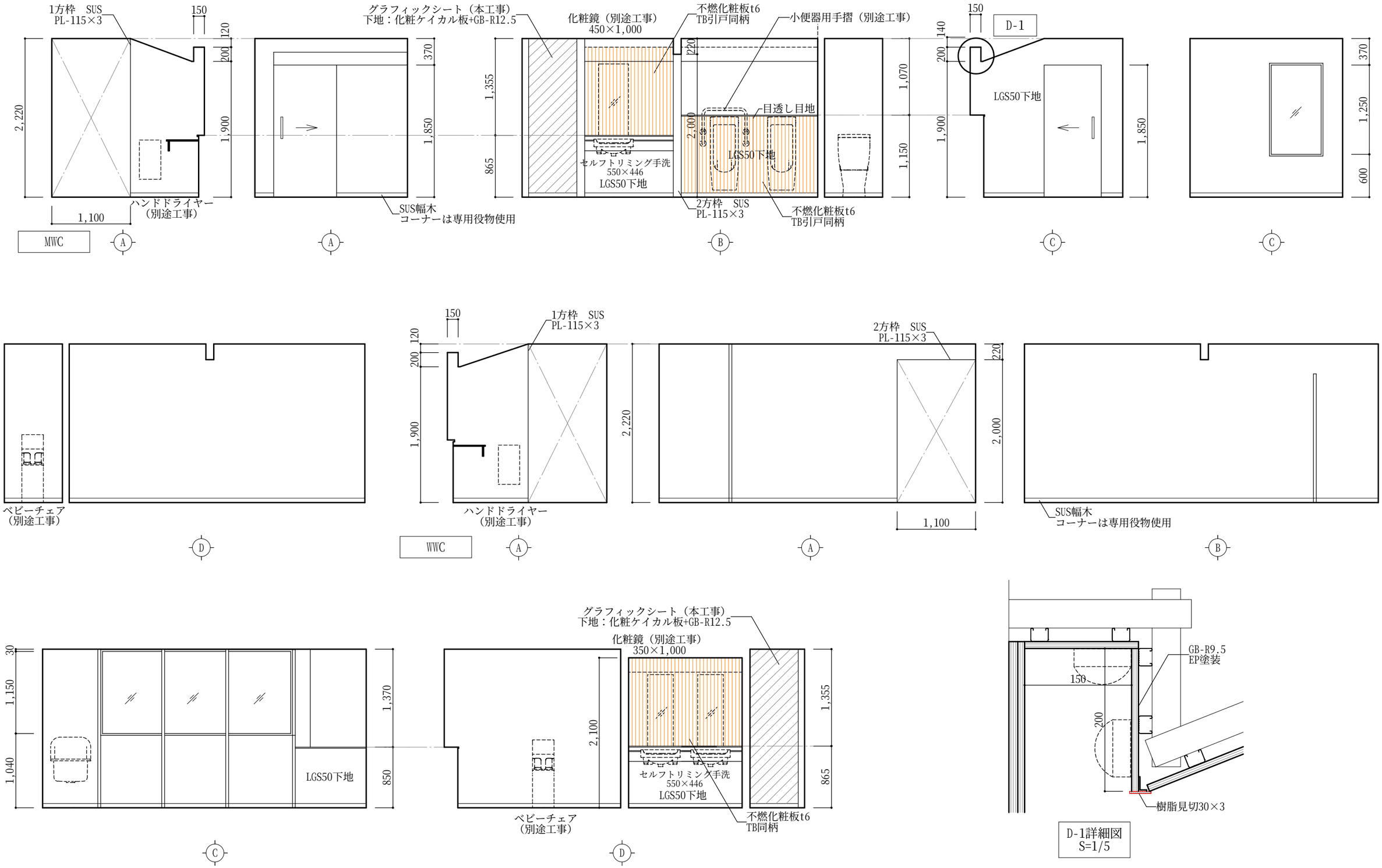




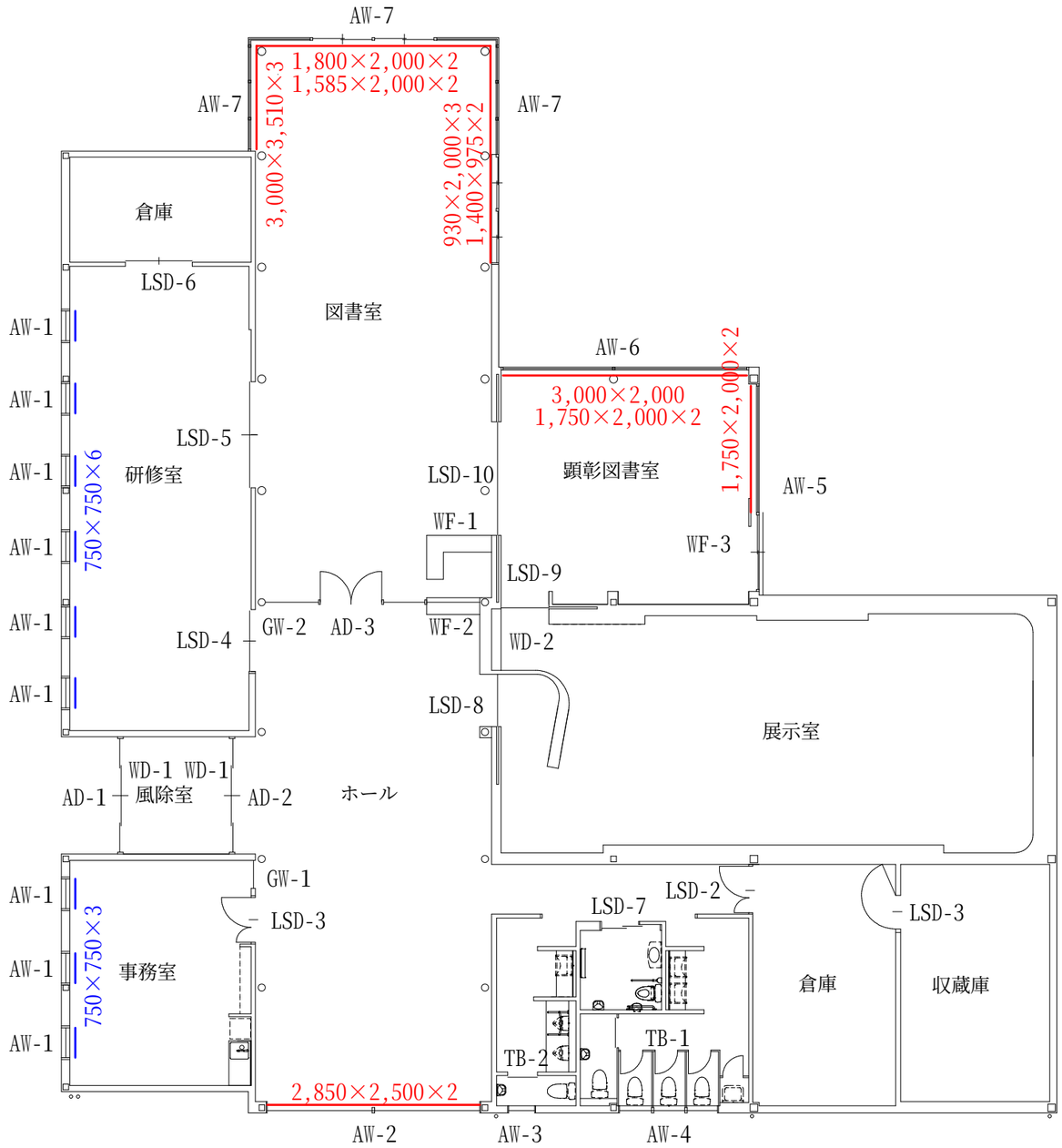




有限会社 環境計画建築研究所 DESIGN ENVIRONMENTAL	1級建築士事務所登録１５７２号 1級建築士登録６２４５６号 矢田和弘		工事名	永井隆記念館施設整備事業 永井隆記念館建設（建築主体）工事	図面名	展開図　10	縮尺 1/50	図番 A-33



有限会社 環境計画建築研究所 DESIGN ENVIRONMENTAL	1級建築士事務所登録１５７２号 1級建築士登録６２４５６号 矢田和弘			工事名	永井隆記念館施設整備事業 永井隆記念館建設（建築主体）工事	図面名	展開図　11	縮尺	1/50 1/5	図番	A-34



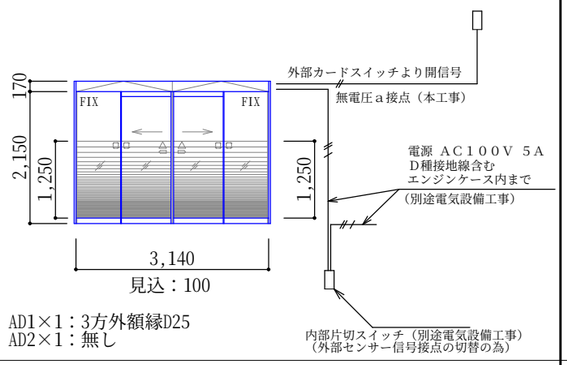
青線はブラインドを示す
幅×高さ×数量

赤線はロールクスリーンを示す
幅×高さ×数量

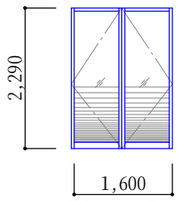
グラデーションFILM（住友3Mファサラ同等品）
PET基材厚50μm

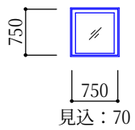
有限会社 環境計画建築研究所 DESIGN ENVIRONMENTAL	1級建築士事務所登録1572号 1級建築士登録62456号 矢田和弘		工事名	永井隆記念館施設整備事業 永井隆記念館建設（建築主体）工事	図面名	建具・家具 キープラン	縮尺 1/150	図番 A-35

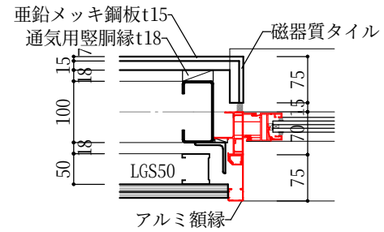
名称・数量	AD 1 / AD 2　極細アルミフレーム引分け自動ドア　×　各1カ所	AD 3　室内用両開框戸（枠別）　×　1カ所	AW 1　滑り出し窓　×　9カ所
材料仕上	アルミ着色B　ブラック	アルミ　指定色焼付塗装	アルミ着色B　ブラック　額縁ホワイト
ガラス	強化透明t6・グラデーションFILM（住友3Mファサラ同等品）	強化透明t6・グラデーションFILM	Low-E3+A6+FL3（AGCブルーグレイ同等品）
金物等	自動ドア装置一式・AD1：電気錠・カードキー（5枚）	ドアハンドルL1,200・ピボットヒンジ・DC・フランス落し	水切・アルミ額縁75・網戸



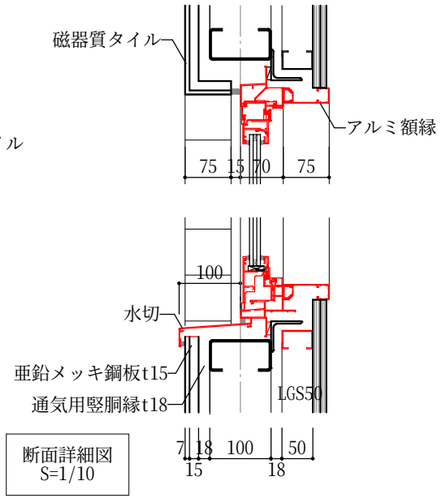
AD1×1：3方外額縁D25
AD2×1：無し





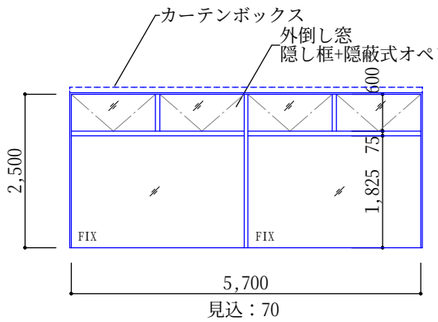


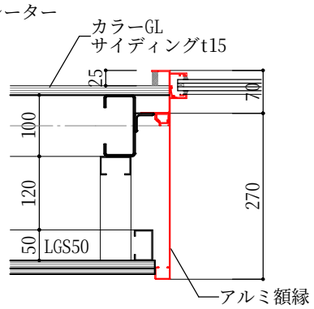
平面詳細図
S=1/10



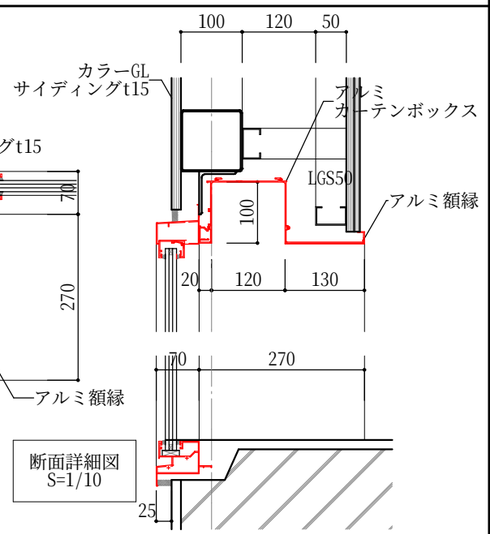
断面詳細図
S=1/10

名称・数量	AW 2　FIX連窓+排煙外倒し連窓　×　1カ所	AW 3　開閉換気口付FIX窓　×　1カ所	AW 4　開閉換気口付FIX連窓　×　1カ所
材料仕上	アルミ着色B　ブラック	アルミ着色B　ブラック　額縁ホワイト	
ガラス	Low-E6+A12+FL6　欄間Low-E3+A6+FL3	Low-E3+A6+F4	
金物等	アルミカーテンボックス・アルミ額縁270	アルミ額縁150・防虫フィルタ	

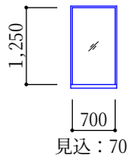


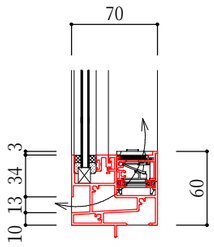


平面詳細図
S=1/10

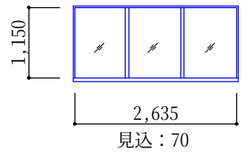


断面詳細図
S=1/10

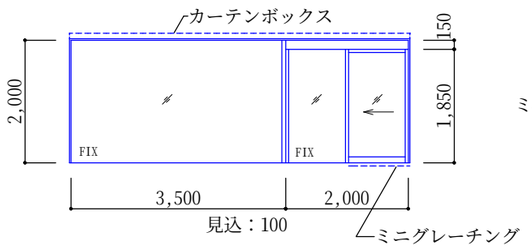




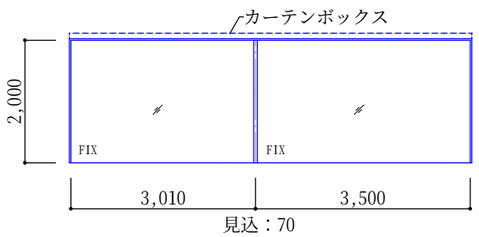
断面詳細図
S=1/5

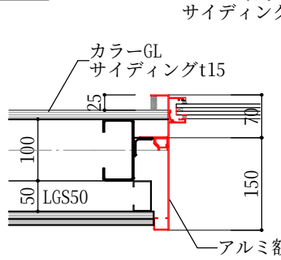


名称・数量	AW 5　FIX窓+上吊片引き戸　×　1カ所	AW 6　FIX連窓　×　1カ所
材料仕上	アルミ着色B　ブラック　CB、額縁ホワイト	
ガラス	FIX：Low-E8+A12+FL8　片引き：Low-E5+A6+FL5	Low-E8+A12+FL8
金物等	大型引手・自閉式ハンガーレール・サムターン錠・ミニグレーチング・アルミカーテンボックス・アルミ額縁150	アルミカーテンボックス・アルミ額縁150

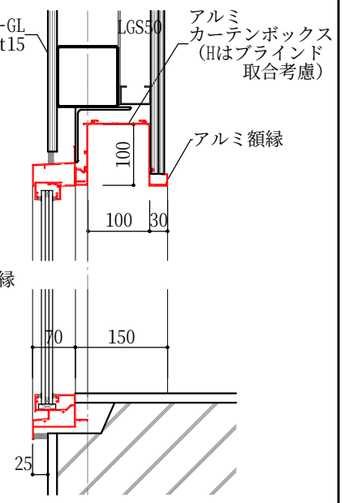


断面詳細図
S=1/10





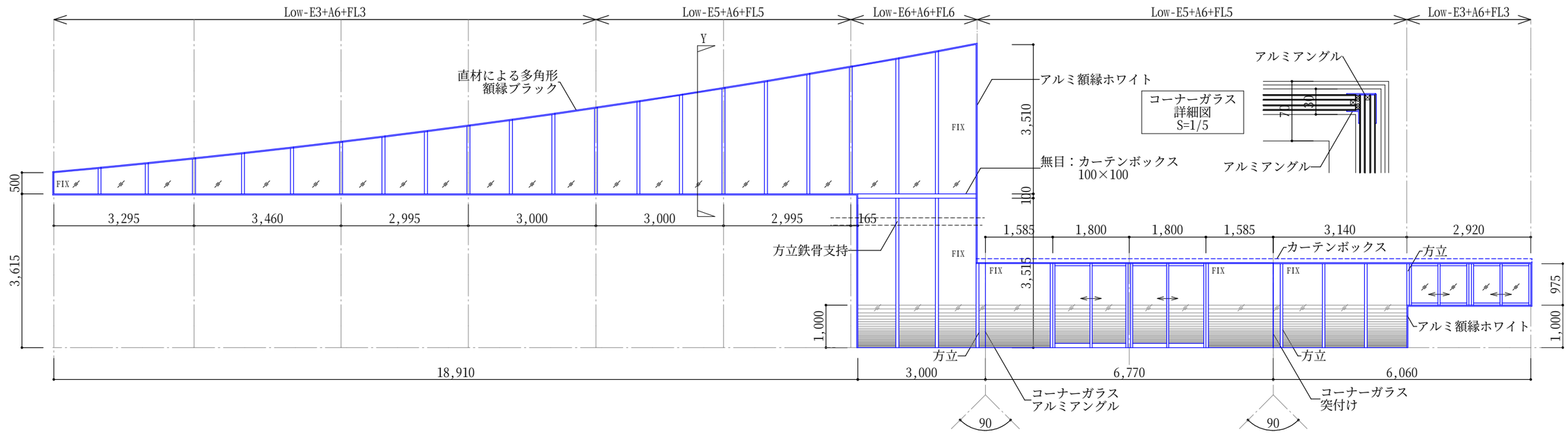
平面詳細図
S=1/10



断面詳細図
S=1/10

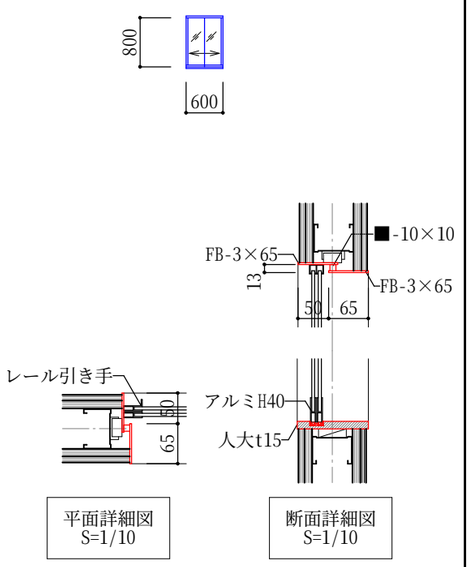
有限会社 環境計画建築研究所 DESIGN ENVIRONMENTAL	1級建築士事務所登録１５７２号 1級建築士登録６２４５６号 矢田和弘	工事名	永井隆記念館施設整備事業 永井隆記念館建設（建築主体）工事	図面名	建具表　1	縮尺 1/100	図番 A-36

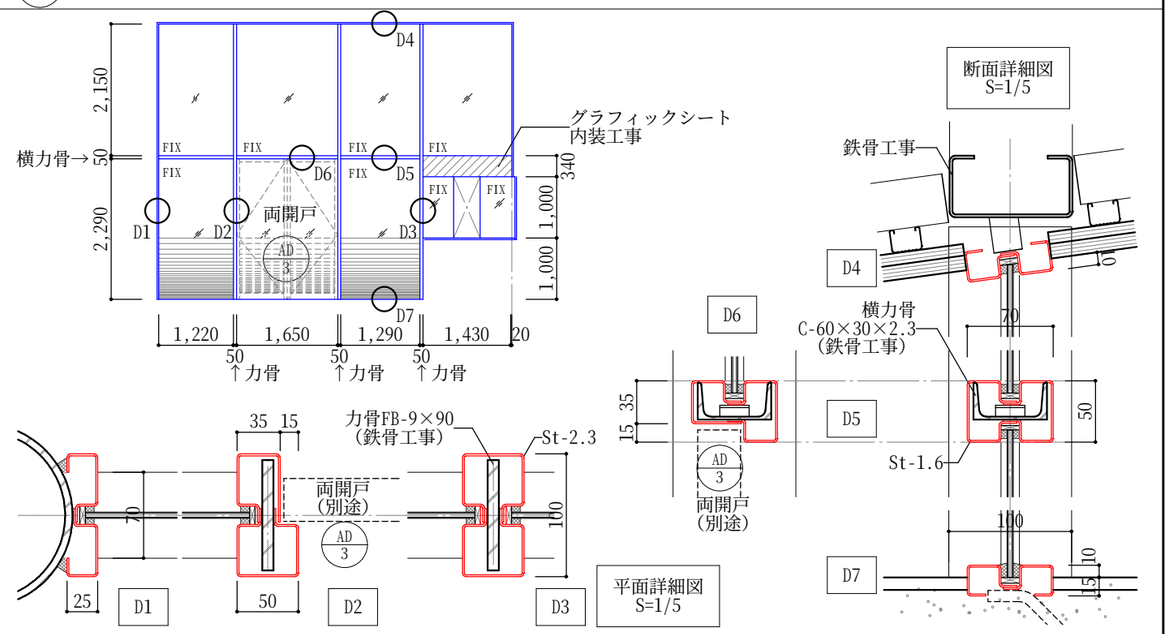
名称・数量	AW 7　FIX窓+引き違い窓+引違い戸　×　1カ所

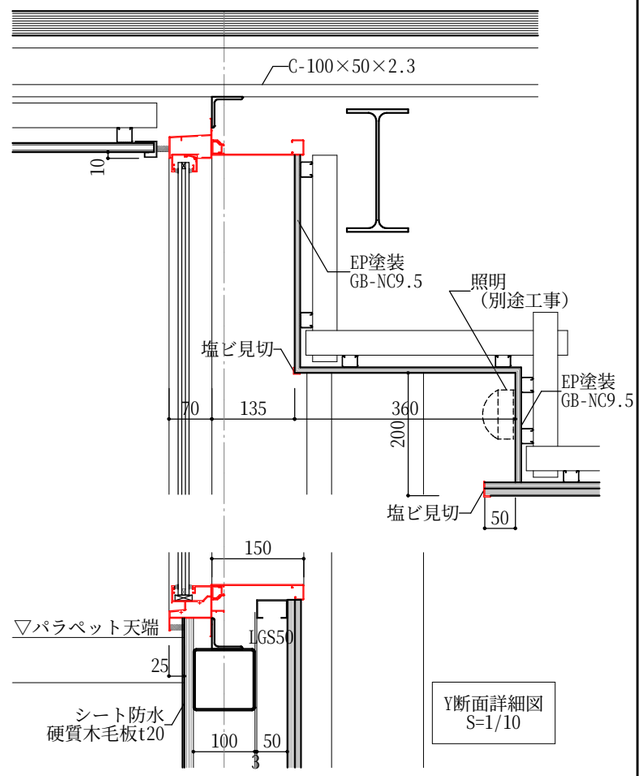


材料仕上	アルミ着色B　ブラック　額縁ホワイト
ガラス	Low-E3+A6+FL3・Low-E5+A6+FL5・Low-E6+A6+FL6・グラデーションFILM
金物等	アルミカーテンボックス・アルミ額縁150

名称・数量	GW 1　引き違い受付窓　×　1カ所	GW 2　FIX窓+引き違い受付窓+両開き戸　×　1カ所



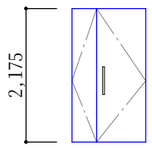
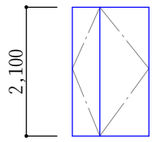
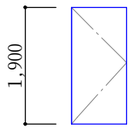
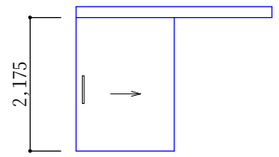


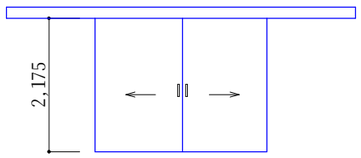
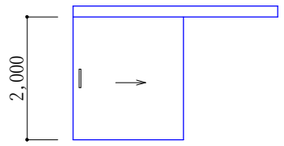
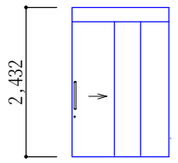


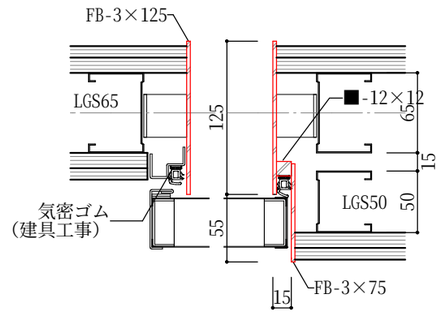
材料仕上	枠：SOP塗装	鋼製 SOP塗装、グラフィックシート
ガラス	FL5	下部：強化透明t6+グラデーションFILM　上部：線入り透明t5　受付窓：透明t5
金物等	アルミガラス用上下レール・アルミレール引き手	アルミガラス用上下レール・アルミレール引き手

有限会社 環境計画建築研究所 DESIGN ENVIRONMENTAL
1級建築士事務所登録１５７２号
1級建築士登録６２４５６号
矢田和弘

工事名	永井隆記念館施設整備事業 永井隆記念館建設（建築主体）工事	図面名	建具表　2	縮尺	1/100	図番	A-37

名称・数量	LSD 1　鋼製軽量両開き戸　×　1カ所	LSD 2　鋼製軽量両開き戸　×　1カ所	LSD 3　鋼製軽量片開き戸（セミエアタイト枠）　×　1カ所	LSD 4　鋼製軽量片引き戸（セミエアタイトT-1）　×　1カ所
	 見込：36	 見込：36	 見込：36	 見込：40
材料仕上	亜鉛メッキ鋼板t0.6　指定色塗装　芯：ペーパーコア			
ガラス				
金物等	ドアハンドルL450・シリンダー錠・DC・フランス落し・戸当り	レバーハンドル錠・DC・フランス落し・戸当り	レバーハンドル錠・DC・戸当り・沓摺A型	ドアハンドルL450・シリンダー錠・戸当り

名称・数量	LSD 5　鋼製軽量引き分け戸（セミエアタイトT-2）×　1カ所	LSD 6　鋼製軽量片引き戸　×　1カ所	LSD 7　鋼製軽量2重引込み戸　×　1カ所
	 見込：40 引き残しなし、全開口 エンドストッパー付	 見込：40	 見込：40
材料仕上	亜鉛メッキ鋼板t0.6　指定色塗装　芯：ペーパーコア		
ガラス			
金物等	掘込み引き手・サムターン錠（研修室側）・戸当り	ドアハンドルL300・シリンダー錠・戸当り	ドアハンドルL300・大型表示錠・戸当り

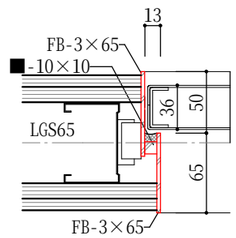


LSD4～7断面詳細図
S=1/5

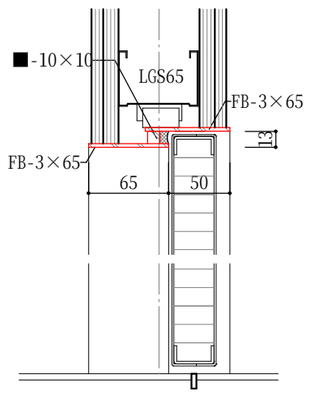
名称・数量		
材料仕上		
ガラス		
金物等		

LSD 枠廻り 詳細図

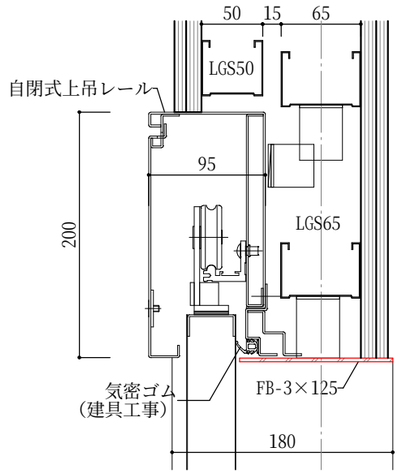
建具金物、FB枠は建具工事とする



LSD1～3平面詳細図
S=1/5

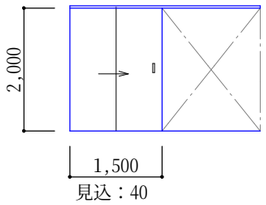
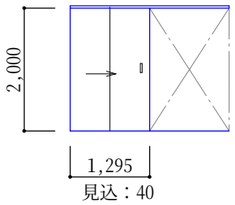
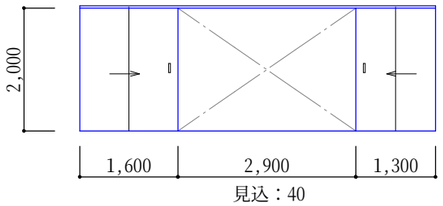


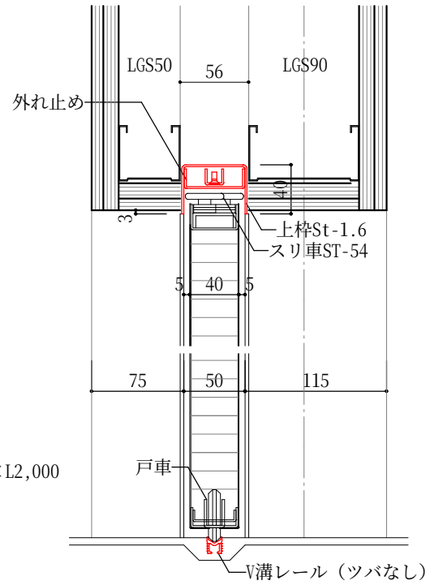
LSD1～3断面詳細図
S=1/5



LSD4～7断面詳細図
S=1/5

有限会社 環境計画建築研究所 DESIGN ENVIRONMENTAL	1級建築士事務所登録１５７２号 1級建築士登録６２４５６号 矢田和弘		工事名	永井隆記念館施設整備事業 永井隆記念館建設（建築主体）工事	図面名 建具表 3	縮尺 1/100　図番 A-38

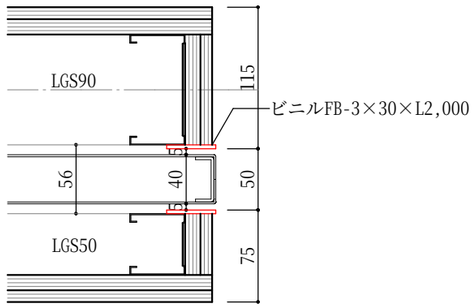
名称・数量	LSD 8　鋼製軽量片引き戸（常時開放両面戸袋）　×　1カ所	LSD 9　鋼製軽量片引き戸（常時開放両面戸袋）　×　1カ所	LSD 10　鋼製軽量片引き戸（常時開放両面戸袋）　×　1カ所
			
材料仕上	亜鉛メッキ鋼板t0.6（継目ジョイント現し可）　指定色塗装　芯：ペーパーコア		
ガラス			
金物等	上枠レール・V溝レール・スリ車・戸車・掘込み引き手・回転取手（扉木口）・フランス落し（扉木口）・戸当り		



LSD8～10断面詳細図
S=1/5

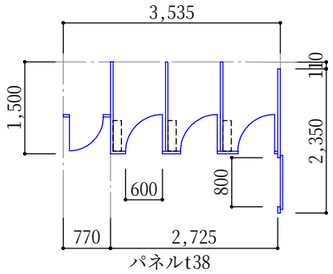
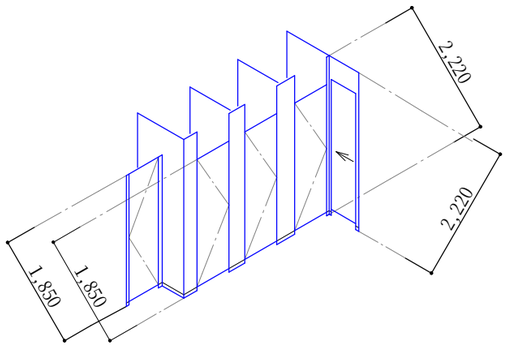
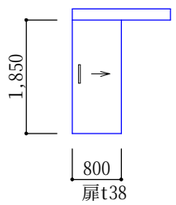
LSD 枠廻り 詳細図

建具金物除くFB枠は内装工事とする

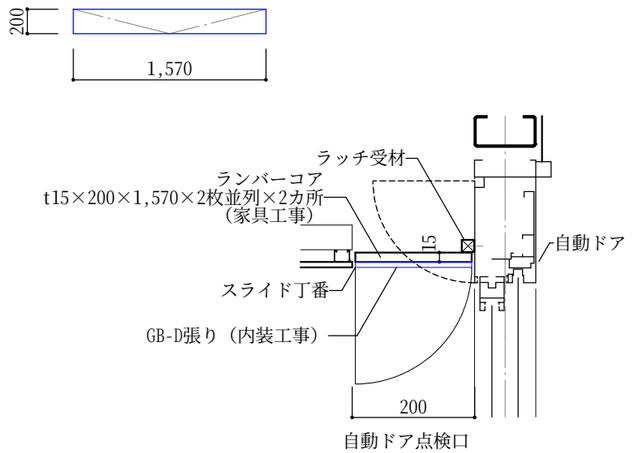
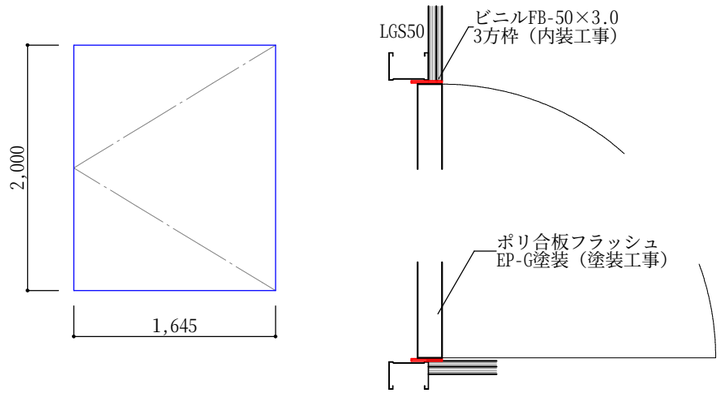


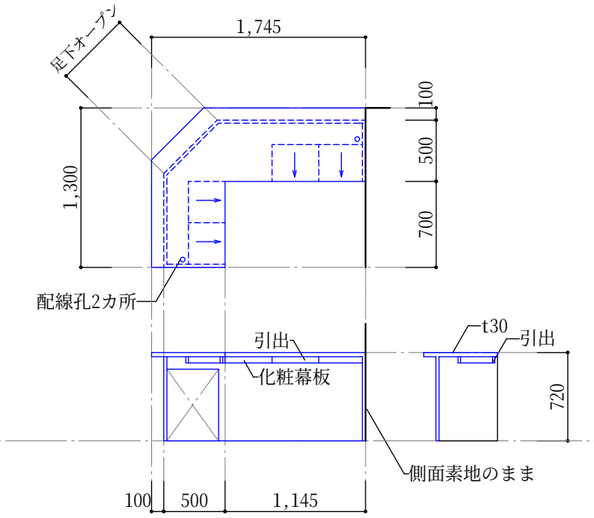
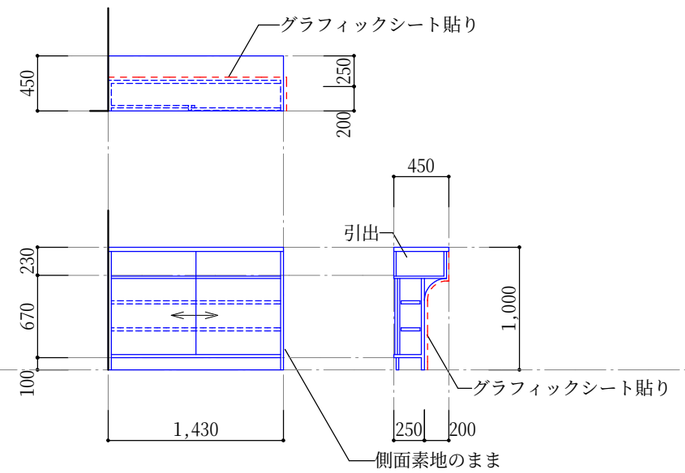
LSD8～10断面詳細図
S=1/5

名称・数量		
材料仕上		
ガラス		
金物等		

名称・数量	TB 1　トイレブース　×　1カ所	TB 2　トイレブース片引戸　×　1カ所
	 	
材料仕上	仕上：メラミン化粧板　木口：ウレタン塗装　芯：LVVL、MDF	
ガラス		
金物等	荷物掛けフック・付属金物一式・TB2はレール含む・小棚用壁補強3カ所（TB-1）	

有限会社 環境計画建築研究所 DESIGN ENVIRONMENTAL	1級建築士事務所登録１５７２号 1級建築士登録６２４５６号 矢田和弘		工事名	永井隆記念館施設整備事業 永井隆記念館建設（建築主体）工事	図面名 建具表 4	縮尺 1/100	図番 A-39

名称・数量	WD 1　片開き点検口2枚1組　×　2カ所	WD 2　片開き点検扉　×　1カ所	
	 自動ドア点検口 詳細図 S=1/10	 詳細図 S=1/10	
材料仕上	ラワンランバーコアt15　素地のまま	ポリエステル化粧合板　フラッシュt40	
ガラス			
金物等	スライド丁番・プッシュラッチ	隠し丁番・マグネットキャッチ・回転取手	

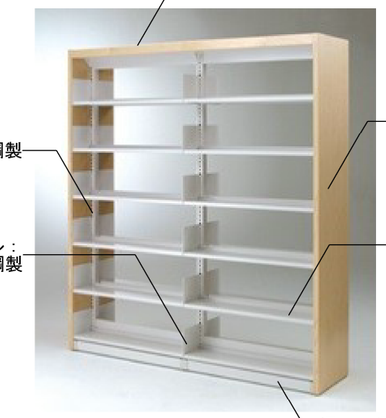
名称・数量	WF 1　図書貸出しデスク　×　1カ所	WF 2　チケットカウンター　×　1カ所	
			
材料仕上	メラミン化粧合板（天板：ポストフォーム）　心材：ランバーコア	メラミン化粧合板一部グラフィックシート貼り　心材：ランバーコア	
ガラス		天板：アクリル人大t12	
金物等	引手・クロージングレール	ライン引手・シリンダー錠・クロージングレール（引出、引違い共）・ダボ柱	

有限会社 環境計画建築研究所 DESIGN ENVIRONMENTAL
1級建築士事務所登録１５７２号
1級建築士登録６２４５６号
矢田和弘

工事名	永井隆記念館施設整備事業 永井隆記念館建設（建築主体）工事	図面名	家具表	縮尺	1/50	図番	A-40

書架イメージ

木部：ポリウレタン塗装
鋼材：ホワイト焼付塗装

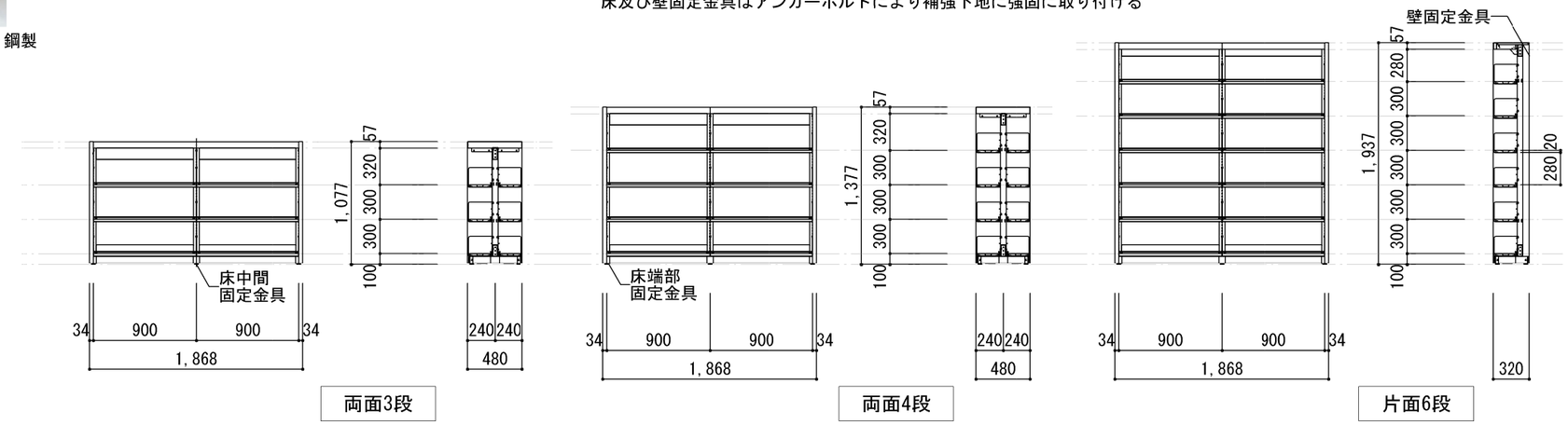


書架サインイメージ

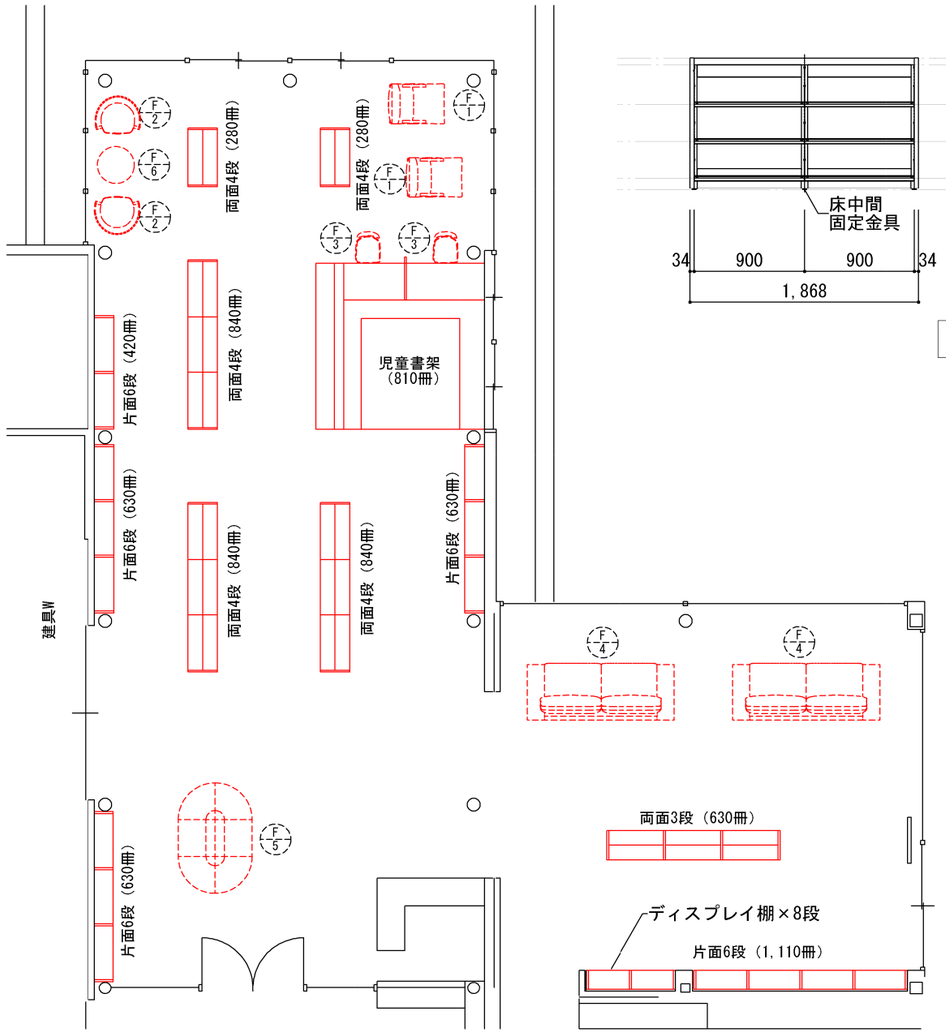
アクリルクリア×2枚
化粧ビス固定　挟込み式
側付：12枚　持出：6枚

書架標準詳細図
S=1/50

書架棚最大積載質量
棚1段：40kg　書架1連：片面360kg・両面720kg以上
幅は標準寸法であり、柱間及び壁間に納まるよう特寸調整する
床及び壁固定金具はアンカーボルトにより補強下地に強固に取り付ける



顕彰図書室：木製ディスプレイ棚×8段設置



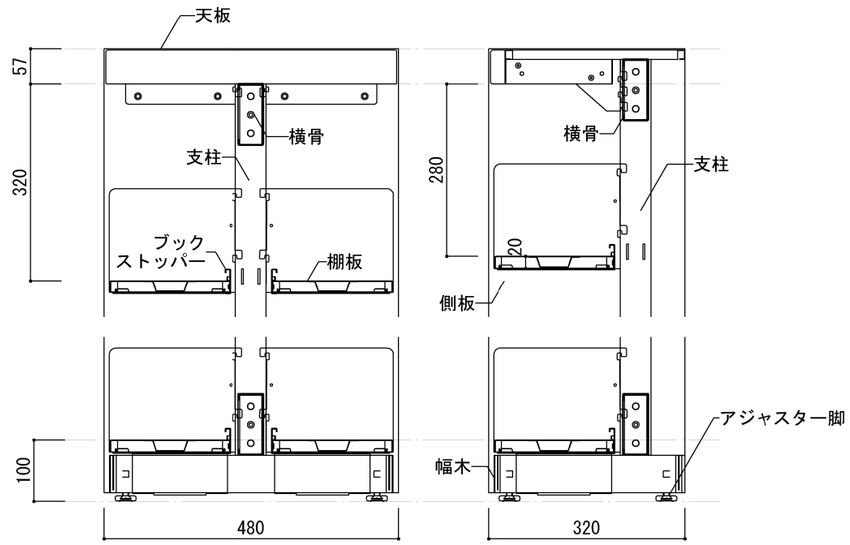
書架家具配置図
S=1/100

点線記号及び点線家具は別途備品納入

書架部分詳細図
S=1/10

天板・側板：
　メープル突板　ポリウレタン塗装

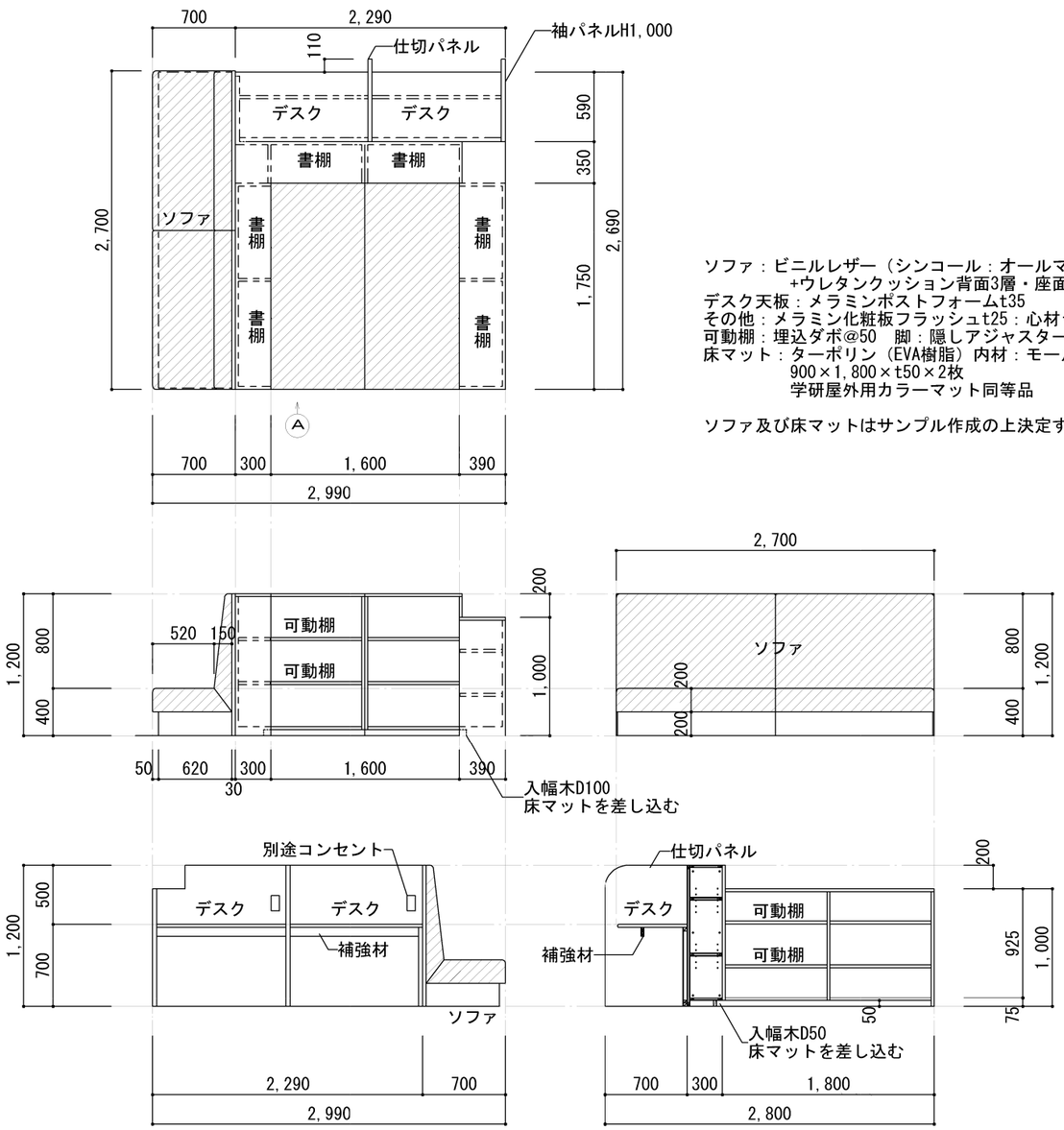
その他
　鋼材　ホワイト焼付塗装



両面　　片面

有限会社 環境計画建築研究所 DESIGN ENVIRONMENTAL	1級建築士事務所登録１５７２号 1級建築士登録６２４５６号 矢田和弘		工事名	永井隆記念館施設整備事業 永井隆記念館建設（建築主体）工事	図面名	図書室家具図　1	縮尺 1/50	図番 A-41

児童書架家具図
S=1/50



ソファ：ビニルレザー（シンコール：オールマイティ同等品）
+ウレタンクッション背面3層・座面4層
デスク天板：メラミンポストフォームt35
その他：メラミン化粧板フラッシュt25：心材ランバーコア
可動棚：埋込ダボ@50　脚：隠しアジャスター
床マット：ターポリン（EVA樹脂）内材：モールドウレタン
900×1,800×t50×2枚
学研屋外用カラーマット同等品

ソファ及び床マットはサンプル作成の上決定する

備品家具イメージ

布生地仕様はビニールレザー（株シンコー中等同等品）とする

別途備品納入

Tendo　T-3234WB-NT 同等品

F1 図書室
閲覧チェア×2脚

CONDEHOUSE tosaiLUXタモ 同等品

F2 図書室
閲覧チェア×2脚

arti Bureau CA4 同等品

F3 図書室
デスクチェア×2脚

CONDEHOUSE SESTINALUXタモ 同等品

F4 顕彰図書室
休憩ソファ×2台

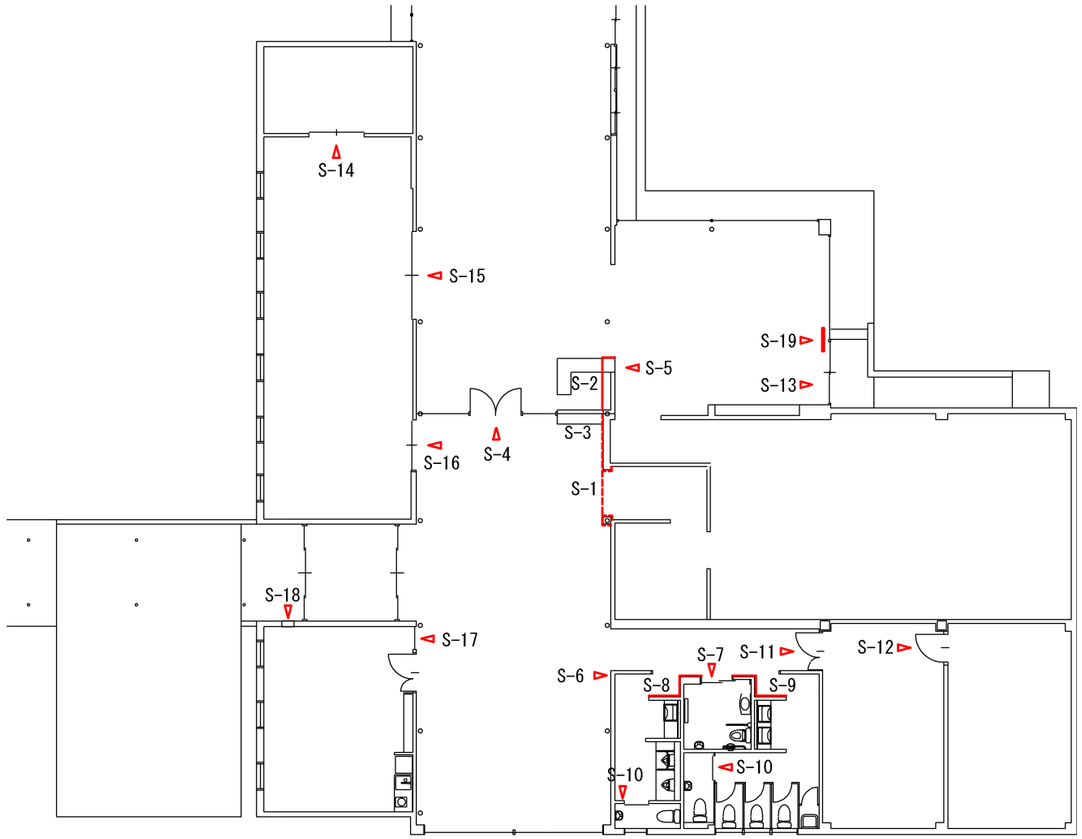
CRES LED-64 同等品

F5 図書室
閲覧ベンチ×外コーナー×4台
1人用肘無背付×2台　連結金具共

CRES TB2385-UF 同等品

F6 図書室
閲覧テーブル×1台

有限会社 環境計画建築研究所 DESIGN ENVIRONMENTAL	1級建築士事務所登録１５７２号 1級建築士登録６２４５６号 矢田和弘			工事名	永井隆記念館施設整備事業 永井隆記念館建設（建築主体）工事	図面名	図書室家具図　2	縮尺 1/50	図番 A-42



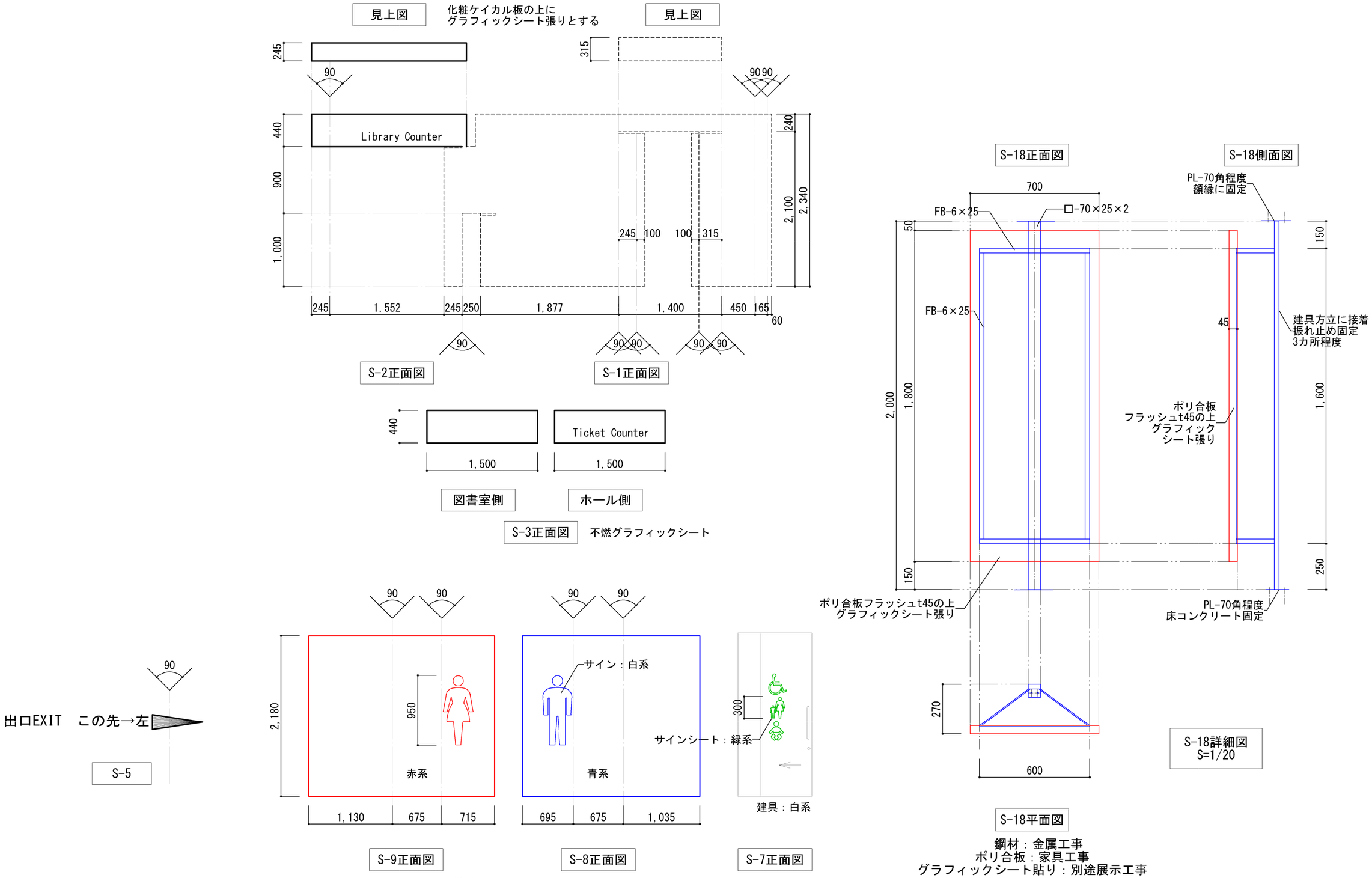
サインリスト

記号	サイン	仕上	寸法
S-1	別途工事	別途工事	別途工事
S-2	図示による	図示による	図示による
S-3	図示による	図示による	図示による
S-4	図書室	サインシート張り	文字高さ100
S-5	図示による	サインシート張り	文字高さ100
S-6	トイレピクトサイン	アルミ型材：持出	200×200×15
S-7	図示による	図示による	図示による
S-8	図示による	図示による	図示による
S-9	図示による	図示による	図示による
S-10	ベビーチェアピクトサイン	サインシート張り	100×100
S-11	倉庫	サインシート張り	文字高さ50
S-12	収蔵庫	サインシート張り	文字高さ50
S-13	如己堂展示口	サインシート張り	文字高さ50
S-14	倉庫	サインシート張り	文字高さ50
S-15	ガイダンス室	サインシート張り	文字高さ50
S-16	ガイダンス室	サインシート張り	文字高さ50
S-17	事務室	サインシート張り	文字高さ50
S-18	図書返却ポスト	サインシート張り	文字高さ50
S-19	展示パネル	サインシート張り（別途展示工事）	図示による
外構：入口	図示による	図示による	図示による
外構：駐輪場	駐輪ピクトサイン	アルミ型材：持出	200×200×15

サインシート
高耐候性不燃グラフィックシートに高耐候性インクジェット出力とする

有限会社 環境計画建築研究所 DESIGN ENVIRONMENTAL
1級建築士事務所登録１５７２号
1級建築士登録６２４５６号
矢田和弘

工事名	永井隆記念館施設整備事業 永井隆記念館建設（建築主体）工事	図面名	サイン配置図	縮尺	1/200	図番	A-43



有限会社 環境計画建築研究所 DESIGN ENVIRONMENTAL	1級建築士事務所登録１５７２号 1級建築士登録６２４５６号 矢田和弘		工事名	永井隆記念館施設整備事業 永井隆記念館建設（建築主体）工事	図面名	サイン詳細図	縮尺 1/50	図番 A-44

鉄骨構造標準図(1)

1.一般事項

(1)本標準図の対象は下表の建物規模②③欄に示す範囲をイメージしているが、軒高20m以下、5階程度の建物にも適用出来る。

(2)構造設計図に記載された事項は、本標準図に優先して適用する。

	建設大臣認定(グレード) 鉄建協	建設大臣認定(グレード) 全構連	建物の規模	使用鋼材
	S A B	H M	全て	全て
②	C	R※1	階数≦ 3階 軒高≦ 9.0m 梁間≦ 13.0m 延面積≦3000㎡	SS400 SM400 SMA400 STK400 STKR400
③		J ※2		

※1　軒高20m以下かつ5階建て以下、かつ延面積3000㎡以下

※2　建設省告示第1103号第1号(1)ただし書きの条件(鋼材は400N級)において「高さ13m以下でかつ軒の高さ10m以下、かつ3階建以下、かつ延面積500㎡以下の建築物」

2. 製作要領

(1)工作一般

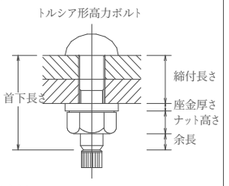
(a)鉄骨製作及び施工に先だって「鉄骨工事製作要領書」を提出し工事管理者の承認を得る。

(b)鋼管部材の分岐継手部の切断は、鋼管自動切断機による。

(2)高力ボルト接合

ボルトの所要長さ　　( )内 S10T

ねじの呼び	締付け長さに加える長さ
M16	30mm (25mm)
M20	35mm (30mm)
M22	40mm (35mm)
M24	45mm (40mm)



(a)高力ボルトは全て F10T(S10T)

(b)本締めに使用するボルトと、仮締めボルトの併用はしてはならない。

(c)ボルトの接合面の締めけ摩擦面は平グラインダ-掛け、又はショットブラスト掛けを行い、黒皮を除去して一様に赤さびを生じさせる。締付けは1次締付け後マ-キングを入れて本締めをする。

(3)溶接接合

(a)溶接工

溶接工は施工する溶接に適応する JISZ3801 (手溶接)又は JISZ3841 (半自動溶接)の溶接技術検定試験に合格し、引き続き半年以上溶接に従事している者とする。

(b)溶接機器

(ｲ)ｱ-ｸ溶接機　　(ﾆ)炭酸ガスｱ-ｸ半自動溶接機

(ﾛ)ｱ-ｸｴｱ-ｶﾞｳｼﾞﾝｸﾞ機　　(ﾎ)溶接電流と測定する電流計

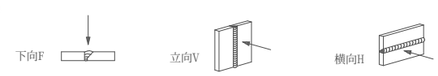
(ﾊ)ｱ-ｸスタッド溶接機1式　　(ﾍ)溶接棒乾燥器

(c)溶接方法等

(ｲ)ｱ-ｸ手溶接(MC)　　(ﾊ)セルフ(ﾉﾝｶﾞｽ)シ-ルドｱ-ｸ半自動溶接(NGC)

(ﾛ)ガスシ-ルドｱ-ク半自動溶接(GC)　　(ﾆ)ｱ-クエア-ガウジング

(d)溶接姿勢



(e)組立て溶接は、原則として本工事に従事する者が行う

(ｲ)組立溶接位置は、溶接の始、終端、偶角部など強度上、工作上、問題となり易い箇所は避ける。

(ﾛ)完全溶込み溶接部の組立て溶接は、原則として裏はつりの側に施工する。

(ﾊ)やむを得ず開先内に仮付溶接を行った場合はガウジングにて組立て溶接部を完全に除去した後、本溶接を行う。

(d)溶接姿勢

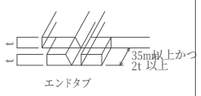
(ｲ)エンドタブ

Ⅰ)完全溶込み溶接の両端部に母材と同厚で同開先形状のエンドタブを取り付ける。

Ⅱ)エンドタブの材質は、母材と同質とする。

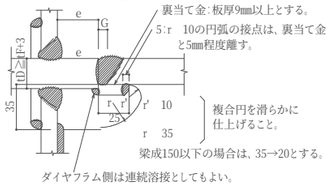
Ⅲ)エンドタブの長さは、MCで35mm以上(右図)、NGC,GCで40mm以上とし特記のない場合は溶接終了後、母材より10mm程度残して切断して、グラインダ-仕上げとする。

Ⅳ)プレス鋼板タブ、固形タブ等の使用については、資料を提出して工事監理者の承認を得る。)

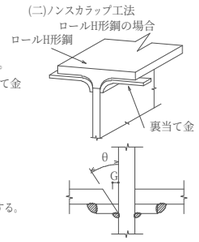


(ﾛ)裏当て金は、母材と同質材料とし寸法は幅20mm以上として、厚さは手溶接で6mm以上、半自動溶接で9mm以上とする。

(ﾊ)スカラップは、半径で25～35mmとする。



(ﾆ)ノンスカラップ工法



(ﾎ) 裏はつりは、溶接規準図において裏はつりと記載のある部分は全て、溶接管理技術者の確認を励行し部材に確認マ-クをつける。

(ﾍ)現場溶接の開先面には、開先部をいためない様に、養生を行う。

(4)塗装

コンクリ-トに埋め込まれる部分、コンクリ-トとの接触面で、コンクリ-トと一体とする設計仕様になっている部分及び継ぎ手部分は、塗装をしない。

3.標準仕様

(注)適用は◉ 印を記入する。

(1)使用構造材料

(a)鉄骨

種類	使用箇所	現場溶接	備考
◉ SS400 □ SM400 ◉ SN400B ◉ SN490C	梁	□ 有 ◉ 無	
◉ STKR400 ◉ BCR295 □ BCP235 □	柱	□ 有 ◉ 無	

(b)ボルト

◉ 高力ボルト　◉ F10T　◉ S10T認定品　◉ M16　◉ M20　□ M22　□

◉ 中ボルト　M12　M16　　高力ボルト導入張力確認試験　□ 要　◉ 否

□ アンカ-ボルト　ABR400　M22　L=770mm　　ナット　(　□ シングル　□ ダブル　)

□ アンカ-ボルト　ABR490　M22　L=660mm　　ナット　(　□ シングル　□ ダブル　)

アンカ-ボルトは日本鋼構造協会 JSSⅡ13 建築構造用転造ネジ(ABR)を使用する
＜尚、切削ネジ使用の場合はABMと表示＞

□ 頭付スタッド　　φ=　L=　mm　使用箇所　(　□ 柱　□ 大梁 □ 小梁　)

(c)コンクリ-ト

適用箇所	種類	設計基準強度 Fc=N/mm2	スランプ　cm	備考
捨コンクリ-ト	普通	□ 13.5　◉ 18	15	
土間コンクリ-ト	普通	□ 18　◉ 21　□	15	
基礎・基礎梁	普通	□ 18　◉ 21　□ 24	15	
根巻きｺﾝｸﾘｰﾄ	◉ 普通　□ 軽量	□ 18　◉ 21　□ 24	18	
	□ 普通　□ 軽量	□ 18　□ 21　□		比重

(d)鉄筋

適用箇所	径	使用箇所	備考
◉ SD295A	D10～D16		◉ 重ね継手　□ 圧接継手
◉ SD345	D19～D25		□ 重ね継手　◉ 圧接継手
□ JISG3551			溶接金網　(6×150 ×150)

(e)コンクリ-トブロック(CB)

□ A種　□ B種　□ C種　　厚　□ 100　□ 120　□ 150　□ 190

(f)屋根・床・壁　　使用箇所

◉ 押出成形セメント板　　厚 125㎜

□ 折版　　型式:ルーフデッキ　H=150　厚:0.8㎜

□ デッキプレ-ト　　型式　　厚

□ キ-ストンプレ-ト　　型式　　厚

(2)地業工事

(a)直接基礎　□ ベタ基礎　□ 布基礎　□ 独立基礎　　載荷試験　□ 有　□ 無

深さ　図示　　支持層-　　長期許容支持力度Ra=　kN/m2　試験堀　□ 有　□ 無

(b)杭基礎　　支持層-

地盤調査資料 ◉ 有　◉ 敷地内　□ 近隣　◉ ボ-リング調査　□

□ 無　　調査予定 □ 有　□ 無　□ ボ-リング調査　□ 載荷試験

杭種	種類	施工法	特記事項
□ 鋼管杭　□ PRC	PRC　(□ Ⅰ種 □ Ⅱ種 □ Ⅲ種 □ Ⅳ種)	□ 打ち込み	
□ PHC　□ 摩擦杭	PHC　(□ A種　□ B種　□ C種)	□ 埋め込み	
□　□	鋼管　(□ SS400　□ SN400　)		
□ 場所打ちコンクリ-ト杭	コンクリ-ト Fc=21N/mm52,鉄筋SD345	□	

試験杭　□ 有　□ 無　　□ 打ち込み　□ 載荷　　本

杭　径　(mm)	設計支持力(kN)	杭先端深さ　(m)	本数(内試験杭)	特記事項
			(　)	
			(　)	
			(　)	
			(　)	

(3)鉄骨工事

(a)工事管理者の承認を必要とするもの

◉ 製作工場　◉ 製作要領書　◉ 工作図　　◉ 施工計画書　◉ 社内検査表　□

◉ 建設省告示第 1103 号による認定工場　(　大臣認定 グレ-ド以上　,　都道府県　M　ランク　)

◉ 材料規格証明書または試験成績書　(　◉ 鋼材　◉ 高力ボルト　□ 頭付スタッド　)

(b)工事管理者に検査事項を連絡し確認を受けるもの

◉ 現寸検査　□ 組立・開先検査 ◉ 製品検査　□ 建方検査　□

(c)溶接及び接合部を検査し工事管理者に報告すること

◉ 溶接部及び接合部の検査報告

検査箇所	検査方法	検査率又は検査数 自主	第三者 抜取方法	第三者 AOQL	第三者 検査水準	工事管理者	特記事項
◉ 突合せ溶接部	超音波探傷試験	100%	2回抜取	4.0%	6	——	
◉ ピ-ト・われ・アンダ-カット オ-バ-ラップ 余盛・サイズ・他	外観(目視)検査	100%		%		100%	

注)第三者検査とは建築主,工事管理者又は工事施工者が受入検査を代行させるために自ら契約した検査会社をいう。第三者検査については、国土交通省大臣官房官庁営繕部監修「公共建築工事標準仕様書(平成28年版)7章鉄骨工事」による。

(4)防錆塗装

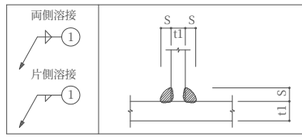
◉　防錆塗装の範囲は、高力ボルト接合の摩擦面及びコンクリ-トで被覆される以外の部分とする。錆止めペイントはJIS　K5621・K5622～K5625の2回塗りを標準とする。

◉　現場における高力ボルト接合部、その他の接合部の素地調整は入念に行い、締め付け後の塗装は工場塗装と同じ錆止めペイントを使用し2回塗りとする。

4.溶接規準図

(注)f: 余盛　G:ルート間隔　R:ルート面　S:サイズ　(単位 mm)

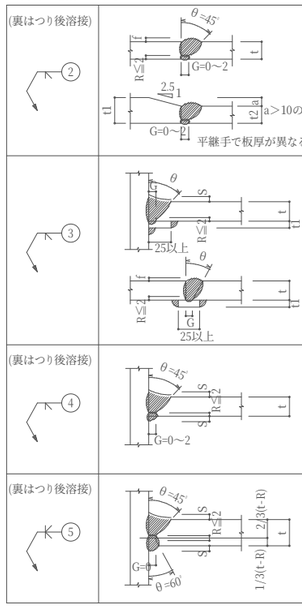
(1)すみ肉溶接



	t≦16
t	8以下　9～10　11～13　14～16
S	6　7　10　12

但し片面溶接の場合はS=tとする
tは t1、t2の小なる方とする
余盛は(1+0.1S)mm 以下とする

(2)突合せ溶接 (平継手 T形継手)



0.5≦f≦3(但し t=15 のとき 4 mm とする)

t	6<t
溶接姿勢	F・V

0.5≦f≦3(但し t=15のとき4mmとする)

S=t/4

	MC			GC・NGC		
t	θ	G	t1	θ	G	t1
6≦t<12		6	6	45°	6	9
12≦t<19		7	9	35°	7	9
19≦t		7	9	35°	7	9
溶接姿勢		F・V				

補強すみ内溶接を付加する。

S=t/4

t	6<t<16
溶接姿勢	F・V

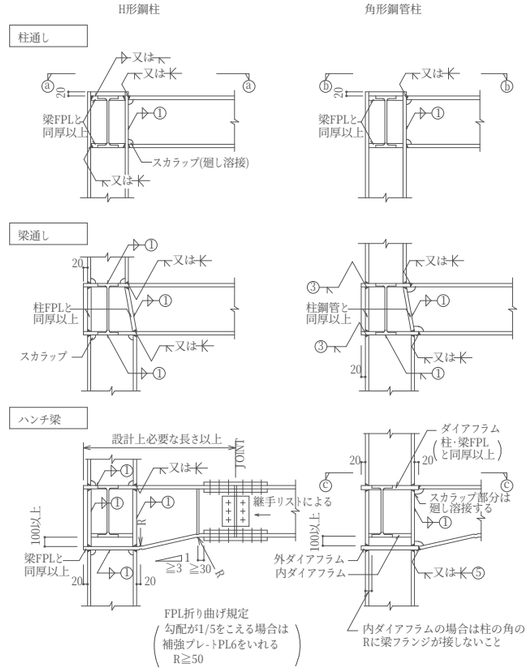
両側に補強すみ肉溶接を付加する。

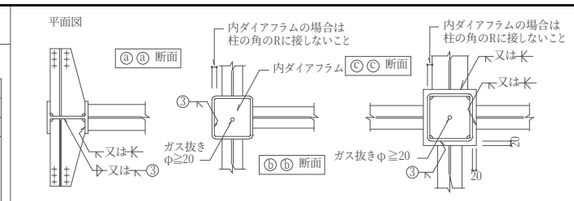
S=t/4

t	t≧16
溶接姿勢	F・V

両側に補強すみ肉溶接を付加する。

(3)柱・梁接合部　　○ 内に上記溶接規準図の溶接番号を記入のこと。





5. 柱脚

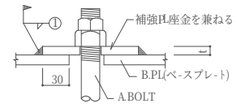
(1)　一般事項

コンクリ-ト表面のレイタンス等を取り除いた後、無収縮モルタルを注入する。

モルタルを後詰めにする場合は空隙の出来ないように充填する。

アンカ-フレ-ムを使用する場合は設計図による。

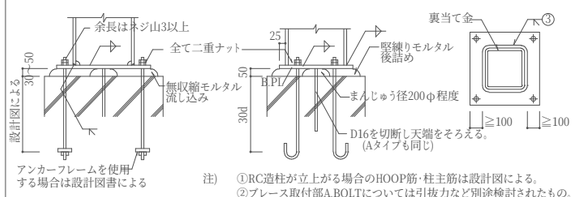
アンカ-ボルト施工に誤差のある場合



tはB.PL厚の1/2以上かつ6mm以上

(2)　柱脚ピン

Aタイプ　(全面塗り仕上げ工法)　　Bタイプ　(後詰め工法)　　角形鋼管A, Bタイプ

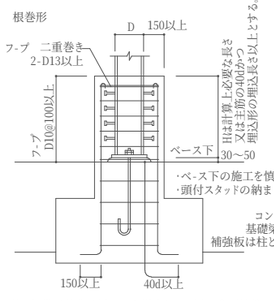


注)　①RC造柱が立上がる場合のHOOP筋・柱主筋は設計図による。
②ブレース取付部A.BOLTについては引抜力など別途検討されたもの。

認定柱脚　　○　認定柱脚を使用する場合はメーカー仕様による。

(3)　柱脚固定の配筋

根巻形


D
150以上
フ-プ
二重巻き
2-D13以上
フ-プ
D10@100以上
H.B.P
H.B.P
H.B.P

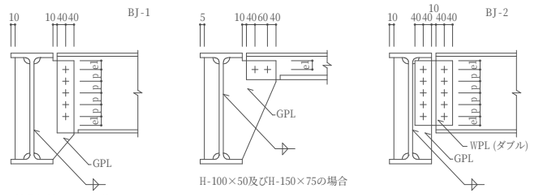
鉄骨構造標準図(2)

6.継手規準図、その他

(1) ボルトピッチ　　(p) ボルト穴径･最小縁端距離(mm)

呼び径			M16	M20	M22
孔径			18.0	22.0	24.0
採用ピッチ	フランジ	p	60	60	60
	ウェブ	g1	60(90,120)	60(90,120)	60(90,120)
はしあき		e1	40	40	40
へりあき　(最小値)		e2	22	27.5	35

(2) ピン接合梁接合リスト　　(剛接合の場合は設計図書による。)

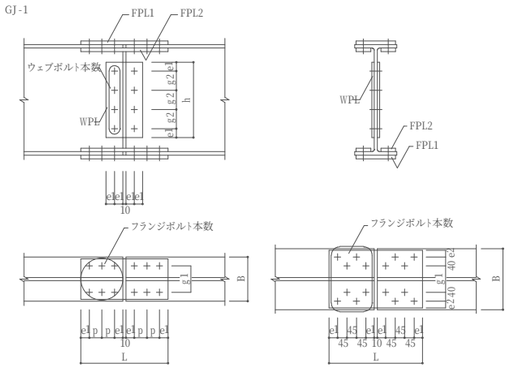


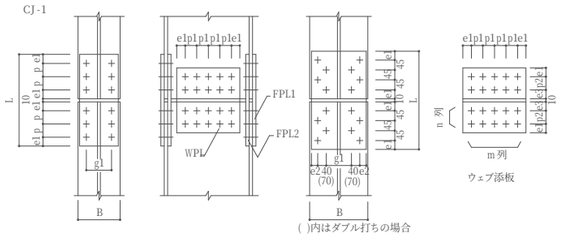
下記の鉄骨部材リストに記載する

BJ-1 符号	部材	ボルト径	本数	GPL厚	ウェブ添板 WPL厚	備考
	H-100×50×5×7	M16	2	6		
	H-150×75×5×7	M16	2	9		
	H-175×90×5×8	M16	2	9		
	H-200×100×5.5×8	M16	2	9		
	H-244×175×7×11	M16	3	9		
	H-250×125×6×9	M20	2	9		
	H-298×149×5.5×8	M20	3	9		
	H-300×150×6.5×9	M20	3	9		
	H-346×174×6×9	M20	4	9		
	H-350×175×7×11	M20	4	9		
	H-396×199×7×11	M20	4	9		
	H-400×200×8×13	M20	5	9		
	H-446×199×8×12	M20	5	9		
	H-450×200×9×14	M20	6	12		
	H-200×200×8×12					
	H-148×100×6×9	M16	2	9		
	H-194×150×6×9	M20	2	6		
	H-100×100×6×8	M16	2	6		
	H-125×125×6.5×9	M16	2	9		
	H-150×150×7×10	M16	2	9		

BJ-1 符号	部材	ボルト径	本数	GPL厚	ウェブ添板 WPL厚	備考
	H-350×175×7×11	M20	4	9	2PL-6	
	H-400×200×8×13	M20	4	9	2PL-9	
	H-450×200×9×14	M20	4	9	2PL-9	
	H-496×199×9×14	M20	5	9	2PL-9	
	H-500×200×10×16	M20	5	12	2PL-9	
	H-596×199×10×15	M20	6	12	2PL-9	
	H-600×200×11×17	M20	6	12	2PL-9	
	H-294×200×8×12	M20	3	9	—	
	H-340×250×9×14	M20	3	9	—	
	H-390×300×10×16	M20	4	12	2PL-9	
	H-440×300×11×18	M20	5	12	—	
	H-482×300×11×15	M20	5	12	2PL-9	
	H-488×300×11×18	M20	5	12	2PL-9	

(3) 剛接合梁･柱継手リスト　　(特記なき限り、フランジ･ウェブ共添板はダブルとする。)





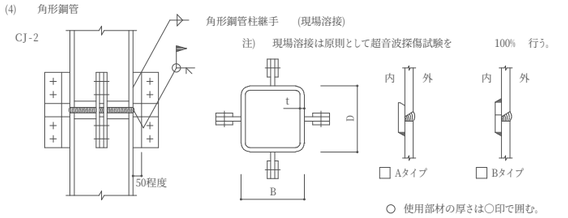
フランジ添板幅(B)				フランジ添板長(L)　mm					
フランジ幅	ボルト列	FPL1	FPL2	ボルト径	ボルト列	フランジボルト本数 4本	6本	8本	10本	12本
100	シングル	100	—	M16	シングル	290	410	—	—	—
125	シングル	125	—	M20	シングル	290	410	530	—	—
150	シングル	150	60		チドリ(ダブル)	—	—	440	530	620(410)
175	シングル	175	70	M22	シングル	290	410	530	—	—
200	シングル	200	80		チドリ(ダブル)	—	—	440	530	620(410)
250	シングル	250	100	フランジ添板幅(標準)　mm						
300	ダブルチドリ	300	110	ボルト径		ウェブボルト本数 4本	6本	8本	10本	12本
350	ダブル	350	140	M16		80	—	—	—	—
400	ダブル	400	170	M20･M22		—	140	200	260	320

GJ-1 符号	部材	ボルト径	ボルト本数 フランジ	ボルト本数 ウェブ	ゲージ g1	ゲージ g2	フランジ添板 FPL1 厚	フランジ添板 FPL2 厚	ウェブ添板 WPL 厚	ウェブ添板 WPL h	ウェブ添板 WPL w	備考
	H-100×100×6×8	M16	4	1×2	60	60	16	—	6	50	290	
	H-148×100×6×9	M16	4	1×2	60	60	16	—	6	80	290	
	H-200×100×5.5×8	M16	4	2	60	60	16	—	6	140	170	
	H-250×125×6×9	M16	6	2×2	75	90	12	—	6	170	290	
	H-300×150×6.5×9	M20	6	3	90	90	9	9	6	260	170	
	H-350×175×7×11	M20	4	3	105	90	9	9	6	260	170	
	H-400×200×8×13	M20	6	4	120	60	9	9	9	260	170	
	H-450×200×9×14	M20	6	5	120	60	12	12	9	320	170	
	H-500×200×10×16	M20	6	6	120	60	12	12	9	380	170	
	H-600×200×11×17	M20	6	4×2	120	120	12	12	9	440	290	
	H-194×150×6×9	M20	4	2	90	60	9	9	6	140	170	
	H-244×175×7×11	M20	6	4	105	90	9	9	6	170	290	
	H-294×200×8×12	M20	6	3	120	120	9	9	9	200	170	
	H-340×250×9×14	M20	4×2	3×2	150	60	12	12	9	200	290	
	H-390×300×10×16	M20	8	4	150	60	12	12	9	260	170	
	H-440×300×11×18	M20	4×2	5	150	60	12	12	9	320	170	チドリ(フランジ)
	H-488×300×11×18	M20	4×2	4×2	150	90	12	12	12	350	290	
	H-588×300×12×20	M20	5×2	4×2	150	120	12	16	9	440	290	
	H-700×300×13×24	M20	6×2	9×1	150	60	19	19	9	560	170	

CJ-1 符号	部材	ボルト径	ボルト本数 フランジ	ボルト本数 ウェブ	フランジ添板 FPL1	フランジ添板 FPL2	ウェブ WPL	ウェブ n×m	ウェブボルトピッチ e1	ウェブボルトピッチ p1	ウェブボルトピッチ p2	備考
	H-100×100×6×8	M16	4	2	16	—	9	2×1	40	—	60	
	H-125×125×6.5×9	M16	6	2	12	—	6	2×1	40	—	60	
	H-150×150×7×10	M20	4	2	9	9	9	2×1	40	—	60	
	H-175×175×7.5×11	M20	4	2	9	9	9	2×1	40	—	60	
	H-200×200×8×12	M20	4	2	9	9	6	1×2	40	60	60	
	H-250×250×9×14	M20	8	4	9	9	9	2×2	40	60	60	
	H-350×350×12×19	M20	12	6	12	12	12	2×3	40	120	60	
	H-400×400×13×21	M20	12	8	12	16	12	2×4	40	60	60	
	H-148×100×6×9	M16	4	3	16	—	9	3×1	40	60	60	
	H-194×150×6×9	M20	4	2	9	9	6	1×2	40	60	60	
	H-244×175×7×11	M20	4	4	9	9	9	2×2	40	60	60	
	H-294×200×8×12	M20	6	3	9	9	9	1×3	40	60	60	
	H-340×250×9×14	M20	8	6	12	12	12	2×3	40	60	60	
	H-390×300×10×16	M20	8	6	12	12	9	2×3	40	90	60	
	H-440×300×11×18	M20	8	10	12	12	12	2×5	40	60	60	
	H-488×300×11×18	M20	8	6	12	12	9	1×6	40	60	60	
	H-588×300×12×20	M20	8	6	12	16	9	1×6	40	60	60	

注)CJ-1のゲージg1GJ-1のゲージと同じである。

(4) 角形鋼管

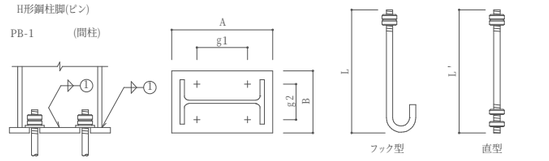


注)　現場溶接は原則として超音波探傷試験を　100%　行う。

○ 使用部材の厚さは○印で囲む。

C 符号	断面寸法 B	D	t				備考
C1	200	200	12	16	19	22	
C3a	175	175	4.5	6	9	12	
C2, C5	150	150	4.5	6	9	12	
P3	100	100	2.3	3.2	4.5	6	ピン柱

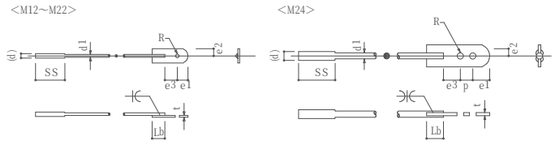
(5) H形鋼柱脚(ピン)



PB-1 符号	部材	アンカ-ボルト(中ボルト) 径	L	本数	ベ-スプレ-ト 厚	溶接記号	A	B	ゲ-ジ g1	g2	備考
	H-125×60×6×8	16	620	2	12	1	185	180		100	
	H-150×75×5×7	16	620	2	12	1	210	180		100	
	H-175×90×5×8	16	620	2	12	1	235	180		100	
	H-200×100×5.5×8	16	620	2	12	1	260	180		100	
	H-250×125×6×9	20	730	2	16	1	310	180		100	
	H-300×150×6.5×9	20	730	4	16	1	360	200	180	120	
	H-350×175×7×11	20	730	4	16	1	410	230	230	120	
	H-148×100×6×9	16	620	2	12	1	210	180		100	
	H-194×150×6×9	20	730	2	16	1	255	200		120	
	H-244×175×7×11	20	730	4	16	1	305	230	120	150	
	H-294×200×8×12	20	730	4	19	1	355	250	170	150	
	H-100×100×6×8	16	620	2	12	1	160	180		100	
	H-125×125×6.5×9	20	730	2	16	1	185	180		100	
	H-150×150×7×10	20	730	2	16	1	210	200		120	
	H-175×175×7.5×11	24	860	2	16	1	235	230		150	直形･L'=900
	H-200×200×8×12	24	860	2	19	1	260	250		150	同上

(6) 丸鋼ブレ-ス　　(JIS 規格品とする　　JIS A5540　～ 5542)

羽子板ボルト

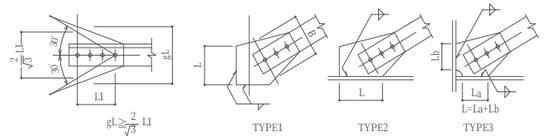


ねじの呼び			(d)	M12	M14	M16	M18	M20	M22	M24
軸径 d1	最大			10.81	12.65	14.65	16.33	18.33	20.33	21.99
	最小			10.64	12.46	14.46	16.11	18.11	20.11	21.77
調整ねじの長さ			Ss	100	115	125	140	150	165	175
取付ボルト穴径許容差　+0.～-0.5mm			R	13	17	17	21.5	21.5	23.5	21.5
はしあき		(最小) 注(2)	e1	35	40	45	50	50	55	50
切板製	へりあき	(最小) 注(1)	e2	22	28	28	34	34	38	38
	板厚		t	4.5	6	6	9	9	9	9
平鋼製	へりあき	(最小) 注(1)	e2	19	25	25	32.5	32.5	37.5	37.5
	板厚		t	4.5	6	6	9	9	9	9
ボルト端から取付ボルト穴心のあき最小)			e3	47	52	59	66	66	73	70
溶接長さ		(最小)	Lb	40	50	55	60	75	85	85
取付ボルト本数		注(2)		1-M12	1-M16	1-M16	1-M20	1-M20	1-M22	2-M20

注　(1)e1･e2が確保されていれば形状は自由でよい。
　　(2)羽子板とガセットプレ-トの接合は表に示す取付ボルトを使用し、一面剪断(支圧)接合とする。
　　(3)取付ボルトの種類は JISB1186 2種高力ボルト(F10T)又は JISB1180

(7) 平鋼･山形鋼ブレ-ス

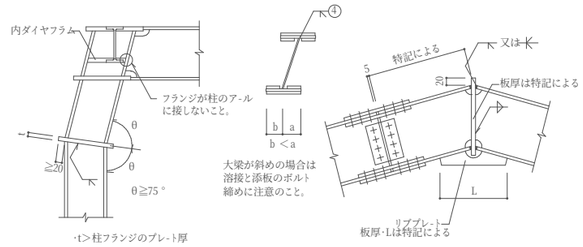
TJ-1



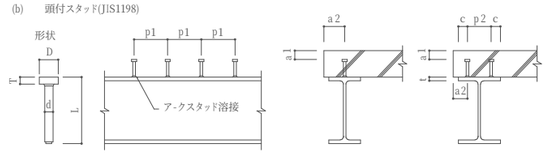
TJ-1 符号	部材	高力ボルト	ガセットプレ･ト t×B	溶接長 (L) TYPE1	TYPE2	TYPE3	サイズ S	備考
山形鋼	L-65×65×6	3-M16	9×90	170	101	117	6	
	L-75×75×6	5-M16	9×95	202	117	133	6	
	L-75×75×9	5-M16	9×125	291	162	178	8	
	L-75×75×12	5-M20	9×160	361	197	213	10	
	L-90×90×7	4-M20	9×120	267	150	166	8	
	L-90×90×10	5-M20	9×165	389	211	227	10	
	L-90×90×13	6-M20	12×160	472	218	238	10	
山形鋼	2L-65×65×6	5-M16	9×165	399	216	232	6	
	2L-75×75×6	5-M16	9×190	473	253	269	6	
	2L-75×75×9	5-M20	12×205	531	286	306	8	
	2L-75×75×12	5-M20	12×255	689	365	385	10	
	2L-90×90×7	4-M20	12×205	529	285	305	10	
	2L-90×90×10	5-M20	12×270	729	385	405	10	
	2L-90×90×13	7-M20	12×340	933	487	507	10	

(8) その他

(a) 柱･梁が途中折れの場合及び梁成が異なる場合



(b) 頭付スタッド(JIS1198)

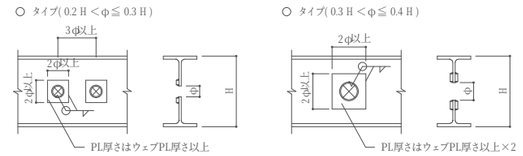


L≧4.0d	スタッド材		
600≧p1≧7.5d	呼び名	T mm	L (溶接後の長さ)mm
p2≧5.0d	φ13mm	10.0 7.9	50, 80, 100, 130
a1≧40	φ16mm	10.0 7.9	80, 100, 130
a2≧100	φ19mm	10.0 9.5	80, 100, 130, 150
d≧5.0t			
c≧40			

頭付スタッドのせん断耐力

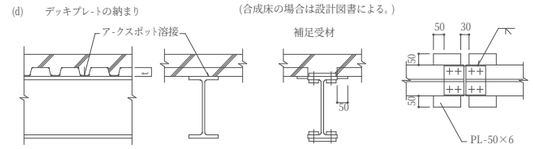
コンクリート		普通		軽量	
	FC kg/cm2	180	210	180	210
	γ t/m3	2.3	2.3	1.85	1.9
	EC×10³kg/cm2	1.99	2.15	1.44	1.62
頭部断面積(1)	13φ	3.98	4.46	3.38	3.87
	16φ	6.01	6.75	5.11	5.86
	19φ	8.49	9.54	7.22	8.28

(c) 貫通補強

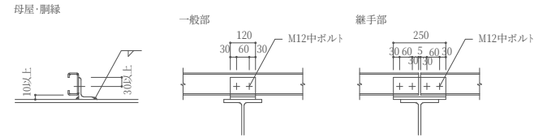


0.2H以下は補強なし。
ウェブプレ-ト10mm以上は両面補強とする。
特記なき限り補強方法は上図によるが、孔径(φ)は0.4H以下とし、そのピッチは3.0φ以上とする。
スリ-プは梁成の中央 1/2 の範囲とする。

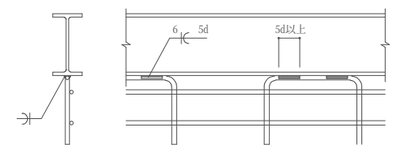
(d) デッキプレ-トの納まり　　(合成床の場合は設計図書による。)



(e) 母屋･胴縁



(f) ブロック造壁の鉄筋の納まり



注)取付けは工場溶接とする。

構造関係規定に適合することを確認した。
構造設計一級建築士　第 5743 号
一級建築士　第 74143 号
前田　清行

有限会社 環境計画建築研究所 DESIGN ENVIRONMENTAL
1級建築士事務所登録１５７２号
1級建築士登録６２４５６号
矢田和弘

工事名	永井隆記念館施設整備事業 永井隆記念館建設（建築主体）工事	図面名	鉄骨構造標準図２	縮尺	—	図番	S-02

構造図作成者：矢野雅男　一級建築士　第 231540 号

鉄骨構造標準図(3)

1. 一般事項

1.1 適用範囲

この配筋要領は，国土交通省大臣官房官庁営繕部監修「公共建築工事標準仕様書」(平成19年版)を適用する鉄筋コンクリート造，鉄骨鉄筋コンクリート造等の鉄筋工事に適用する。

1.2 基本要求品質

(a)鉄筋工事に用いる材料は，所定のものであること。

(b)組立てられた鉄筋は、所定の形状及び寸法を有し、所定の位置に保持されていること。又、鉄筋の表面は、所要の状態であること。

(c)鉄筋の継手及び定着部は、作用する力を伝達できるものであること。

1.3 配筋検査

主要構造部の配筋は、コンクリート打ちに先立ち、監督員の検査を受ける。

2. 材料

2.1 鉄筋

鉄筋は次表により，種類の記号は特記による。

規格番号	規格名称	種類の記号
JIS G3112	鉄筋コンクリート用棒鋼	SR235,SR295,SD295A,SD295B,SD345,SD390
JIS G3117	鉄筋コンクリート用再生棒鋼	SDR295,SDR345

2.2 溶接金網

溶接金網は JIS G3551(溶接金網)により，網目の形状，寸法及び鉄線の径は特記による。

2.3 材料試験

(a)鉄筋の品質を試験により証明する場合は，次による。

(1)試験の項目及び方法は，適用させようとするJISの規格による。

(2)試験の回数は，種類，製造ロット及び径の異なる毎に，質量20t以下は1回，20tを越える場合は20t毎及びその端数につき1回とし，機械的性質の試験体は1回の試験につき1体とする。
試験の項目及び方法は，適用させようとするJISの規格による。

(3)鉄筋が軽易な場合にあっては，監督員の承諾を受けて，試験の項目を機械的性質のうち引張試験による降伏点，引張強さ，伸びとすることができる。

(4)それぞれ質量2t未満の場合は，監督員の承諾を受けて，試験を省略することができる。
試験の項目及び方法は，適用させようとするJISの規格による。

(b)鉄筋を溶接する場合は，次により試験を行う。

(1)試験体は，種類，製造ロット及び径の異なる毎に，実際と同じ条件で3体製作する。

(2)試験は，引張試験とする。

(3)全ての試験体が母材破断した場合を合格とする。

3. 加工及び組立て

3.1 一般事項

(a)鉄筋は，設計図書に指定された寸法及び形状に合わせ，常温で正しく加工する。

(b)異形鉄筋の径(図・表において「d」で示す)は，呼び名に用いた数値とする。
設計図書での鉄筋の表示記号は下記による。

異形記号	D10	D13	D16	D19	D22	D25	D29
	・	×	⌀	◉	○	◎	⊗

(c)有害な曲がり，ひび割れ，ささくれ等の損傷のある鉄筋は，使用しない。

(d)バ-インコイルの鉄筋は，直線状態にしてから使用する。

(e)鉄筋の切断は，シャ-カッタ-又はのこによって行う。但し，現場でやむを得ない場合は，ガス切断とすることができる。

(f)鉄筋には，点付け溶接，アークストライクを行わない。

(g)鉄筋の仮付け溶接は，公共建築工事共通仕様書［鉄骨工事の溶接接合］による。

(h)鉄筋の溶接は，アーク溶接とし，同上による。又，溶接技能者は，同上に準じ，工事に相応した技量を有する者とする。

(i)鉄筋の末端部には，次の場合にフックを付ける。

(1)柱の四隅にある主筋(下図の●印)。

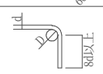
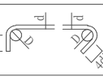
柱

注)1 壁がある場合は法規上必要ないが本要領ではフック付きとする。

(2)杭基礎のベ-ス筋。

(3)フ-プ，スタラップ及び幅止め筋。

(j)鉄筋の折曲げは，次表による。

末端部 曲げ角度	折曲げ図	SD295A・SD295B・SD345 SD390 SDR295・SDR345 D16以下	D19～D25	D29～D38	使用箇所
180°		3d以上	4d以上	5d以上	柱・梁主筋・杭基礎ベース筋 D16以上の鉄筋
135°		3d以上	4d以上	5d以上	スタラップ・フ-プ筋 D13以下の鉄筋
90°		3d以上	4d以上	5d以上	T形・L形のスタラップ
135° 90°		3d以上	4d以上	5d以上	幅止め筋

肋行し部材に確認マ-クをつける。

中間部 曲げ角度	折曲げ図	SD295A・SD295B・SD345 SD390・SDR295・SDR345 D16以下	D19～D25	D29～D38	使用箇所
90° 以下		3d以上	4d以上	——	スタラップ フ-プ筋
		4d以上	6d以上	8d以上	その他の鉄筋

注)1 Dは，曲げ内のり直径を示す。

(k)重ね継手及び定着の長さは次による。尚，径が異なる鉄筋の重ね継手の長さは，細い鉄筋の径による。

(1)鉄筋の重ね継手及び定着の長さは，次表による。尚，この表はコンクリ-トの設計基準強度(Fo)が，21N/mm52以上 27N/mm52未満の場合に適用し，Foが18N/mm52の場合は，L1及びL2のみは，次表の値に5dを加えた値とする。

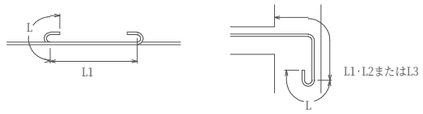
鉄筋の種類	フックなし L1	L2	L3 小梁	L3 スラブ	フックあり L1	L2	L3 小梁	L3 スラブ
SD295A・SD295B SD345 SDR295・SDR345	40d	40d	25d	10dかつ 150mm以上	30d	30d	15d	——
SD390	45d	40d	25d	10dかつ 150mm以上	35d	30d	15d	——

注) 1 L1: 継手並びに注)1・2以外の定着長さ

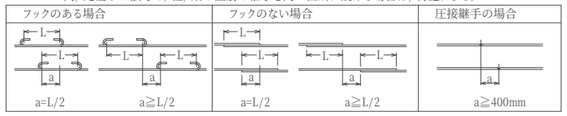
2 L2: 異形鉄筋で，割裂破壊の恐れのない箇所の定着長さ。

3 L3: 小梁・床版の下端筋の定着長さ。但し，基礎耐圧版、これを受ける小梁等は除く。

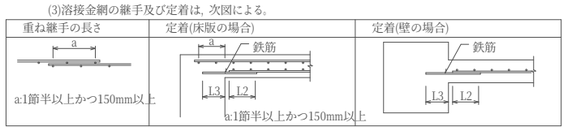
4 フックのある場合のL1・L2・L3は、下図に示すようにフック部分Lを含まない。



(2)隣合う継手の位置は，次図による。ただし，スラブ及び壁の場合でD16以下は除く。
尚，先組み工法等で，柱，梁の主筋の継手を同一箇所に設ける場合は，特記による。



(3)溶接金網の継手及び定着は，次図による。



(l)鉄筋の組立は，鉄筋の交差部及び継手部分の要所を径0.8mm以上の鉄線で結束し，適切な位置にスペ-サ-，うま，吊金物等を使用して行う。尚，スペ-サ-は，転倒及び作業荷重等に耐えられるものとし，スラブのスペ-サ-は，原則として鋼製とする。又，コンクリ-トの放し仕上げとなる箇所には，防錆処理を行ったスペ-サ-を使用する。

(m)前に打設したコンクリ-トから出ている鉄筋の位置を修正する場合は，鉄筋の付け根で急に曲げないで，できるだけ長い距離で修正する。

(n)設備配管，スイッチ等の設置により，設計図書に定める配筋ができない場合は，監督員と協議する。

3.2 鉄筋の被り厚さ及び間隔

(a)鉄筋及び溶接金網の最小被り厚さは，特記による。特記がなければ次表による。但し，柱及び梁の主筋にD29以上を使用する場合は，主筋の被り厚さを径の1.5倍以上として最小被り厚さを定める。

(b)柱，梁等の鉄筋の加工に用いる被り厚さは，最小被り厚さに,10mmを加えた数値を標準とする。

構造部分の種別				全てのコンクリート
土に接しない部分	床版・耐力壁以外の壁		仕上有り	20
			仕上無し	30
	柱・梁	屋内	仕上有り	30
			仕上無し	30
	耐力壁	屋外	仕上有り	30
			仕上無し	40
	擁壁・耐圧床版			40
土に接する部分	柱・梁・床版・壁			＊40
	基礎・擁壁・耐圧床版			＊60
煙突など高熱を受ける部分				60
塩害など耐久性上不利な部分				特記による

注)
1.＊印の被り厚さは，普通コンクリ-トに適用し、軽量コンクリ-トの場合は特記による。
2.「仕上有り」とは，モルタル塗り等の仕上のあるものとし，吹付け塗装等の鉄筋の耐久上有効でない仕上げのものを除く。
3.床版・梁・基礎及び擁壁で，直接土に接する部分の被り厚さには，捨てコンクリ-トの厚さを含まない。
4.杭基礎の場合の被り厚さは，杭天端からとする。

(c)鉄筋組立後の被り厚さは，最小被り厚さ以上とする。

(d)鉄筋相互のあきは下図により，次の値のうち最大のもの以上とする。但し，特殊な鉄筋継手の場合のあきは，特記による。

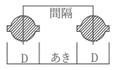
(1)粗骨材の最大寸法の1.25倍

(2)25mm

(3)鉄筋の径(呼び名に用いた数値d)の1.5倍。

(e)鉄骨鉄筋コンクリ-ト造の場合，主筋と平行する鉄骨とのあきは，(d)による。

(f)貫通孔に接する鉄筋の被り厚さは，(c)による。



D:鉄筋の最大外径

3.3 鉄筋の保護

(a)鉄筋の組立後，スラブ，梁等には，歩み板を置きわたし，直接鉄筋の上を歩かないようにする。

(b)コンクリ-ト打込みによる鉄筋の乱れはなるべく少なくする。特に被り厚さ及び間隔の保持に努める。

4. コンクリート工事

4.1 材料及び調合条件

材料及び調合条件は特記された事項以外は次による。

(a)調合において単位水量の最大値は185kg/m53とする。

(b)単位セメント量最小値は270kg/m53とする。

(c)水セメント比最大値は普通ポルトランドセメントは65%とする。

(d)AE剤,AE減水剤,高性能AE減水剤を用いるコンクリートの所要空気量目標値は4.5%とする。

(e)コンクリートに含まれる塩化物質は塩化物イオン量で0.3kg/m53以下とする。

(f)砂利は25mm、砕石,高炉スラグ粗骨材及び電気炉酸化スラグ粗骨材は20mmとする。

4.2 型 枠

(a)型枠はせき板と支保工から構成し作業荷重・コンクリート自重及び側圧・打込み振動及び衝撃・水平荷重等の外力に耐え，所要の品質が得られるように設計する。

(b)型枠の取外しは型枠の最小存在期間を経た以後に行う。
普通ポルトランドセメント：在置期間平均気温15℃以上3日、5℃以上5日、0℃以上8日で型枠取り外しとする。
但し，圧縮強度による場合は設計基準強度の85%以上または12N/mm52以上かつ施工中の荷重及び外力について構造計算により安全であることが確認されるまで。

4.3 養 生

(a)コンクリート養生は寒冷期においては打ち込み後5日間以上はコンクリート温度を2℃以上に保つ。
また気温が高い場合にはコンクリート表面が乾燥しないよう5日間以上湿潤に保つ。

4.4 コンクリート強度試験

(a)圧縮強度試験はJIS A 1108に従って実施し3個の供試体の平均値を求める。
供試体の養生方法は現場水中養生とする。

5. 基礎及び基礎梁の配筋

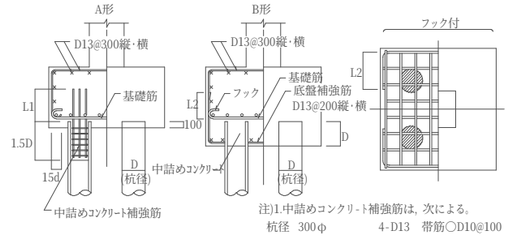
5.1 杭基礎

杭基礎の配筋及び杭頭補強の方法は，次による。

(1)杭の杭頭補強の方法は下図のA形又はB形とし適用は特記による。特記がなければB形とする。

(2)中詰めコンクリ-トは，基礎のコンクリ-トと同じ調合のコンクリ-トを使用する。

(3)既製コンクリ-ト杭以外の場合は，特記による。



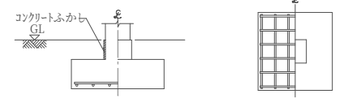
注)1.中詰めコンクリ-ト補強筋は，次による。

杭径		
300φ	4-D13	帯筋○D10@100
350φ～400φ	6-D13	
450φ～600φ	8-D13	

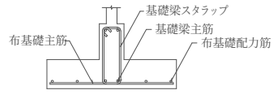
2.中詰めコンクリ-ト補強筋は，フックを付けない。

5.2 直接基礎

(a)直接基礎(独立基礎)の場合の配筋は，次図による。

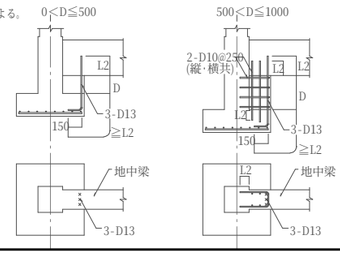


(b)直接基礎(連続基礎)の場合の配筋は，次図による。



5.3 基礎接合部の補強

基礎接合部の補強は，次図による。



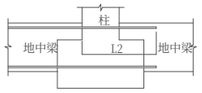
5.4 基礎梁

(a)一般事項

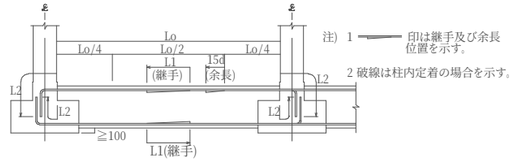
(1)上端主筋の定着は，やむを得ない場合，上向きとすることができる。

(2)梁筋は，原則として柱をまたいで引き通すものとし，引き通すことができない場合は，柱内に定着する。但し，やむを得ず梁内に定着する場合は，下図による。

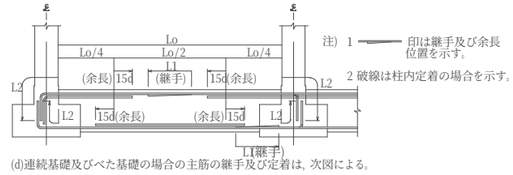
(3)梁筋を柱内に定着する場合は，梁筋は，柱の中心軸を越えてから定着する。



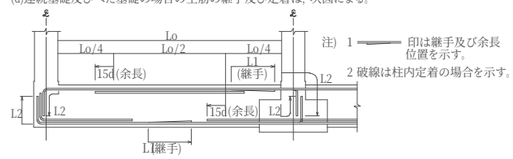
(b)基礎梁にスラブがつかない独立基礎の場合の主筋の継手及び定着は，次図による。



(c)基礎梁にスラブがつく独立基礎の場合の主筋の継手及び定着は次図による。但し耐圧スラブがつく場合は(d)による。

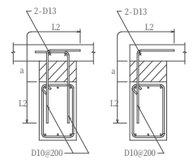


(d)連続基礎及びべた基礎の場合の主筋の継手及び定着は，次図による。



(e)土間スラブの打継ぎ補強

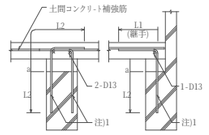
基礎梁とスラブを一体打ちとしないで打継ぎを設ける場合の補強は特記による。特記がなければ次図による。
但し土間スラブとは土に接するスラブでS形の配筋によるもの。



注) 1 a≦300mm

(f)土間コンクリ-トの補強

土間コンクリ-トの補強筋は特記による。尚基礎梁との接合部は次図による。

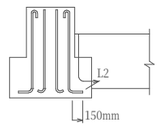


注) 1 土間コンクリ-ト補強筋の鉄筋径及びピッチに合わせる。

2 a≦350mm程度

5.5 基礎柱

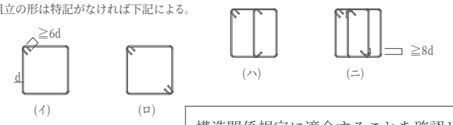
(a)定着及び余長は次図による。但し，柱頭定着長さL2が確保できない場合は特記による。



注) 1 3.1(j)(l)で定めた鉄筋には，フックを付ける。

2 隣合う継手の位置は，3.1(1)()による。

(b)フ-プ組立の形は特記がなければ下記による。



フック及び継手の位置は交互とする。

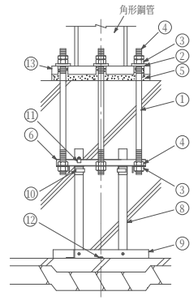
構造関係規定に適合することを確認した。
構造設計一級建築士 第 5743 号
一級建築士 第 74143 号
前田 清行

有限会社 環境計画建築研究所 DESIGN ENVIRONMENTAL	1級建築士事務所登録１５７２号 1級建築士登録６２４５６号 矢田和弘			工事名	永井隆記念館施設整備事業 永井隆記念館建設（建築主体）工事	図面名	鉄骨構造標準図３
縮尺	—	図番	S-03				

構造図作成者：矢野雅男 一級建築士 第 231540 号

1．工法概要

1．1 構成部材

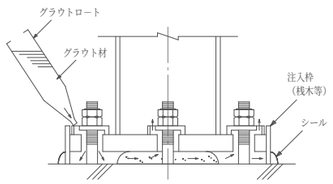


①ハイテンアンカー（アンカーボルト）
②注入座金
③NTナット
④Sナット
⑤ベースパックグラウト（グラウト材）
⑥定着ベルト
⑦テンプレート
⑧フレームポスト
⑨フレームベース
⑩ベルト受け金物
⑪ベルト固定具
⑫ステコンアンカー
⑬ベースプレート

(注)上記①～⑬の構成部材は
ベースパック構成部品として供給される。

(注)上記⑦～⑫は現場状況により
仕様が異なる場合がある。

1．2 柱脚の定着方法概要



2．柱

F値(N/mm²)	鋼種	採用
235	STK400	●
	STKN400	
295	BCR295	●
325	BCP325	
	STKR490	

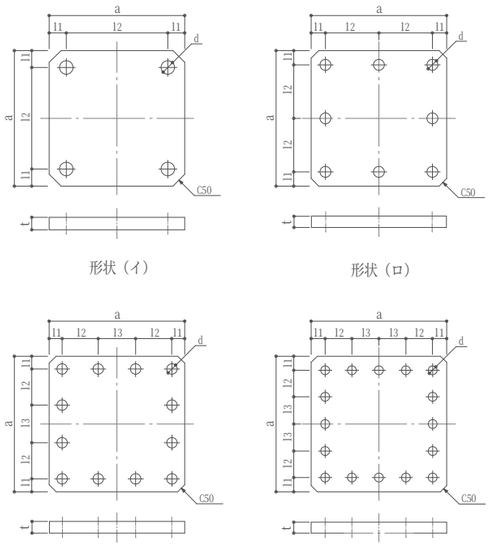
（注）組立柱は適用外

3．構成部材・寸法

3．1 ベースプレート

●材質
TMCP325B（基準強度325N/mm²）　【建築基準法第３７条第二号に基づく国土交通大臣認定材料】

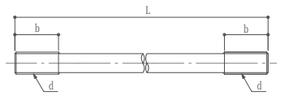
●形状寸法
各寸法は、各仕様毎に「ベースパックNT柱脚工法設計施工標準図2/3・3/3」に記載の値とする。



3．2 ハイテンアンカー（アンカーボルト）

【建築基準法第３７条第二号に基づく国土交通大臣認定材料】

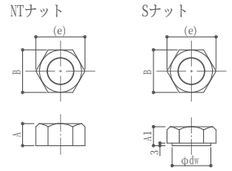
●引張強さ：880N/mm² 以上
（転造ねじ 降伏比75%以下）



単位 mm

呼びd	L	b
M36	870	140
M39	880	140
M42	940	150
M45	950	150
M48	1010	160
M52	1030	170
M56	1100	180
M60	1170	200
M64	1220	200

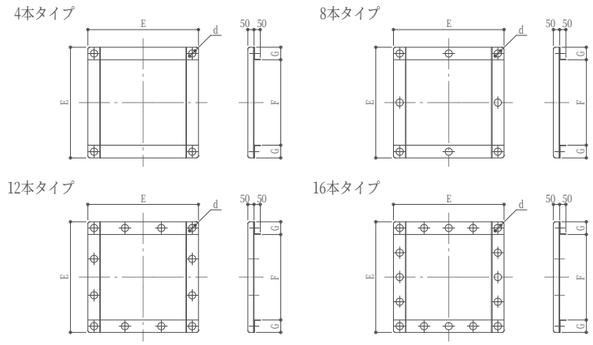
3．3 NTナット【建築基準法第３７条第二号に基づく国土交通大臣認定材料】・Sナット



単位 mm

呼び	A	A1	B	(e)	dw
M36	29	21	55	64	44
M39	31	23	60	69	44
M42	34	25	65	75	59
M45	36	27	70	81	59
M48	38	29	75	87	59
M52	42	31	80	92	59
M56	45	34	85	98	74
M60	48	36	90	104	74
M64	51	38	95	110	74

3．4 定着ベルト



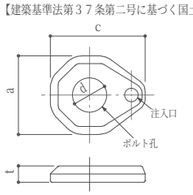
単位 mm

記号	E	F	G	d
S300Z04	530	330	100	45
300Z08	530	330	100	45
S350A04	530	330	100	60
S350Z08	560	360	100	45
350ZS400Z08	620	420	100	45
350AS400A08	620	420	100	60
400A08	660	460	100	60
S450Z08	690	490	100	45
S450A08	690	490	100	60
450A08	720	520	100	60
450B08	770	510	130	75

記号	E	F	G	d
S500A08	740	540	100	60
500A08	760	560	100	60
500B08	830	570	130	75
S550A08	810	610	100	60
S550B08	860	600	130	75
550B08	880	620	130	75
550B12	880	620	130	75
S600A08	860	660	100	60
S600B08	910	650	130	75
600A12	880	680	100	60
600B12	930	670	130	75

記号	E	F	G	d
S650A12	930	730	100	60
650B12	980	720	130	75
S700A12	980	780	100	60
S700B12	1030	770	130	75
700A16	980	780	100	60
700B16	1030	770	130	75
S750A12	1030	830	100	60
S750B12	1130	870	130	75
750A16	1070	870	100	60
750B16	1120	860	130	75

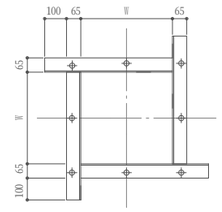
3．5 注入座金【建築基準法第３７条第二号に基づく国土交通大臣認定材料,S45C】



単位 mm

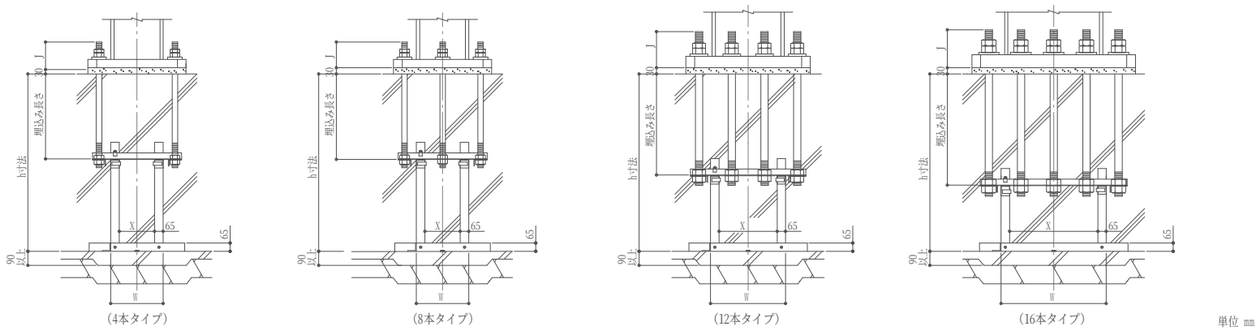
適用アンカーボルト	a	c	t	d
M36	86	115	25	37
M39	94	122	25	40
M42	98	125	25	43
M45	106	133	25	46
M48	112	138	25	49
M52	120	145	25	53
M56	128	153	25	57
M60	138	161	25	61
M64	146	168	25	65

3．6 フレームベース



3．7 アンカーフレーム形状および据付け時諸寸法

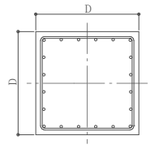
●ベースパックの据付け高さ（h寸法）はフレームベース下端からコンクリート柱型天端までを示す。
据付けに最低限必要な高さ（最低h寸法）は「ベースパックNT柱脚工法設計施工標準図2/3・3/3」表に記載の値とする。



単位 mm

4．コンクリート柱型

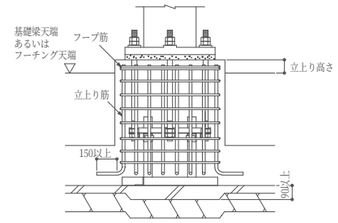
4．1 形状・材質



●コンクリート
普通コンクリートとし、設計基準強度は
「ベースパックNT柱脚工法設計施工標準図2/3・3/3」に記載の値とする。
（注）設計基準強度が21N/mm² 以上の仕様と24N/mm² 以上の
仕様があります。特記に明記願います。

●鉄筋
立上り筋：SD345
フープ筋：SD295

4．2 配筋・基礎立上り



●立上がり筋の下部折り曲げは300mm以上とする。

●基礎立上がり高さは、200mm以下とする。
ただしブレースが接合する場合は50mm以下とする。

5．工場製作（溶接）

■組立
●ベースプレートの中心に柱材軸心を合わせる。

■溶接方法（完全溶込み溶接）
●特記なき場合は「ベースパックＮＴ標準施工要領書」による。

完全溶込み溶接の開先標準（JASS 6　鉄骨工事 2007年版より）

図	溶接方法	適用板厚T(mm)	ルート間隔G(mm) 標準値	ルート間隔G(mm) 許容差	ルート面R(mm) 標準値	ルート面R(mm) 許容差	開先角度α1(°) 標準値	開先角度α1(°) 許容差	溶接姿勢
	被覆アーク溶接	6～	7	-2,+∞（-3,+∞）	2	-2,+1（-2,+2）	α1：45	-2.5,+∞（-5,+∞）	下向き
			9	-2,+∞（-3,+∞）	2	-2,+1（-2,+2）	α1：35		
	ガスシールドアーク溶接 セルフシールドアーク溶接	6～	6	-2,+∞（-3,+∞）	2	-2,+1（-2,+2）	α1：45	-2.5,+∞（-5,+∞）	下向き
			7	-2,+∞（-3,+∞）	2	-2,+1（-2,+2）	α1：35		

許容差・記号+∞は制限無しを示す。
・「鉄骨精度検査基準」に規定する許容差（左：管理許容差、右括弧内：限界許容差）を示す。

●溶接条件

溶接材料

柱材の引張強さ	溶接材料の規定及び種類
400N/mm² 級	JIS Z 3211　（軟鋼用被覆アーク溶接棒）D43XX JIS Z 3212　（高張力鋼用被覆アーク溶接棒）D50XX JIS Z 3312　（軟鋼及び高張力鋼用マグ溶接ソリッドワイヤ）YGW-1X JIS Z 3313　（軟鋼、高張力及び低温用鋼用被覆アーク溶接フラックス入りワイヤ）YFW-X430X ,YFW-X50XX 等
490N/mm² 級	JIS Z 3212　（高張力鋼用被覆アーク溶接棒）D50XX JIS Z 3312　（軟鋼及び高張力鋼用マグ溶接ソリッドワイヤ）YGW-11,YGW-12 YGW-13(CO_2 用),YGW-15,YGW-16(Ar-CO_2 用) JIS Z 3313　（軟鋼、高張力及び低温用鋼用被覆アーク溶接フラックス入りワイヤ）YFW-X50XX 等

（注）表中のXは、記号あるいは数字の省略を表す。

■ベースプレートの予熱
●気温(鋼材表面温度)が5°C以上でのベースプレートの予熱は次に示す予熱温度標準により行う。
その他必要に応じて適切な予熱をする。

ベースプレートの予熱温度の標準

溶接方法 ＼ 材質・板厚(mm)	TMCP鋼 40≦t≦75	TMCP鋼 75<t≦100
低水素系被覆アーク溶接	50 ℃	80 ℃
CO₂ガスシールドアーク溶接	予熱なし	50 ℃

構造関係規定に適合することを確認した。
構造設計一級建築士　第 5743 号
一級建築士　第 74143 号
前田　清行

■検査方法：溶接部の検査は超音波探傷検査により行う。探傷は柱側から行う。
■不良溶接部の補正：有害な欠陥のある溶接部は削除して再溶接する。
■施工管理：７．本工法の施工及び施工管理参照。

有限会社 環境計画建築研究所 DESIGN ENVIRONMENTAL
１級建築士事務所登録１５７２号
１級建築士登録６２４５６号
矢田和弘

工事名	永井隆記念館施設整備事業 永井隆記念館建設（建築主体）工事
図面名	既製固定柱脚 設計施工標準図１
縮尺	—
図番	S-04

構造図作成者：矢野雅男　一級建築士　第 231540 号

6．工事場施工

6．1 基礎工事

●柱脚部の捨コンの厚さは90㎜以上とし、表面は平滑に仕上げる。

6．2 アンカーボルトの据付け

●ハイテンアンカー（アンカーボルト）の据付けは、予め捨てコン上にセットされたフレーム上に、定着ベルト・ハイテンアンカー・テンプレート等でアンカーユニットを組立て、フレームに固定する。
●フレームベースは、ステコンアンカーにより水平に固定する。
●位置決めは、テンプレートの中心位置と地墨等の柱心を合致させることにより行う。
標準許容差は下図による。

6．3 配筋およびコンクリート打設

●配筋はアンカーユニットおよびフレームとの取り合いを考慮する。
●コンクリート打設前にテンプレート位置精度を確認する。

6．4 建方

●レベルモルタル施工は、ベースパックグラウト(グラウト材)を使用し大きさは下図による。

6．5 アンカーボルトの本締め(弛み止め)

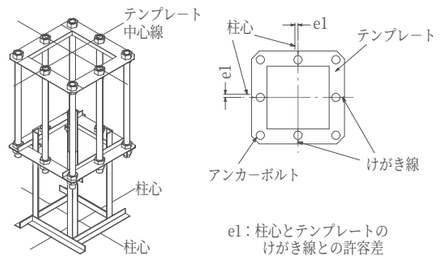
●本締めはグラウト材の充填前に行い、ダブルナットを標準とする。なお、余長は20㎜以上確保する。

6．6 ベースパックグラウト（グラウト材）の注入

●グラウト材のカクハンは、グラウト材1袋(25kg)に対して、計量カップで4.0～4.6ℓの水を加え、電動カクハン機で混練することにより行う。
●グラウト材の注入は、グラウトロートを注入座金にセットし、グラウト材の自重圧により他の注入座金からグラウト材が噴き出るまで行う。

6．7 ベースパックにおける標準許容差

図

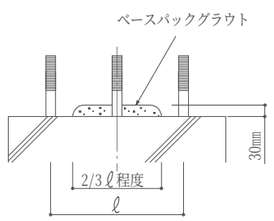


e1：柱心とテンプレートの
けがき線との許容差

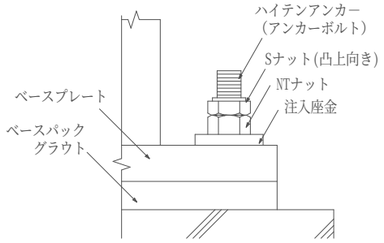
標準許容差

-2≦e1≦2
ボルト天端の基準高さより誤差は
-10≦e≦10

レベルモルタル施工方法



ナット弛み止め



7．本工法の施工及び施工管理

●本工法は、管理者又は施工者（元請）の管理のもとで実施するものとする。
●本工法のうち6．2アンカーボルトの据付け及び6．6ベースパックグラウトの注入は、ベースパック施工技術委員会によって認定された有資格者（ベースパック施工管理技術者・施工技能者）が施工を実施し、チェックシート等により施工管理を行うものとする。
●ベースプレート溶接部の施工管理は、鉄骨製作業者に属する鉄骨製作管理技術者等による。

採用	ベースパック記号	柱 外径(㎜)	柱 板厚(㎜)	ベースプレート 材質	ベースプレート 形状	寸法(㎜) a	寸法(㎜) t	寸法(㎜) l1	寸法(㎜) l2	寸法(㎜) l3	寸法(㎜) d	アンカーボルト 本数-呼び	アンカーボルト 基準強度(N/mm2)	アンカーフレームタイプ	コンクリート柱型 寸法D(㎜) 標準フレーム	コンクリート柱型 寸法D(㎜) 特C	コンクリート柱型 配筋 立上り筋	コンクリート柱型 配筋 フープ筋	コンクリート柱型 設計基準強度(N/mm2)	フレームベース 寸法W(㎜) 標準フレーム	フレームベース 寸法W(㎜) 特C	フレームポスト間 寸法X(㎜) 標準フレーム	フレームポスト間 寸法X(㎜) 特C	最低h寸法(㎜)	J寸法(㎜)
●	15-12V	□-150×150	t≦12	SN490B	（イ）	300	28	50	200	-	φ45	4-M27	490	A	500	-	12-D16	D13@100	21	250	-	150	-	550	135
●	20-12V	□-200×200	t≦12	SN490B	（イ）	360	32	50	260	-	φ50	4-M33	490	A	560	-	12-D19	D13@100	21	310	-	210	-	600	135
●	216-13V2	φ190.7、φ216.3	t≦12.7	SN490B	（イ）	350	36	55	240	-	φ45	4-M30	490	A	540	-	12-D16	D13@100	21	290	-	190	-	600	135

構造関係規定に適合することを確認した。
構造設計一級建築士　第 5743 号
一級建築士　第 74143 号
前田　清行

有限会社 環境計画建築研究所 ENVIRONMENTAL DESIGN
1級建築士事務所登録１５７２号
1級建築士登録６２４５６号
矢田和弘

工事名　永井隆記念館施設整備事業
永井隆記念館建設（建築主体）工事

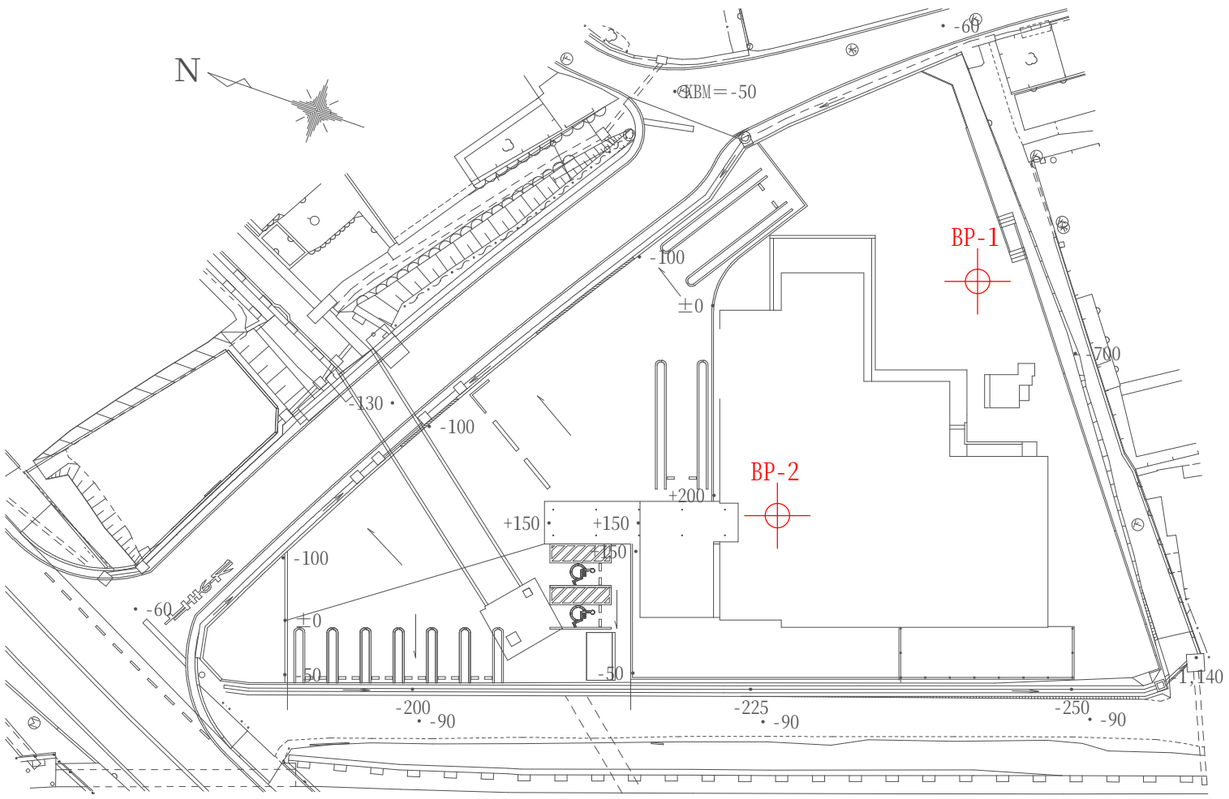
図面名　既製固定柱脚
設計施工標準図２

縮尺　—

図番　S-05

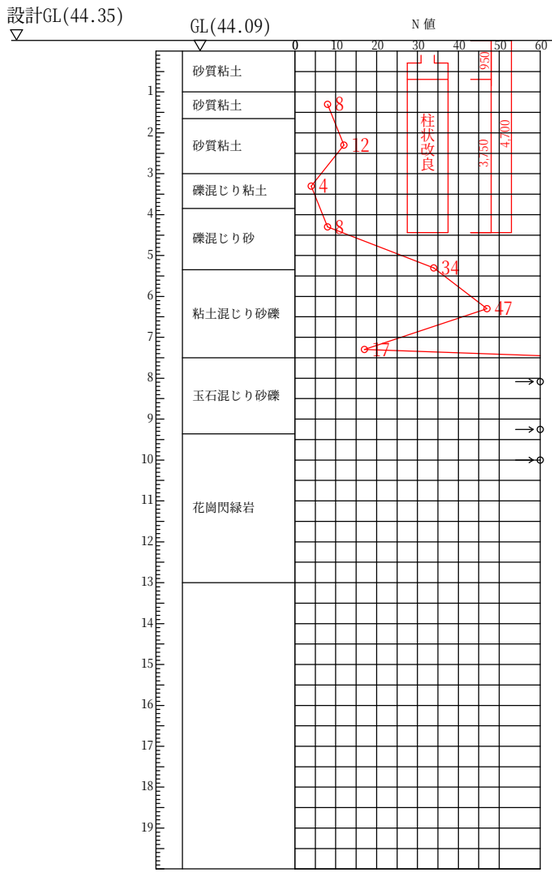
構造図作成者：矢野雅男　一級建築士　第 231540 号

造成FH＝44.15＝-200
KBM＝44.20＝-150
Z1＝44.35＝0

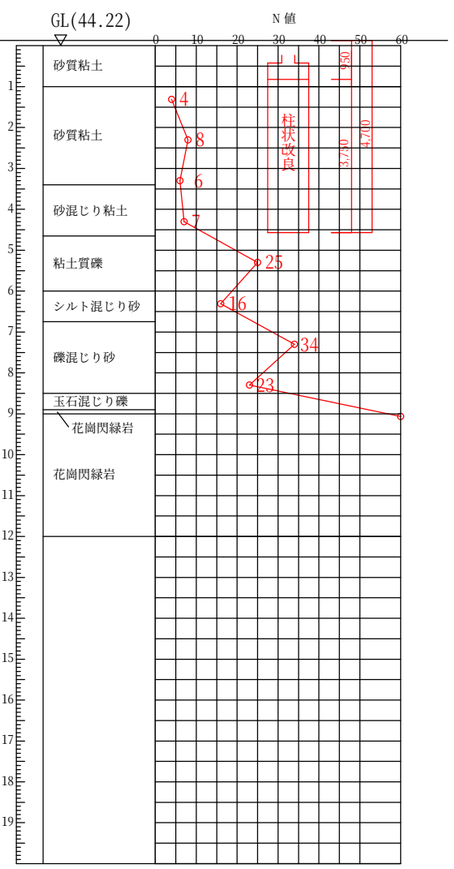


ボーリング位置図

BP-2　1:150



BP-1　1:150



構造関係規定に適合することを確認した。
構造設計一級建築士　第 5743 号
一級建築士　第 74143 号
前田　清行

有限会社 環境計画建築研究所 DESIGN ENVIRONMENTAL	1級建築士事務所登録１５７２号 1級建築士登録６２４５６号 矢田和弘			工事名	永井隆記念館施設整備事業 永井隆記念館建設（建築主体）工事	図面名	ボーリング柱状図	縮尺 1：150	図番 S-06

構造図作成者：矢野雅男　一級建築士　第 231540 号

深 層 混 合 処 理 （ ソ イ ル セ メ ン ト コ ラ ム ） 工 法 特 記 仕 様 書

１．工事概要

本工事は、深層混合処理（ソイルセメントコラム）工法による地盤改良地業であり、その工法概要はスラリー状のセメント系固化材を地盤に注入しながら土の共廻り防止翼を装着した攪拌装置を用いて、原地盤土と機械的に混合攪拌し、固化材の化学反応により所要の強度を持つ改良柱体を築造するものである。

２．一般事項

本工事は、本特記仕様書によるほか、「改訂版　建築物のための改良地盤の設計及び品質管理指針　平成14年11月」（日本建築センター、以下建築センター指針という）による。

３．特記事項

(1)　コラム径、掘削深度（改良長＋空堀長）、本数、配置は設計図書による。但し、コラム径・長さ・本数・位置及び固化材液の配合等について、土質や地盤状況により変更した方が適切と判断される場合は、監督員の承認の下に変更することができる。

(2)　コラムの設計基準強度　Ｆc＝1000 kN／m2　（品質検査方法は建築センター指針の要領に準拠する）

(3)　使用する工法は建築技術性能証明（(財)日本建築総合試験所）又は建築技術審査証明（(財)日本建築センター）等によりその性能を証明された工法とする。（ウルトラコラム工法同等）

４．施工計画

(1)　本工事施工業者は、本工法の施工技術に精通したものとする。

(2)　施工計画

工事に先立ち、施工計画書を監督員に提出する。施工計画書は、次の事項を明記する。

ａ　地盤概要
ｂ　工事内容（コラム径，空掘長，改良長，本数，設計基準強度）
ｃ　工事期間及び工程
ｄ　工事要領（使用固化材・配合・攪拌翼の昇降速度・吐出量等）
ｅ　施工機器および仮設設備と配置
ｆ　配合管理の方法
ｇ　施工管理の方法
ｈ　品質検査の方法
ｉ　各種作業の主たる従事者の組織表
ｊ　施工記録の方法
ｋ　環境の保全対策
ｌ　安全対策
ｍ　建築請負業者の本工事責任者名
ｎ　本工事施工業者名及び責任者名

５．施　　工

(1)　基本的な施工手順を以下に示す。施工の障害になる事項が出現した場合は別途検討する。

ａ　攪拌装置をコラム芯にセットする。
ｂ　所定の空掘深度まで掘削する。
ｃ　固化材液を吐出しながら掘進混合攪拌する。
ｄ　所定深度に到達したら、固化材液の吐出を停止し、先端部練返し（混合攪拌しながら攪拌装置を上昇、下降）をする。
ｅ　攪拌装置を回転させながら引き上げる。

(2)　本工事により排土される発生残土は場内処分とする。

(3)　施工に対して疑義が生じた場合は、ただちに監督員と協議し、その指示を受ける。

６．施工機器

(1)　固化材と原位置土を一体のものとして確実に混合攪拌ができ、土の共廻り現象を防止する攪拌装置を用いること。

(2)　所定の施工管理項目を計測、記録できる管理装置を用いること。

(3)　改良機本体は、施工仕様を満足する制御機器及び記録計を装備し、自走式とする。

(4)　ミキシングプラントは、所定吐出量を十分供給できるものとする。

７．配合管理

(1)　固化材液に使用する固化材は、セメント又はセメント系固化材とする。

(2)　配合強度

変動係数を想定し、９項に規定する抜き取りｯ所数N、合格確率８０％とした下表を用いて設定する。
Ｘf＝α・Ｆc　【α：割り増し係数　、Ｘf：配合強度：室内材令２８日での管理値（kN/m2）】

変動係数	N	1	2	3	4～6	7～8	9以上
２５％	α	２．１６３	１．９１８	１．８１５	１．７１９	１．６５１	１．５９４
３０％	α	２．５９７	２．２４０	２．０９５	１．９６１	１．８６９	１．７９２
３５％	α	３．１６０	２．６４９	２．４４８	２．２６５	２．１４０	２．０３７

(3)　固化材液の計画配合

水・固化材比　Ｗ／Ｃ＝ ８０ ％

固化材添加量　　αn ＝ ３００ kg／m3

※上記は計画配合値であり、施工前に現地の土を採取し室内配合試験を行い、実施工での配合を決定する。

(4)　室内配合試験

固化材液の配合（Ｗ／Ｃ）と使用量（添加量）は、室内配合試験の結果に基づいて、現場と室内の強度比を考慮した上、上記の配合強度を満足するように決定する。

８．施工管理

(1)　施工の安定性を確保するため下記に示す項目について施工管理する。

ａ　形状寸法　：鉛直性　　改良機本体のオペレーター室内に設置された傾斜計で管理する。
　　コラム芯　　事前にコラム芯にマークを設ける。コラム芯ずれの管理値は１００㎜以内とする。
　　改良径　　攪拌装置の形状・寸法を記録する。

ｂ　固化材　　：材料計量　　水、固化材の重量を計測する。
　　スラリー比重　　比重計（マッドバランス、重量計等）で計測する。
　　スラリー吐出量　　流量計で計測し記録する。

ｃ　攪拌混合度：掘進・引き上げ速度　　速度計で計測し記録する
　　攪拌装置　　掘削翼、攪拌翼の枚数等。

ｄ　支持地盤　：掘進速度　　速度計で計測し記録する。
　　オーガー抵抗値　　電流計またはトルク計で計測し記録する。

掘進速度、オーガー抵抗値の推移を参考に管理する。

９．品質検査

(1)　検査対象層及び調査ｯ所数､一軸圧縮試験

ａ　調査箇所数は頭部コア、深部コアともにコラム１００本につき１本のコラムから採取を基本とする。
ｂ　検査対象層は「砂質粘土」「礫混り粘土」「礫混り砂」層であるので、設計対象層を「砂質粘土」層とする。
ｃ　調査ｯ所数（総本数：５７本より）
　① 頭部コア：１ｯ所（コラム１本の頭部よりモールドコアにより採取する）
　② 深部コア：３ｯ所（コラム１本の上部、中部、下部の３深度よりモールドコアを採取する）
ｄ　採取したコアを整形し、所定の材令にて一軸圧縮試験を行う。（供試体個数＝３個／ｯ所）
　① 頭部コア：１ｯ所（採取したコアの端部を切断整形し、供試体を作製する－供試体個数：１ｯ所×３個＝３個）
　① 深部コア：３ｯ所（採取したコアの端部を切断整形し、供試体を作製する－供試体個数：３ｯ所×３個＝９個）

(2)　合否の判定

ａ　検査手法はＡを適用する。
ｂ　設計対象層についての抜き取りｯ所数をＮとする。１ｯ所あたりは３個の供試体を採取し、その平均強度をそのｯ所の強度とする。
ｃ　一軸圧縮試験は第三者機関あるいは検査員立会いの下に行うものとする。
ｄ　合否の判定は設計対象層におけるＮｯ所（抜き取りｯ所）の一軸圧縮試験結果が下式を満足する場合を合格と判定する。

Ｘn　＞　ＸL＝Ｆc＋ｋａ・σd

Ｘn：Ｎｯ所の一軸圧縮強度の平均値（kN/m2）
ＸL：合格判定値＝管理値（kN/m2）
Ｆc：設計基準強度（kN/m2）
ｋａ：合格判定係数
σd：標準偏差（kN/m²）＝Ｖ・ｑud
Ｖ　：変動係数（品質確認書による）
ｑud：想定した平均一軸圧縮強さ（kN/m2）
ｑud＝Ｆc／（１－１．３・Ｖ）

合格判定係数

抜き取りｯ所数　N	1	2	3	4～6	7～8	9以上
合格判定係数　ｋａ	１．９	１．７	１．６	１．５	１．４	１．３

１０．報　告

工事完了後、次の事項について報告書をまとめ、３部監督員に提出する。

ａ　コラムの付図及び番号
ｂ　コラムの施工日
ｃ　コラムの径及び掘削深度
ｄ　掘進および引き上げ速度
ｅ　固化材液の配合と使用量
ｆ　コア供試体の強度管理試験結果
ｇ　コア採取率調査結果
ｈ　合格判定結果

１１．その他

本施工前に室内配合試験時の供試体を用いて六価クロム溶出試験を実施し、溶出量が環境庁告示第４６号の土質環境基準値（０．０５mg/ℓ）以下であることを確認する。

試験方法、試験個数等に関しては、平成１３年４月２０日付国官技第１６号国営建第１号「セメントおよびセメント系固化材を使用した改良土の六価クロム溶出試験実施要綱(案)の一部変更について」による。

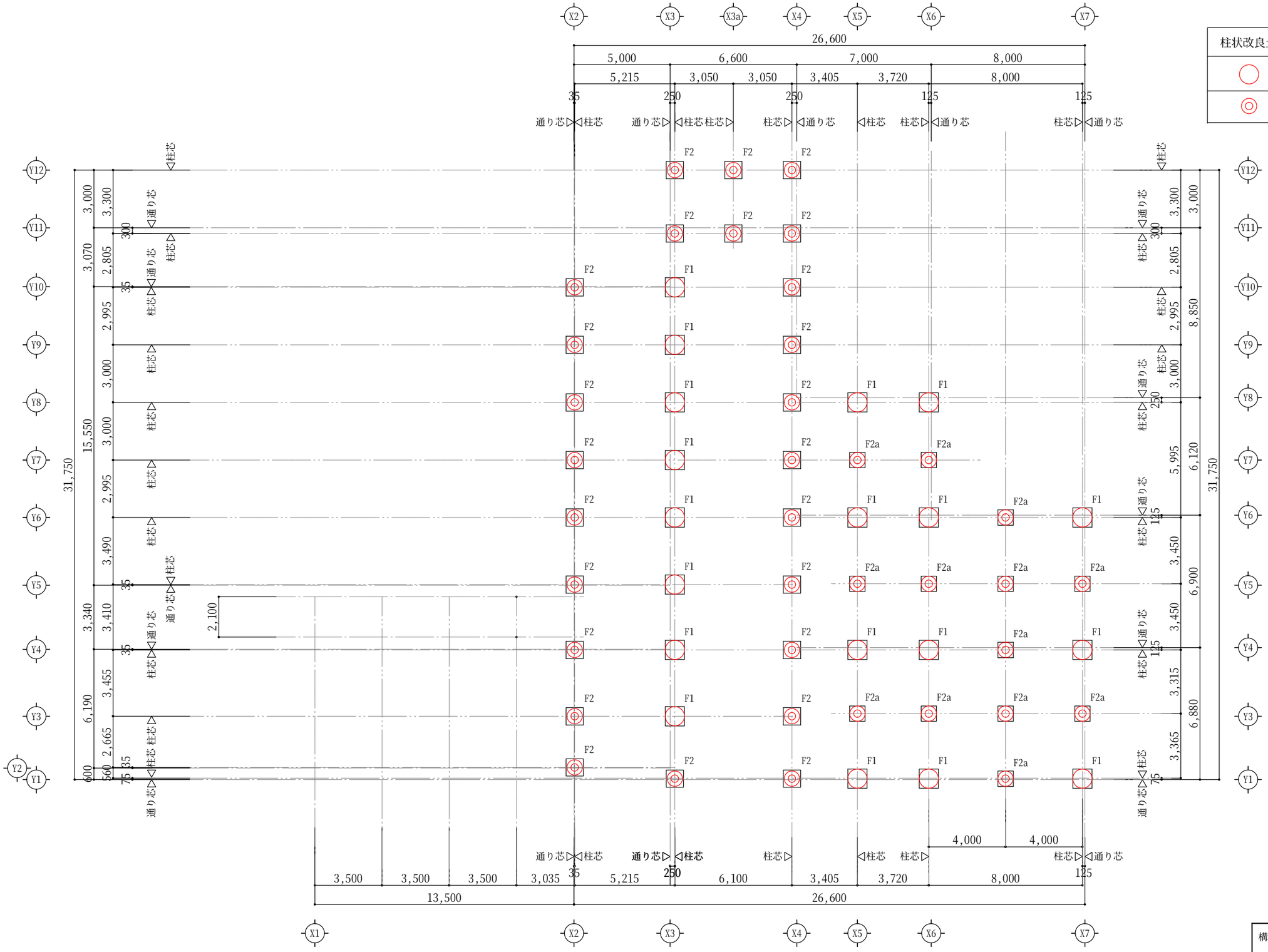
※）本工事における試験種別および個数　：　配合設計の段階で実施する溶出試験　　検体数　1

構造関係規定に適合することを確認した。
構造設計一級建築士　第 5743 号
一級建築士　第 74143 号
前田　清行

有限会社 環境計画建築研究所 DESIGN ENVIRONMENTAL
１級建築士事務所登録１５７２号
１級建築士登録６２４５６号
矢 田 和 弘

工事名	永井隆記念館施設整備事業 永井隆記念館建設（建築主体）工事	図面名	柱状改良工法特記仕様書	縮尺	―	図番	S-07

構造図作成者：矢野雅男　一級建築士　第 231540 号



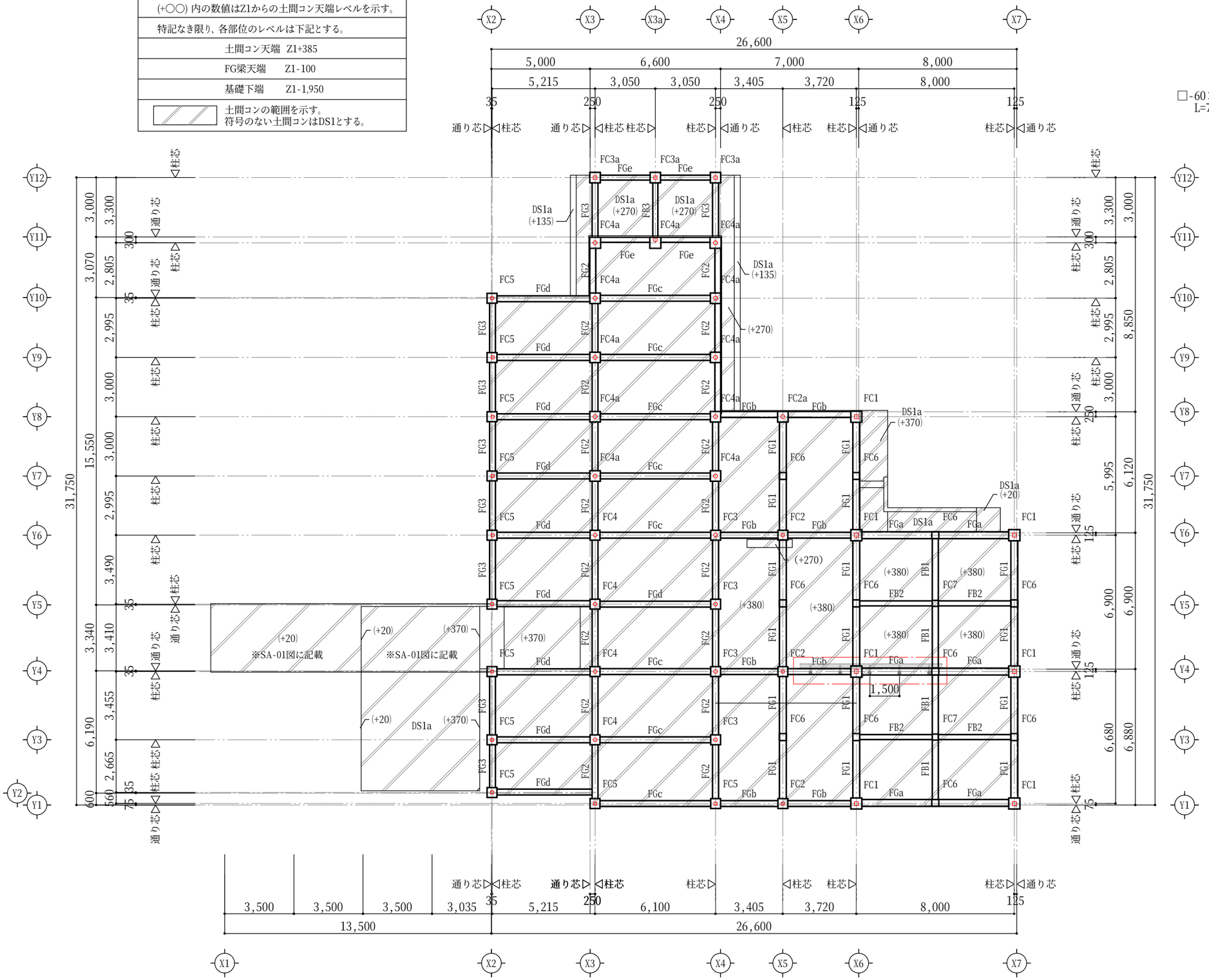
柱状改良土凡例	Fc＝1000kn/㎡	
○	φ1000	19 set
◎	φ800	38 set

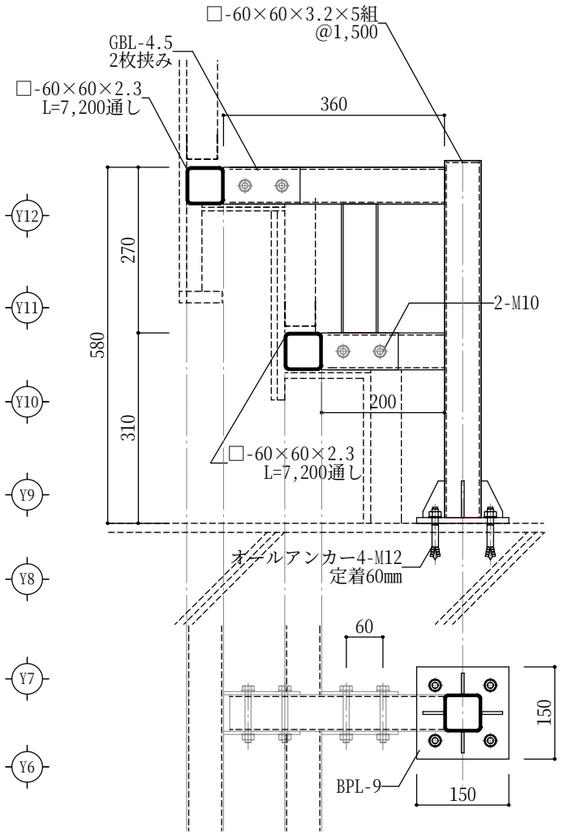
構造関係規定に適合することを確認した。
構造設計一級建築士　第 5743 号
一級建築士　第 74143 号
前田　清行

有限会社 環境計画建築研究所 DESIGN ENVIRONMENTAL	1級建築士事務所登録１５７２号 1級建築士登録６２４５６号 矢田和弘			工事名	永井隆記念館施設整備事業 永井隆記念館建設（建築主体）工事	図面名	基礎杭伏図	縮尺 1/200	図番 S-08

構造図作成者：矢野雅男　一級建築士　第 231540 号

凡例
(+○○) 内の数値はZ1からの土間コン天端レベルを示す。
特記なき限り、各部位のレベルは下記とする。
土間コン天端　Z1+385
FG梁天端　　Z1-100
基礎下端　　Z1-1,950
土間コンの範囲を示す。 符号のない土間コンはDS1とする。





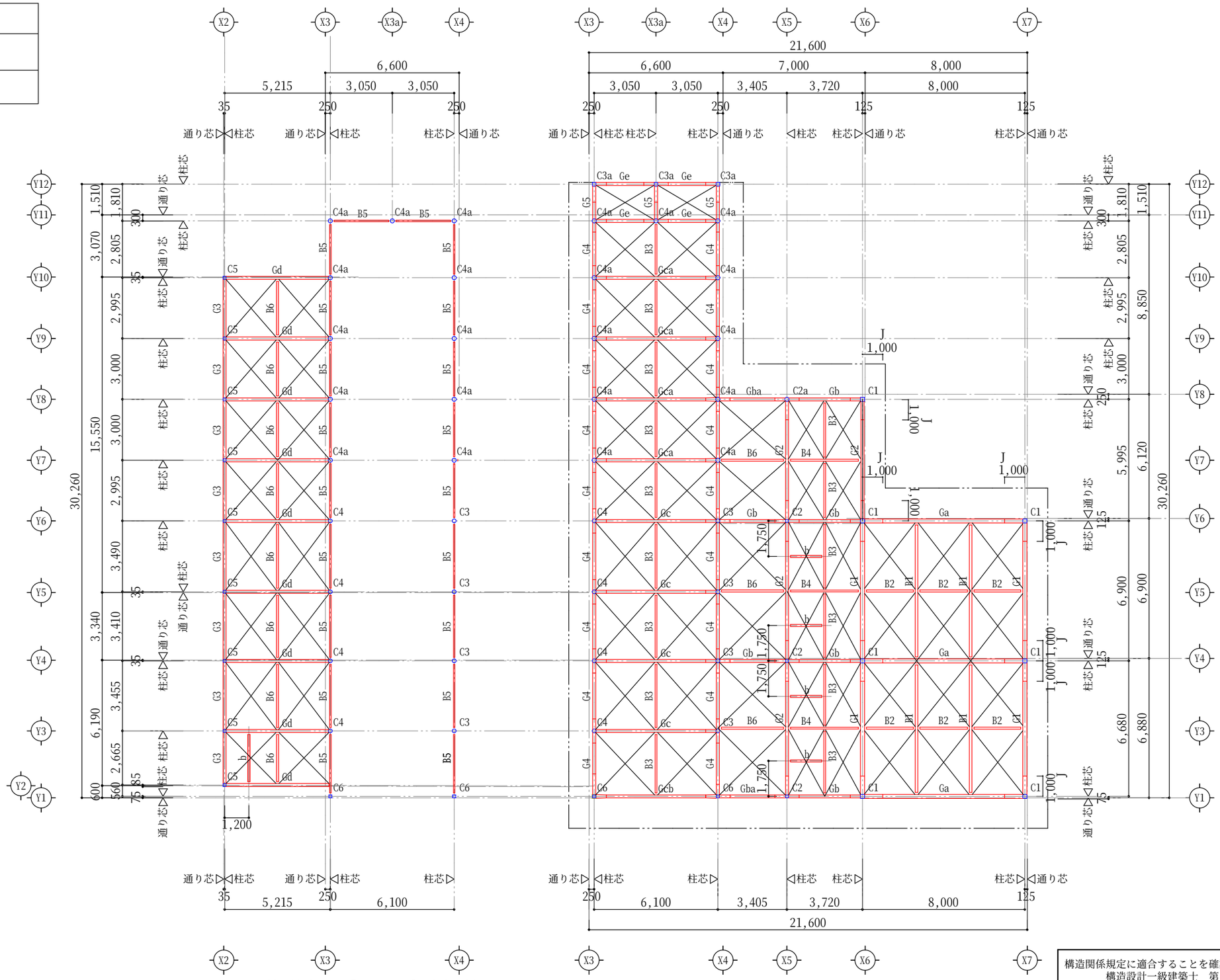
LGS壁受け土台詳細図
S=1/10

構造関係規定に適合することを確認した。
構造設計一級建築士　第 5743 号
一級建築士　第 74143 号
前田　清行

有限会社 環境計画建築研究所 DESIGN ENVIRONMENTAL	1級建築士事務所登録１５７２号 1級建築士登録６２４５６号 矢田和弘			工事名	永井隆記念館施設整備事業 永井隆記念館建設（建築主体）工事	図面名	基礎伏図	縮尺 1/200	図番 S-09

構造図作成者：矢野雅男　一級建築士　第 231540 号

凡例	
J	柱芯からの梁継手位置を示す。 記入のない箇所は600とする。



※B5材の継手HTBは「ホール」「図書室」側に
頭がくるように施工すること。

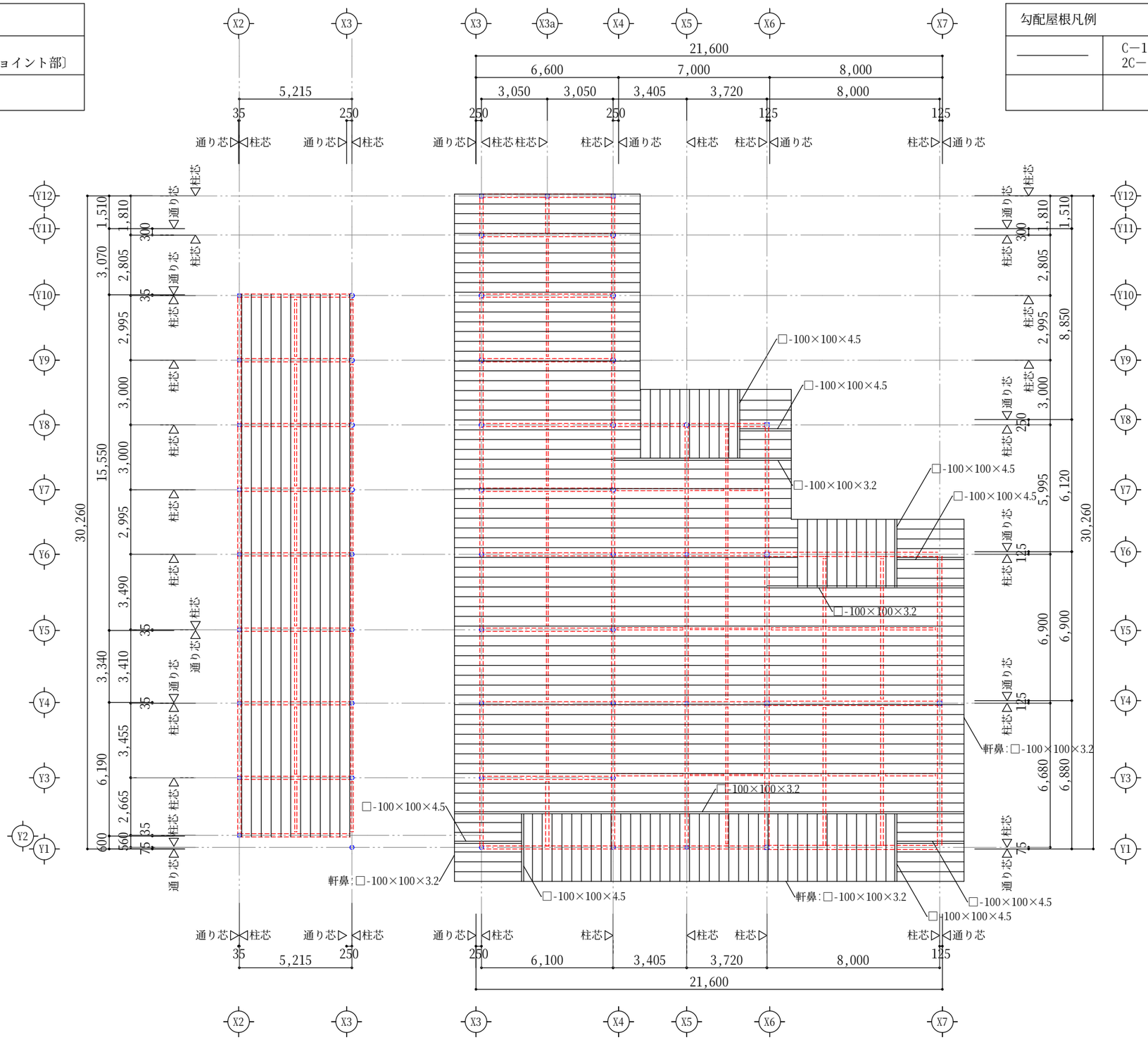
構造関係規定に適合することを確認した。
構造設計一級建築士　第 5743 号
一級建築士　第 74143 号
前田　清行

有限会社 環境計画建築研究所 DESIGN ENVIRONMENTAL	1級建築士事務所登録１５７２号 1級建築士登録６２４５６号 矢田和弘			工事名	永井隆記念館施設整備事業 永井隆記念館建設（建築主体）工事	図面名	鉄骨梁伏図	縮尺 1：200	図番 S-10

構造図作成者：矢野雅男　一級建築士　第 231540 号

陸屋根凡例	
――――	C－100×50×20×3.2@455 2C－100×50×20×3.2〔ジョイント部〕

勾配屋根凡例	
――――	C－125×50×20×2.3@455 2C－125×50×20×2.3〔ジョイント部〕

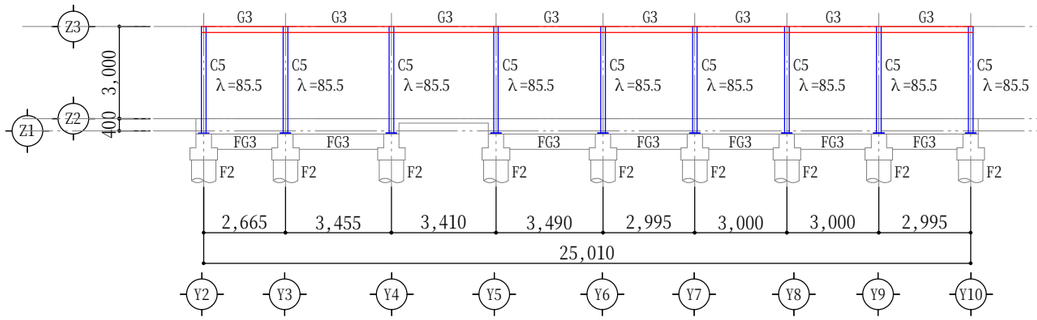


構造関係規定に適合することを確認した。
構造設計一級建築士　第 5743 号
一級建築士　第 74143 号
前田　清行

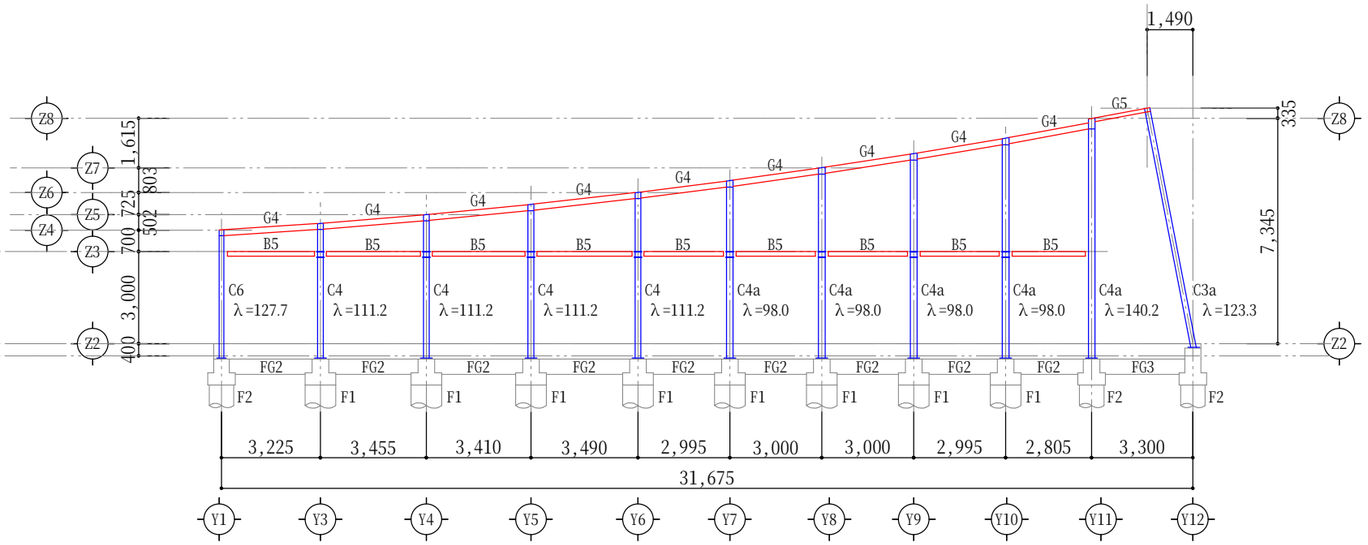
有限会社 環境計画建築研究所 DESIGN ENVIRONMENTAL	1級建築士事務所登録１５７２号 1級建築士登録６２４５６号 矢田和弘			工事名	永井隆記念館施設整備事業 永井隆記念館建設（建築主体）工事	図面名	母屋伏図	縮尺 1：200	図番 S-11

構造図作成者：矢野雅男　一級建築士　第 231540 号

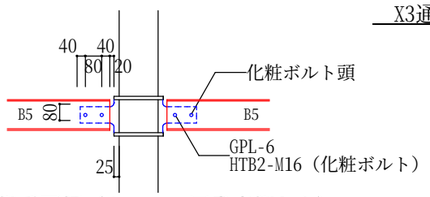
凡例	
J	柱芯からの梁継手位置を示す。 記入のない箇所は600とする。



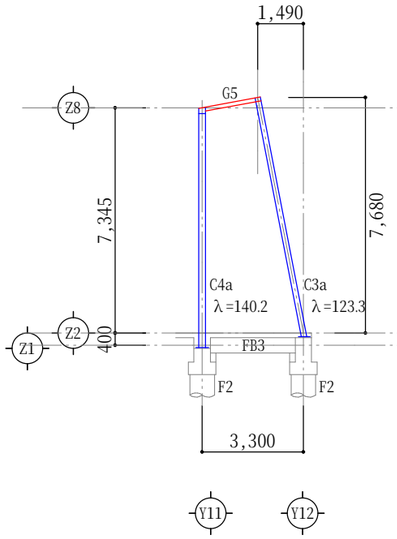
X2通り



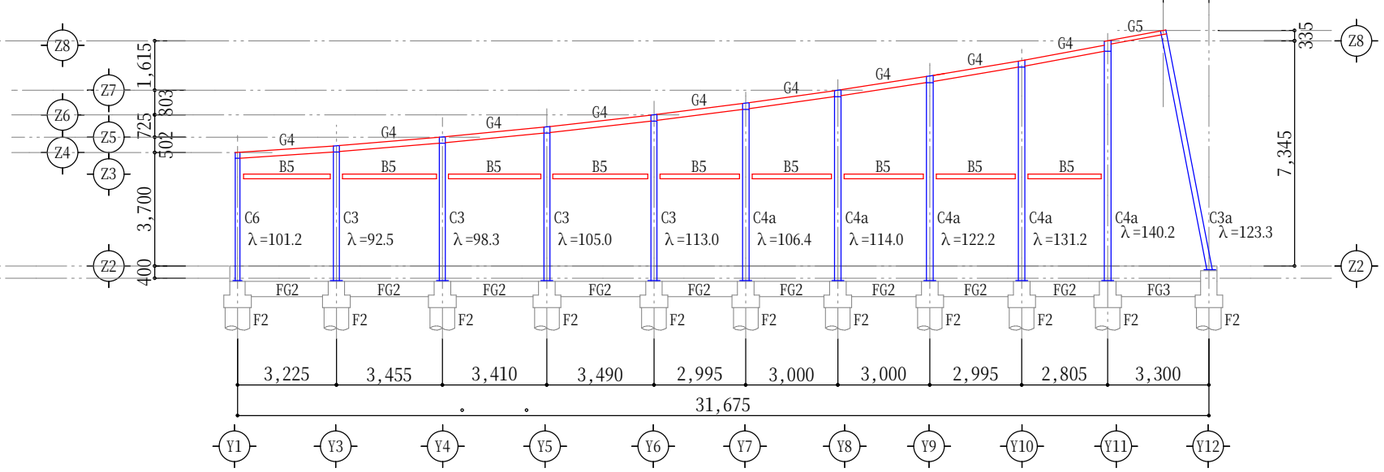
X3通り



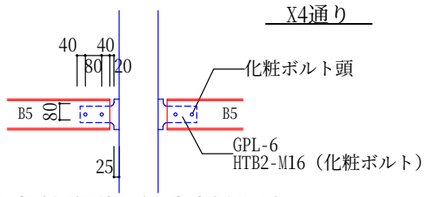
B5梁継手要領（ホール・図書室側から）



X3a通り



X4通り



B5梁継手要領（図書室側から）

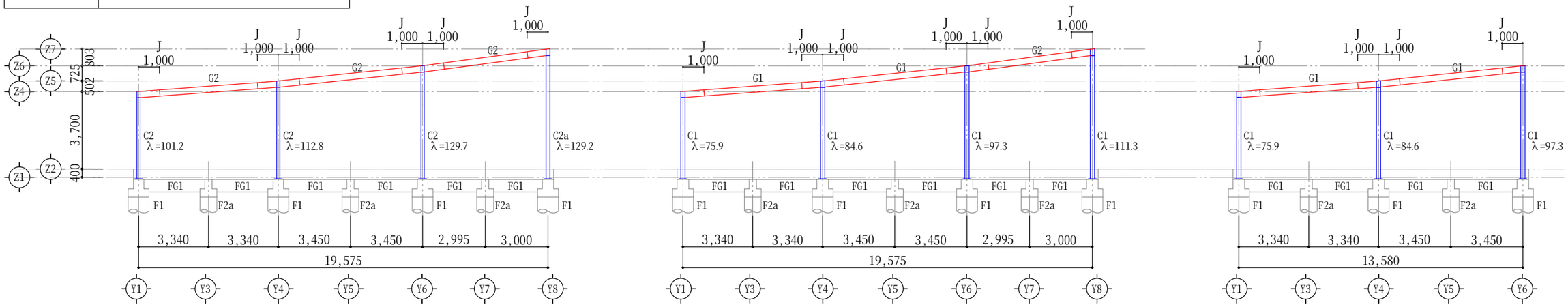
凡例	
J	柱芯からの梁継手位置を示す。 記入のない箇所は600とする。

構造関係規定に適合することを確認した。
構造設計一級建築士　第 5743 号
一級建築士　第 74143 号
前田　清行

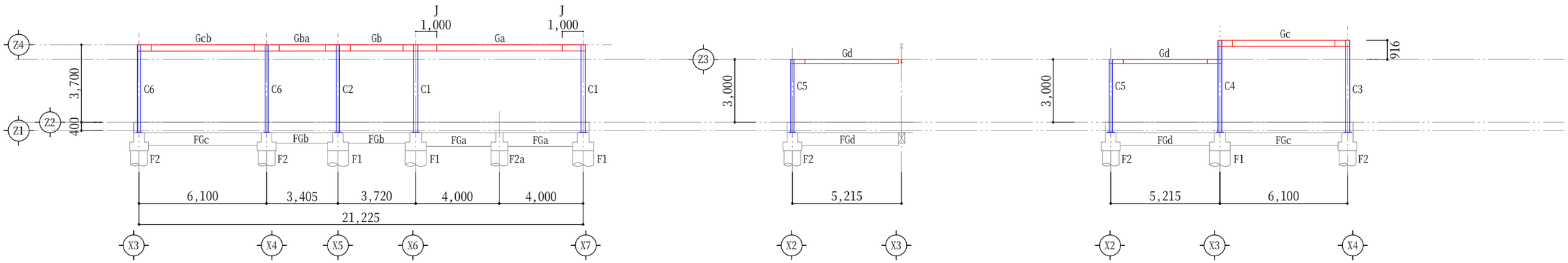
有限会社 環境計画建築研究所 DESIGN ENVIRONMENTAL	1級建築士事務所登録１５７２号 1級建築士登録６２４５６号 矢田和弘		工事名	永井隆記念館施設整備事業 永井隆記念館建設（建築主体）工事	図面名	軸組図１	縮尺 1：200	図番 S-12

構造図作成者：矢野雅男　一級建築士　第 231540 号

凡例	
J	柱芯からの梁継手位置を示す。 記入のない箇所は600とする。



X5通り　　X6通り　　X7通り



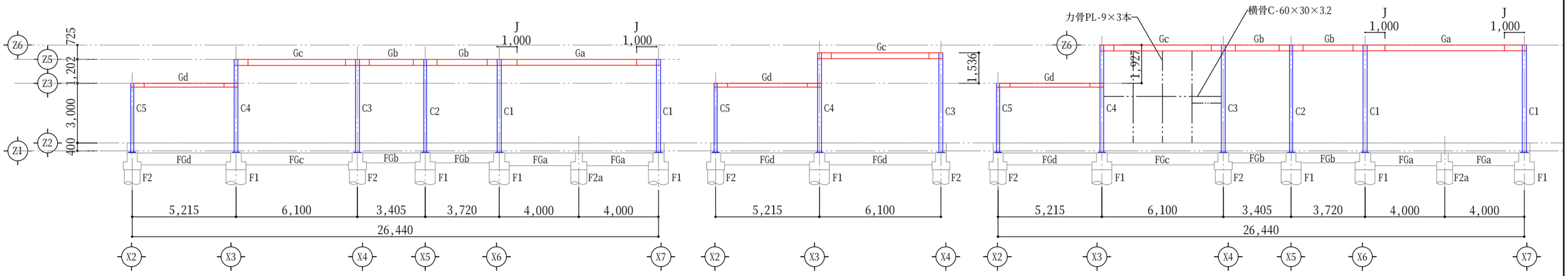
Y1通り　　Y2通り　　Y3通り

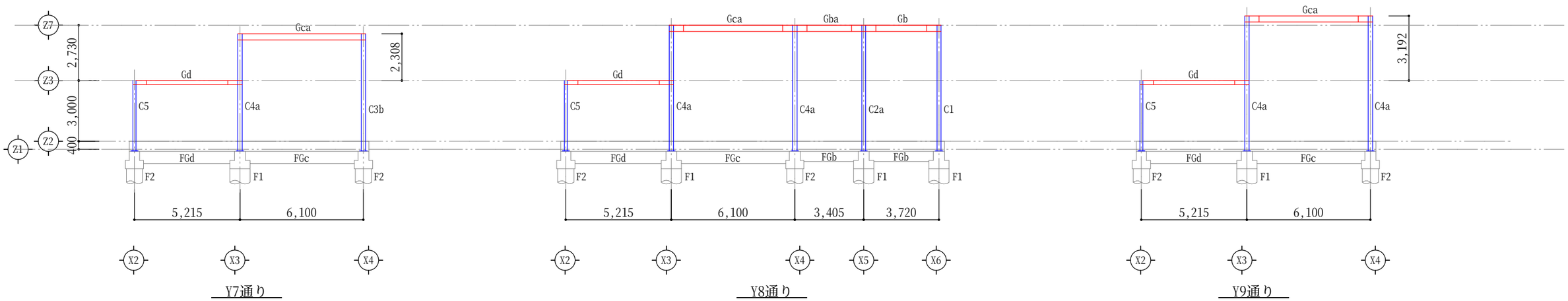
構造関係規定に適合することを確認した。
構造設計一級建築士　第 5743 号
一級建築士　第 74143 号
前田　清行

有限会社 環境計画建築研究所 DESIGN ENVIRONMENTAL	1級建築士事務所登録１５７２号 1級建築士登録６２４５６号 矢田和弘		工事名	永井隆記念館施設整備事業 永井隆記念館建設（建築主体）工事	図面名	軸組図２	縮尺 1：200	図番 S-13

構造図作成者：矢野雅男　一級建築士　第 231540 号

凡例	
J	柱芯からの梁継手位置を示す。 記入のない箇所は600とする。

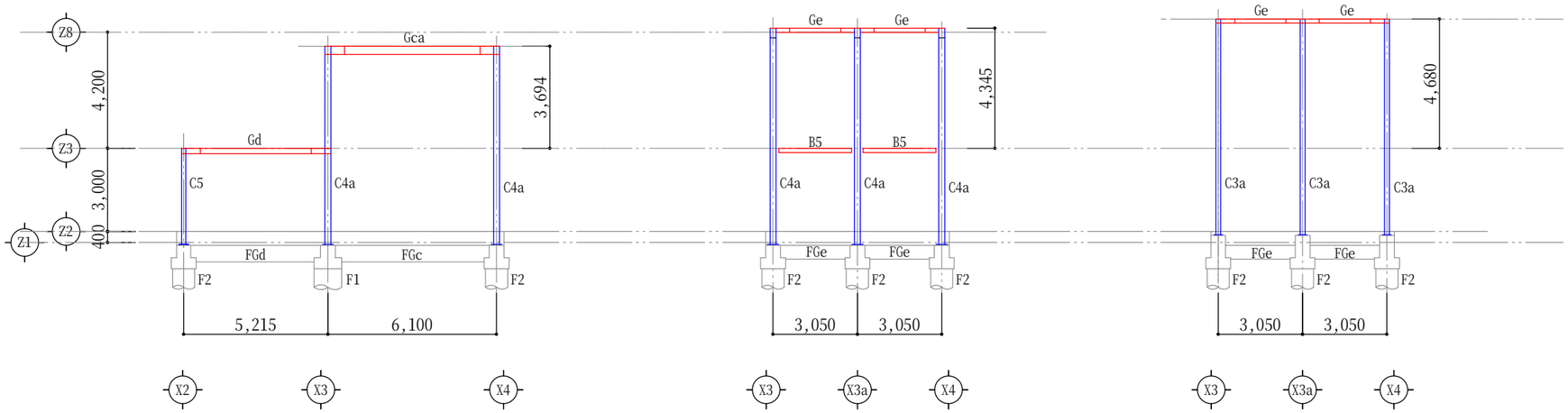




構造関係規定に適合することを確認した。
構造設計一級建築士　第 5743 号
一級建築士　第 74143 号
前田　清行

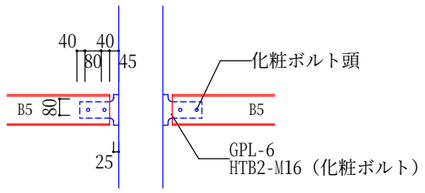
有限会社 環境計画建築研究所 DESIGN ENVIRONMENTAL	1級建築士事務所登録１５７２号 1級建築士登録６２４５６号 矢田和弘		工事名	永井隆記念館施設整備事業 永井隆記念館建設（建築主体）工事	図面名	軸組図３	縮尺 1：200	図番 S-14

構造図作成者：矢野雅男　一級建築士　第 231540 号



Y10通り　Y11通り　Y12通り

凡例	
J	柱芯からの梁継手位置を示す。 記入のない箇所は600とする。

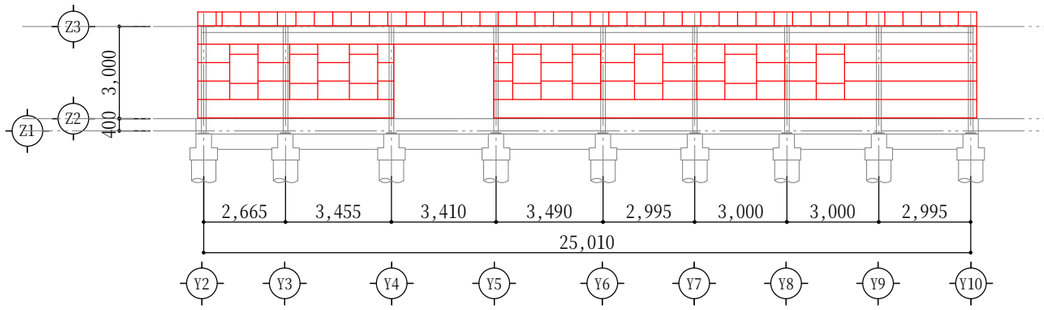


B5梁継手要領（図書室側から）

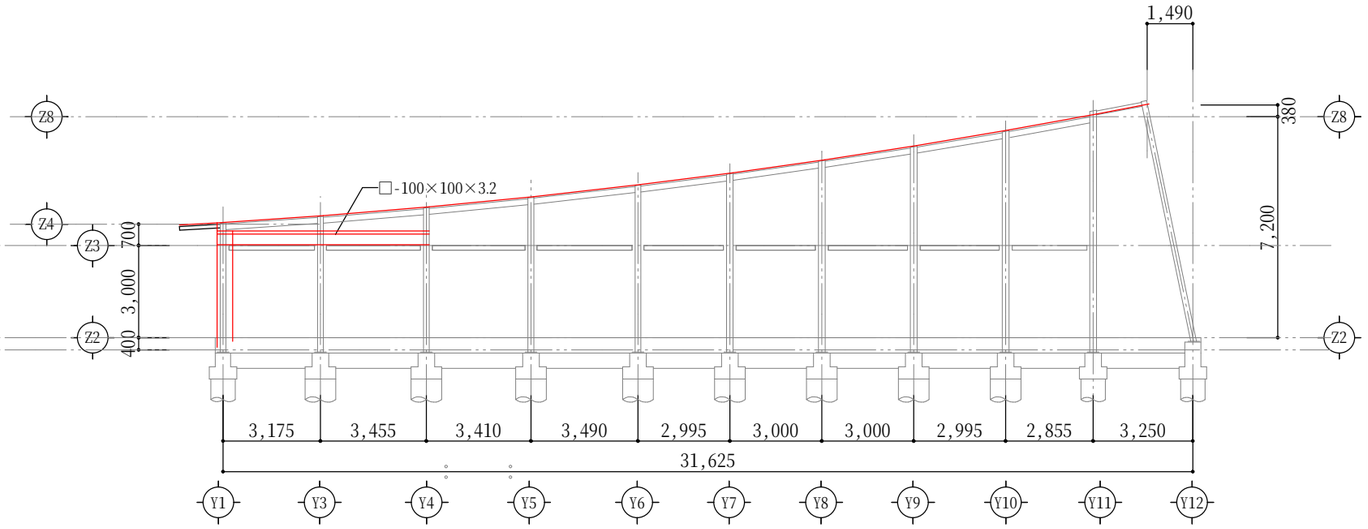
構造関係規定に適合することを確認した。
構造設計一級建築士　第 5743 号
一級建築士　第 74143 号
前田　清行

有限会社 環境計画建築研究所 DESIGN ENVIRONMENTAL	1級建築士事務所登録１５７２号 1級建築士登録６２４５６号 矢田和弘			工事名	永井隆記念館施設整備事業 永井隆記念館建設（建築主体）工事	図面名	軸組図４	縮尺	1：200	図番	S-15

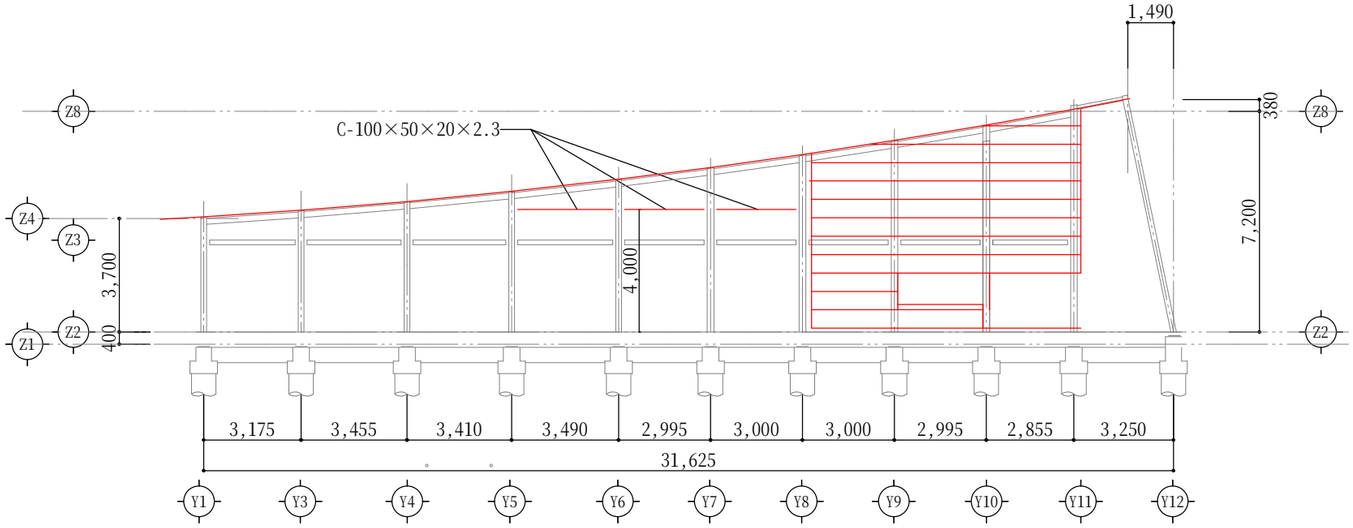
構造図作成者：矢野雅男　一級建築士　第 231540 号



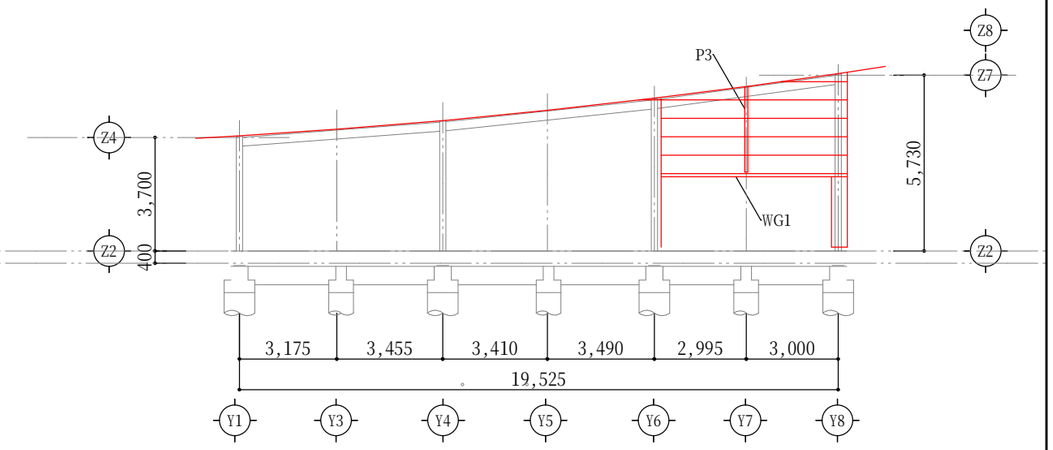
X2通り



X3通り



X4通り



X6通り

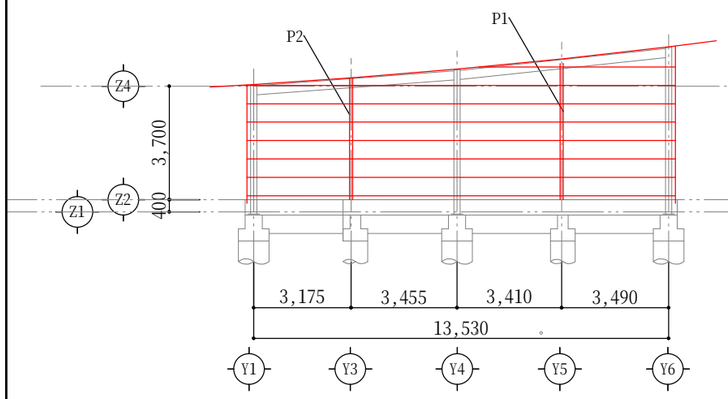
胴縁凡例（特記なき場合）	
――――	C－100×50×20×2.3@600 2C－100×50×20×2.3〔ジョイント部〕
開口補強	□-100×100×2.3

※胴縁受け材：□-100×100×3.2は柱にPL-9@2,000で固定する。

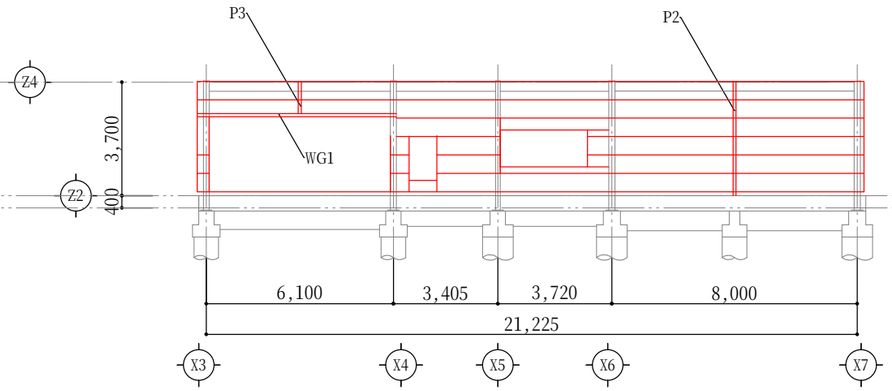
構造関係規定に適合することを確認した。
構造設計一級建築士　第 5743 号
一級建築士　第 74143 号
前田　清行

有限会社 環境計画建築研究所 DESIGN ENVIRONMENTAL	1級建築士事務所登録１５７２号 1級建築士登録６２４５６号 矢　田　和　弘		工事名	永井隆記念館施設整備事業 永井隆記念館建設（建築主体）工事	図面名	胴縁軸組図１	縮尺 1：200	図番 S-16

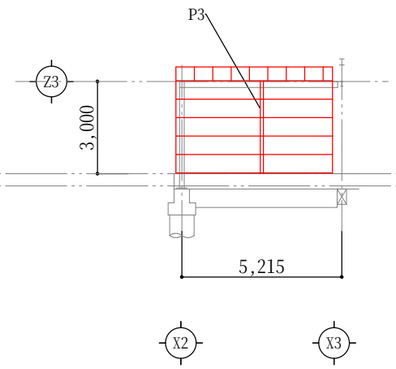
構造図作成者：矢野雅男　一級建築士　第 231540 号



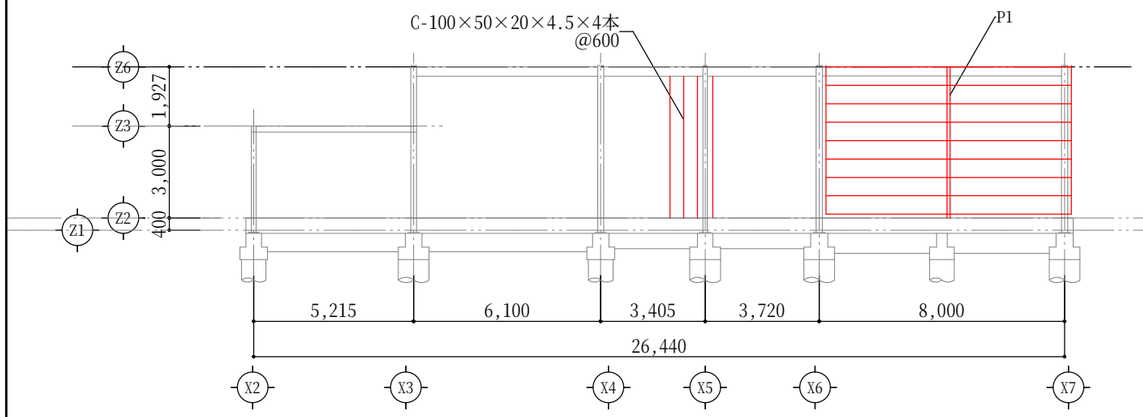
X7通り



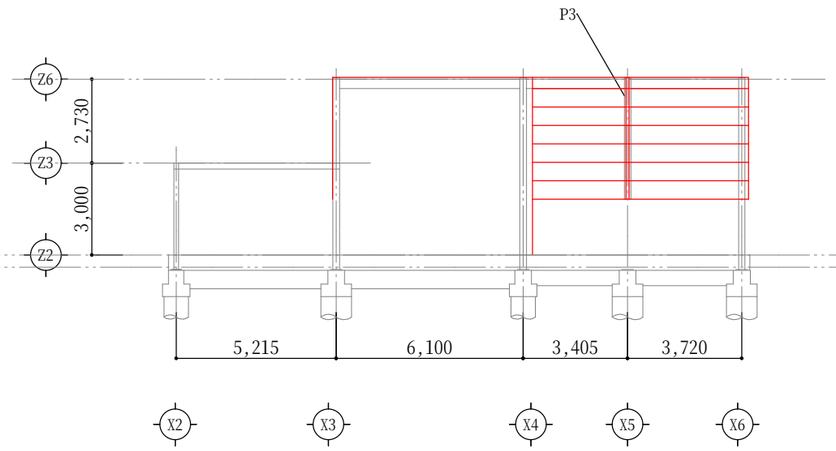
Y1通り



Y2通り



Y6通り



Y8通り

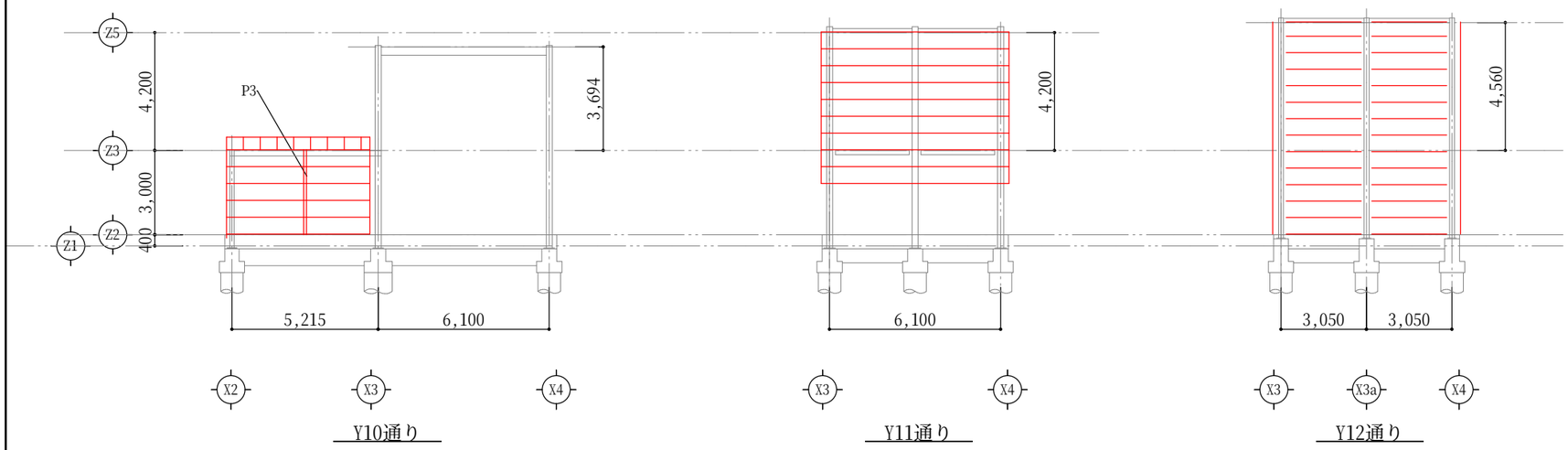
胴縁凡例（特記なき場合）	
――――	C－100×50×20×2.3@600 2C－100×50×20×2.3〔ジョイント部〕
開口補強	□-100×100×2.3

※胴縁受け材：□-100×100×3.2は柱にPL-9@2,000で固定する。

構造関係規定に適合することを確認した。
構造設計一級建築士　第 5743 号
一級建築士　第 74143 号
前田　清行

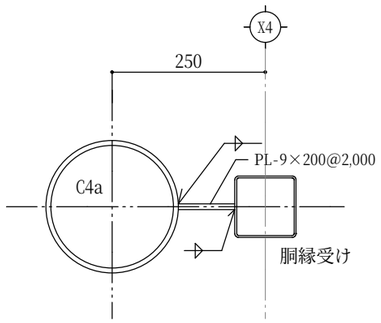
有限会社 環境計画建築研究所 DESIGN ENVIRONMENTAL	1級建築士事務所登録１５７２号 1級建築士登録６２４５６号 矢田和弘		工事名	永井隆記念館施設整備事業 永井隆記念館建設（建築主体）工事	図面名	胴縁軸組図２	縮尺 1：200	図番 S-17

構造図作成者：矢野雅男　一級建築士　第 231540 号



胴縁凡例（特記なき場合）	
————	C－100×50×20×2.3@600 2C－100×50×20×2.3〔ジョイント部〕
開口補強	□-100×100×2.3

※胴縁受け材：□-100×100×3.2は柱にPL-9@2,000で固定する。

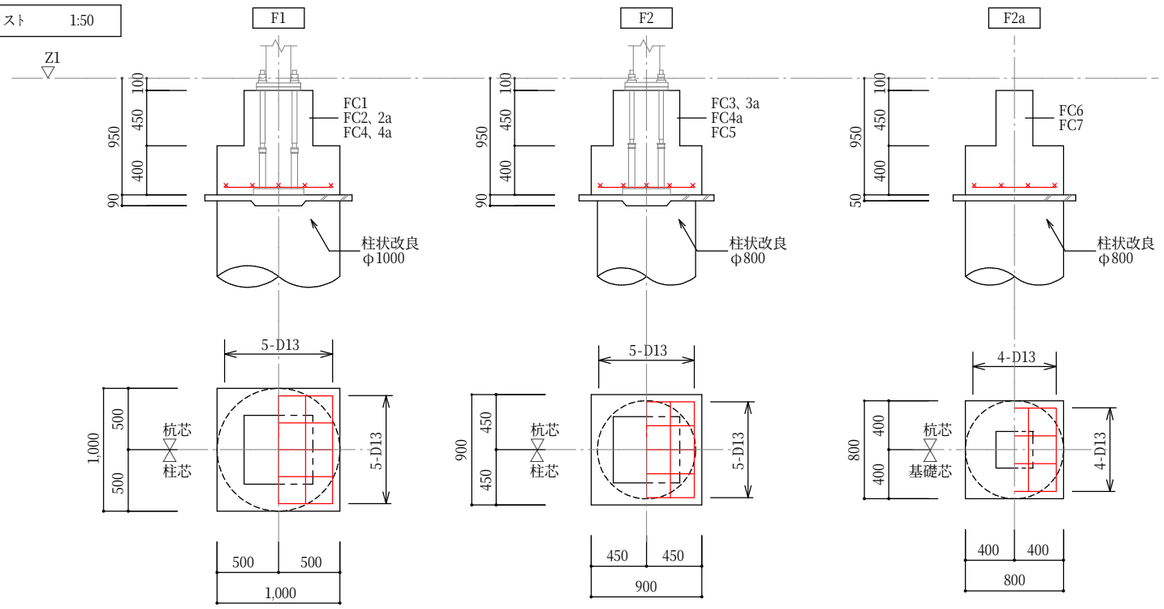


構造関係規定に適合することを確認した。
構造設計一級建築士　第 5743 号
一級建築士　第 74143 号
前田　清行

有限会社 環境計画建築研究所 DESIGN ENVIRONMENTAL	1級建築士事務所登録１５７２号 1級建築士登録６２４５６号 矢　田　和　弘			工事名	永井隆記念館施設整備事業 永井隆記念館建設（建築主体）工事	図面名	胴縁軸組図３	縮尺	1：200	図番	S-18

構造図作成者：矢野雅男　一級建築士　第 231540 号

基礎リスト　1:50

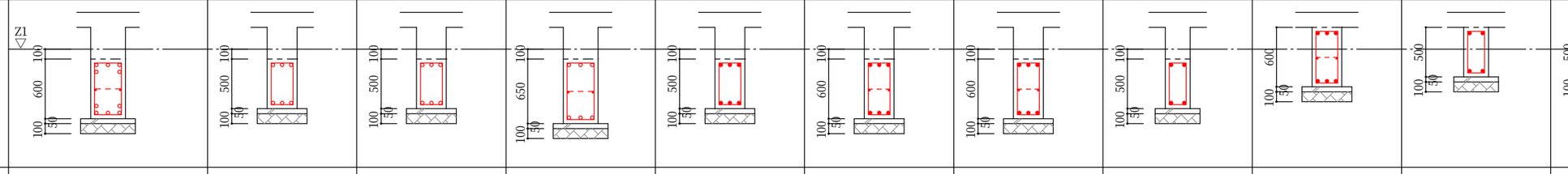


床版リスト

符 号	版 厚	位置	短辺方向	長辺方向	備 考
			全断面	全断面	
DS1	150	上	D13@200	D13@200	断熱材t25 捨てコンt30 砕石砂利厚100
		下	—	—	
DS1a	150	上	D13@200	D13@200	砕石砂利厚100
		下	—	—	

地中梁リスト　1:50

中止筋 D10@1,000

符 号	FG1	FG2	FG3	FGa	FGb	FGc	FGd	FGe	FB1	FB2	FB3
位 置	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面
巾×成	350×600	300×500	300×500	350×650	300×500	300×600	300×600	250×500	300×600	250×500	250×500
断 面											
上端筋	3/2-D22	3-D22	3-D22	3-D22	3-D19	3-D19	3-D19	2-D19	3-D19	2-D19	2-D19
下端筋	3/2-D22	3-D22	3-D22	3-D22	3-D19	3-D19	3-D19	2-D19	3-D19	2-D19	2-D19
STR	2-D10 @200	2-D10 @200	2-D10 @200	2-D10 @200	2-D10 @200	2-D10 @200	2-D10 @200	2-D10 @200	2-D10 @200	2-D10 @200	2-D10 @200
腹 筋	2-D10	—	—	2-D10	—	2-D10	2-D10	—	2-D10	—	—

構造関係規定に適合することを確認した。
構造設計一級建築士　第 5743 号
一級建築士　第 74143 号
前田　清行

有限会社 環境計画建築研究所 DESIGN ENVIRONMENTAL
1級建築士事務所登録１５７２号
1級建築士登録６２４５６号
矢 田 和 弘

工事名　永井隆記念館施設整備事業
永井隆記念館建設（建築主体）工事

図面名　基礎部材リスト１

縮尺　1：50

図番　S-19

構造図作成者：矢野雅男　一級建築士　第 231540 号

基礎柱リスト　1：50

符　号		FC1	FC2	FC2a	FC3	FC3a		FC4	FC4a
基礎柱	X×Y	560×560	500×500	540×540	540×540	530×530		540×540	540×540
	断　面								
	主　筋	12-D19(SD345)	12-D16 (SD295)	12-D16 (SD295)	12-D16 (SD295)	12-D19(SD345)		12-D16 (SD295)	12-D16 (SD295)
	HOOP	2-D13@100(SD295)	2-D13@100(SD295)	2-D13@100(SD295)	2-D13@100(SD295)	2-D13@100(SD295)		2-D13@100(SD295)	2-D13@100(SD295)

符　号		FC5	FC6	FC7
基礎柱	X×Y	500×500	350×350	300×300
	断　面			
	主　筋	12-D16 (SD295)	4-D16 (SD295)	4-D16 (SD295)
	HOOP	2-D13@100(SD295)	2-D10@100(SD295)	2-D10@100(SD295)

構造関係規定に適合することを確認した。
構造設計一級建築士　第 5743 号
一級建築士　第 74143 号
前田　清行

有限会社 環境計画建築研究所 DESIGN ENVIRONMENTAL
1級建築士事務所登録１５７２号
1級建築士登録６２４５６号
矢　田　和　弘

工事名	永井隆記念館施設整備事業 永井隆記念館建設（建築主体）工事	図面名	基礎部材リスト２	縮尺	1：50	図番	S-20

構造図作成者：矢野雅男　一級建築士　第 231540 号

鉄骨部材リスト　※使用鋼材　特記なき限り、ボルトはHTB、鋼材はSS400、SSC400とする。

符号	部材		仕口または継手	備考
C1	□-200×200×12(BCR295)			
C2	□-150×150×9(BCR295)			
C2a	φ-190.7×7			
C3	φ-190.7×7			
C3a	□-175×175×6(BCR295)			
C4	φ-190.7×7			
C4a	φ-216.3×8			
C5	□-150×150×9(BCR295)			
C6	□-150×150×9(BCR295)			
G1	H-294×200×8×12		F:2GPLs-9 6-M20 W:2GPLs-9 3-M20	
G2	H-300×150×6.5×9		F:2GPLs-9 6-M20 W:2GPLs-6 3-M20	
G3	H-194×150×6×9		F:2GPLs-9 4-M20 W:2GPLs-6 2-M20	
G4	H-194×150×6×9		F:2GPLs-9 4-M20 W:2GPLs-6 2-M20	
G5	H-125×125×6.5×9		F:2GPLs-6 6-M16 W:2GPLs-6 2-M16	
Ga	H-294×200×8×12		F:2GPLs-9 6-M20 W:2GPLs-9 3-M20	
Gb	H-300×150×6.5×9		F:2GPLs-9 6-M20 W:2GPLs-6 3-M20	
Gba	X4端	BH-300×175～150×6×9	F:2GPLs-9 6-M20 W:2GPLs-6 3-M20	ハンチ長600mm(柱芯から)
	中央	H-300×150×6.5×9		
	X5端	H-300×150×6.5×9	F:2GPLs-9 6-M20 W:2GPLs-6 3-M20	
Gc	H-300×150×6.5×9		F:2GPLs-9 6-M20 W:2GPLs-6 3-M20	
Gca	X3端	H-300×150×6.5×9	F:2GPLs-9 6-M20 W:2GPLs-6 3-M20	
	中央	H-300×150×6.5×9		
	X4端	BH-300×175～150×6×9	F:2GPLs-9 6-M20 W:2GPLs-6 3-M20	ハンチ長600mm(柱芯から)
Gcb	両端	BH-300×175～150×6×9	F:2GPLs-9 6-M20 W:2GPLs-6 3-M20	ハンチ長600mm(柱芯から)
	中央	H-300×150×6.5×9		
Gd	H-194×150×6×9		F:2GPLs-9 4-M20 W:2GPLs-6 2-M20	
Ge	H-150×150×7×10		F:2GPLs-9 4-M20 W:2GPLs-6 2-M20	

符号	部材	仕口または継手	備考
B1	H-250×125×6×9	GPL-9 3-M16	
B2	□-100×100×3.2	GPL-6 2-M16	
B3	H-175×90×5×8	GPL-6 2-M16 GPL-6 2-2-M16〔X3-4･X5-6のY1端、X5-6のY8端〕	
B4	H-175×90×5×8	GPL-6 2-M16 GPL-6 2-2-M16〔Y7通X5-6のX6端〕	
B5	H-150×75×5×7	GPL-6 2-M16	HTB頭の向きに注意
B6	□-100×100×3.2	GPL-6 2-M16	
b	□-100×100×3.2	GPL-6 2-M16	
WG1	H-150×150×7×10	GPL-9 2-M20	
P1	H-125×125×6.5×9	柱頭:GPL-9 HTB2-M16 柱脚:BP-16 AB2-M16 L=450	
P2	H-100×100×6×8	柱頭:GPL-6 HTB2-M16 柱脚:BP-16 AB2-M16 L=450	
P3	□-100×100×3.2	柱頭:GPL-6 HTB2-M16 柱脚:BP-9 AB2-M12 L=400	
屋根ブレース	フルブレース M16 クロス	GP-9 1-M16	
壁ブレース	フルブレース M14 クロス	GPL-6 1-M16	Y12通り
母屋	C－100×50×20×2.3@455 2C－100×50×20×2.3〔ジョイント部〕	ピースアングル、1-M12(中ボルト) ピースアングル、2-M12(中ボルト)	補強部材あり 母屋伏図参照
胴縁	C－100×50×20×2.3@455 2C－100×50×20×2.3〔ジョイント部〕	ピースアングル、1-M12(中ボルト) ピースアングル、2-M12(中ボルト)	

構造関係規定に適合することを確認した。
構造設計一級建築士　第 5743 号
一級建築士　第 74143 号
前田　清行

有限会社 環境計画建築研究所 DESIGN ENVIRONMENTAL
1級建築士事務所登録1572号
1級建築士登録62456号
矢田和弘

工事名　永井隆記念館施設整備事業
永井隆記念館建設（建築主体）工事

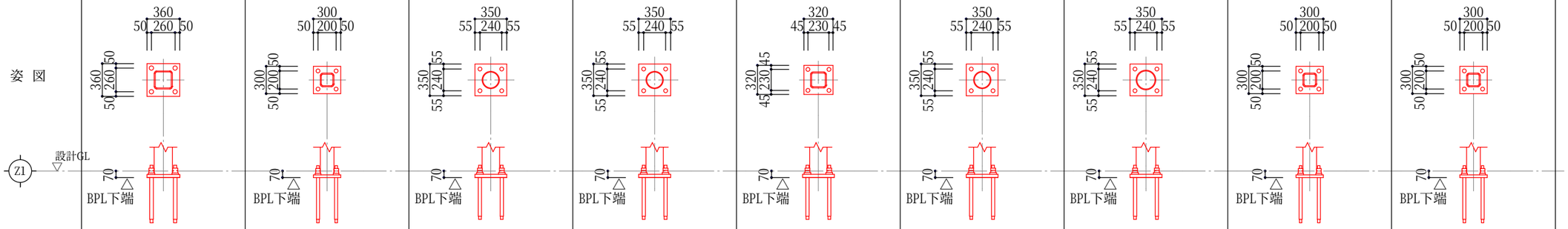
図面名　鉄骨部材リスト1

縮尺　—

図番　S-21

構造図作成者：矢野雅男　一級建築士　第 231540 号

既製固定柱脚リスト　1：30

符 号		C1	C2	C2a	C3	C3a	C4	C4a	C5	C6
柱 脚	母材	□-200×200×12	□-150×150× 9	φ-190.7×7	φ-190.7×7	□-175×175×6	φ-190.7×7	φ-216.3×8	□-150×150× 9	□-150×150× 9
	姿 図									
	ベースプレート	360×360×32 (SN490B)	300×300×28 (SN490B)	350×350×36 (SN490B)	350×350×36 (SN490B)	320×320×32 (SN490B)	350×350×36 (SN490B)	350×350×36 (SN490B)	300×300×28 (SN490B)	300×300×28 (SN490B)
	アンカーボルト	4-M33(SD490)	4-M27(SD490)	4-M30 (SD490)	4-M30 (SD490)	4-M30(SD490)	4-M30 (SD490)	4-M30 (SD490)	4-M27(SD490)	4-M27(SD490)
	備 考	ベースパック 20-12V	ベースパック 15-12V	ベースパック 216-13V2	ベースパック 216-13V2	ベースパック 17-12V	ベースパック 216-13V2	ベースパック 216-13V2	ベースパック 15-12V	ベースパック 15-12V

構造関係規定に適合することを確認した。
構造設計一級建築士　第 5743 号
一級建築士　第 74143 号
前田　清行

有限会社 環境計画建築研究所 DESIGN ENVIRONMENTAL
1級建築士事務所登録1572号
1級建築士登録62456号
矢田和弘

工事名　永井隆記念館施設整備事業
永井隆記念館建設（建築主体）工事

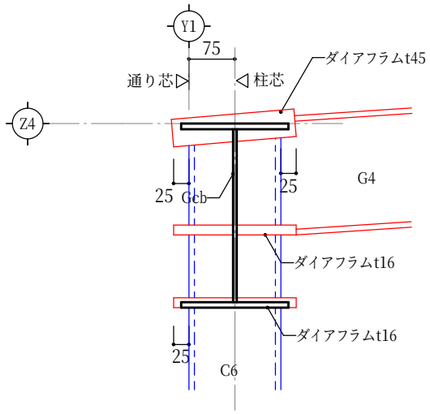
図面名　鉄骨部材リスト2

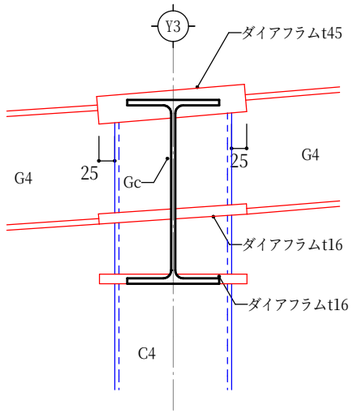
縮尺　1：50

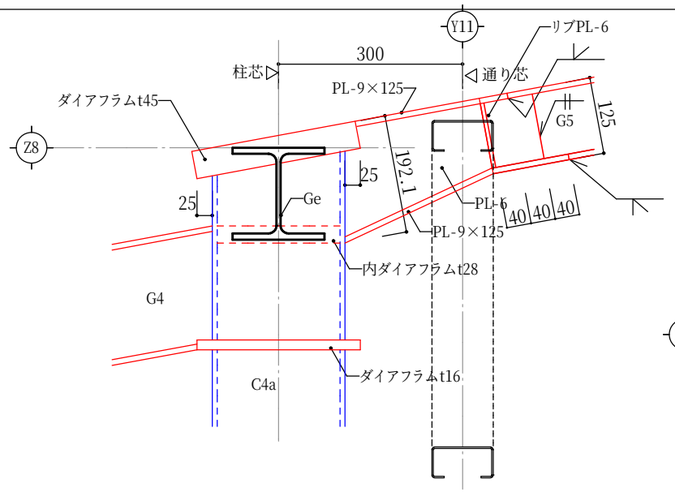
図番　S-22

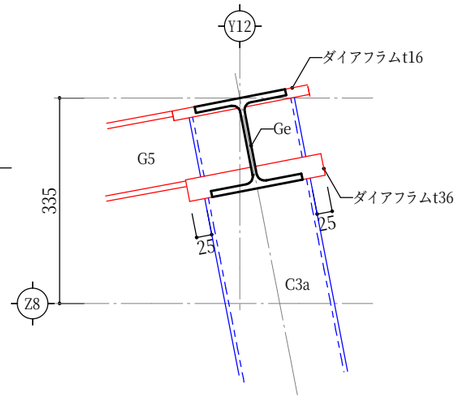
構造図作成者：矢野雅男　一級建築士　第 231540 号

X3通、X4通柱頭詳細図　1：10

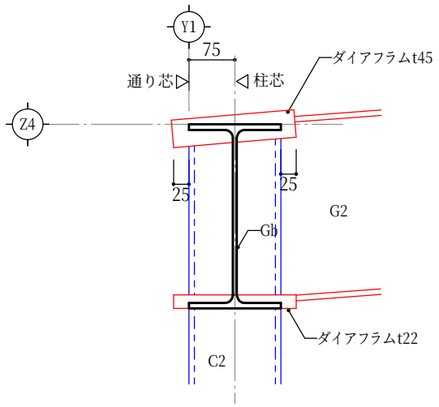


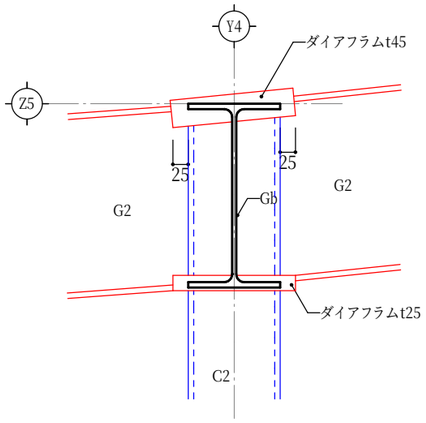


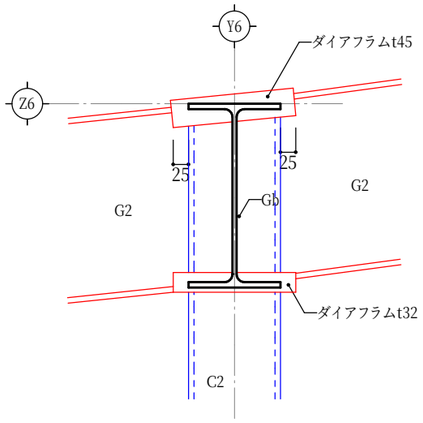


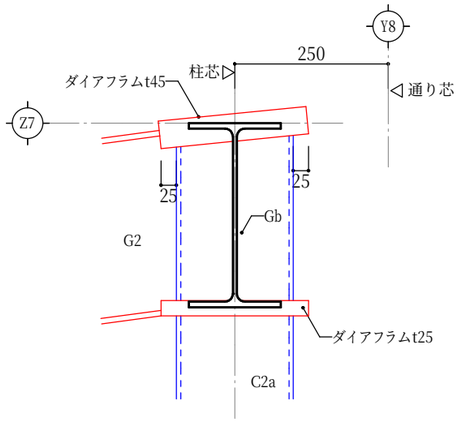


X5通柱頭詳細図　1：10

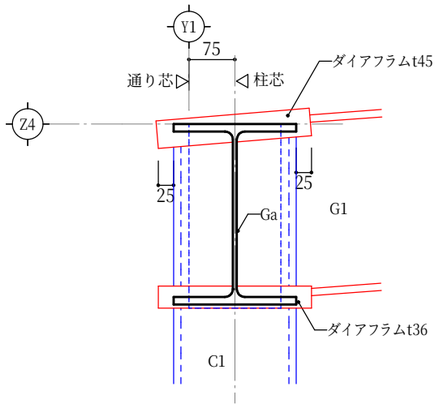


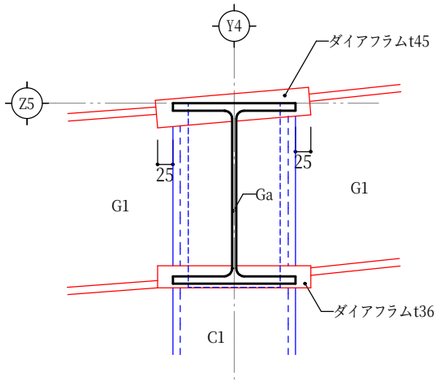


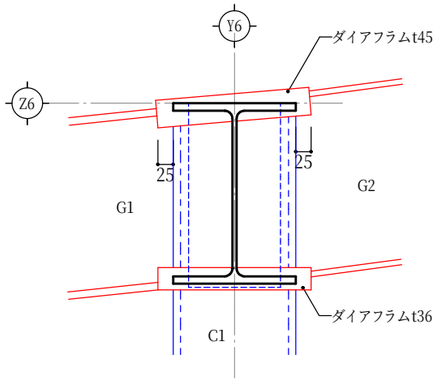


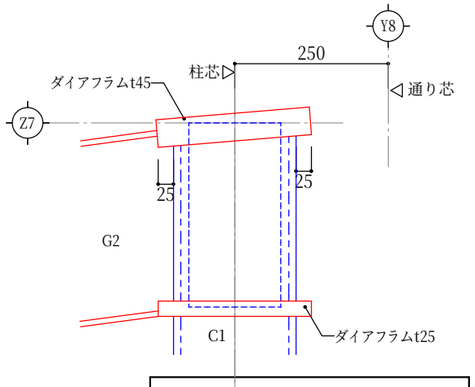


X6通柱頭詳細図　1：10







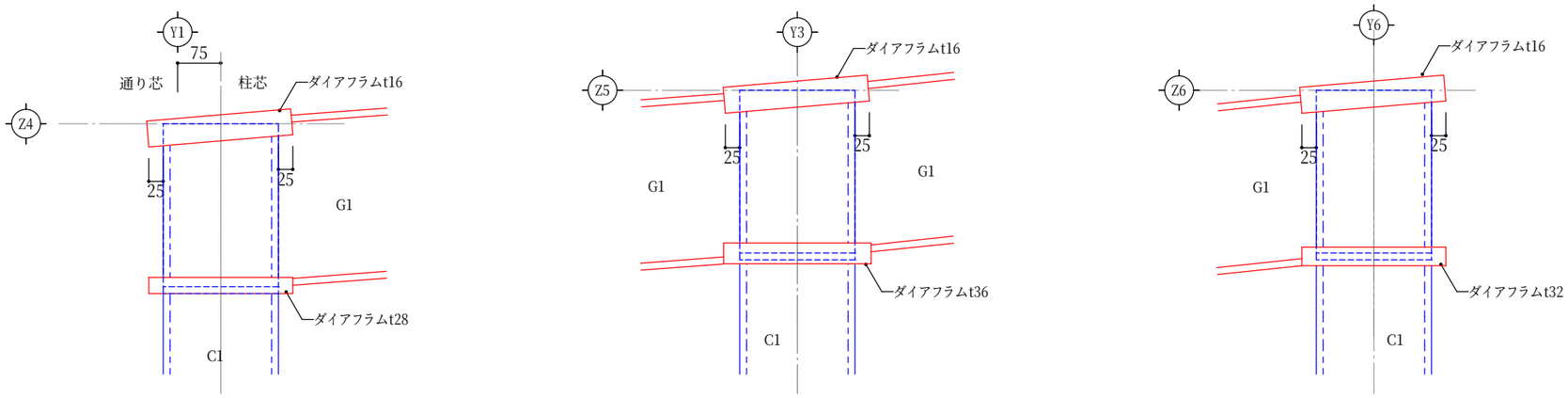


構造関係規定に適合することを確認した。
構造設計一級建築士　第 5743 号
一級建築士　第 74143 号
前田　清行

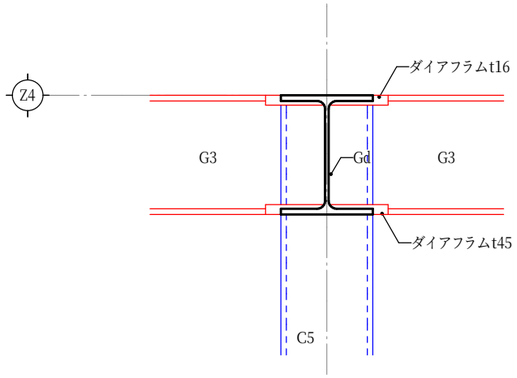
有限会社 環境計画建築研究所 DESIGN ENVIRONMENTAL	1級建築士事務所登録１５７２号 1級建築士登録６２４５６号 矢田和弘		工事名	永井隆記念館施設整備事業 永井隆記念館建設（建築主体）工事	図面名	柱頭詳細図１	縮尺 1：10	図番 S-23

構造図作成者：矢野雅男　一級建築士　第 231540 号

X7通柱頭詳細図　1：10



X2通柱頭詳細図　1：10

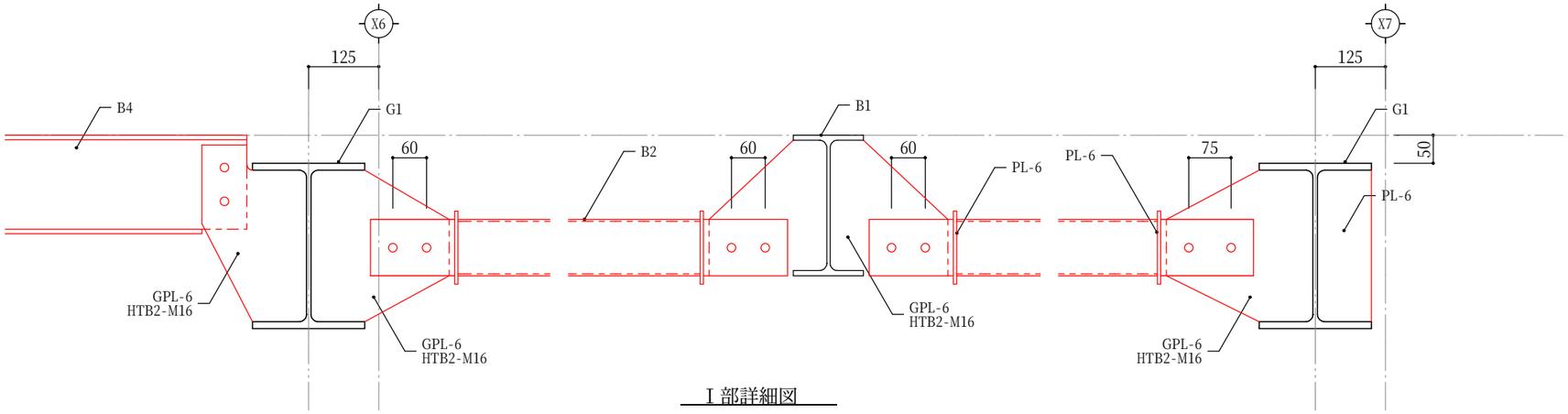


構造関係規定に適合することを確認した。
構造設計一級建築士　第 5743 号
一級建築士　第 74143 号
前田　清行

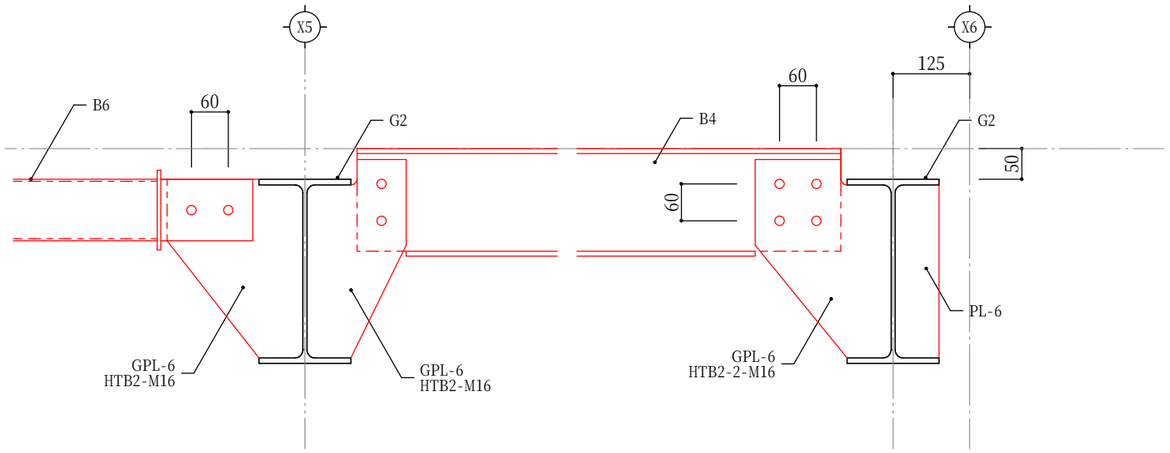
有限会社 環境計画建築研究所 DESIGN ENVIRONMENTAL	1級建築士事務所登録１５７２号 1級建築士登録６２４５６号 矢　田　和　弘			工事名	永井隆記念館施設整備事業 永井隆記念館建設（建築主体）工事	図面名	柱頭詳細図２	縮尺	1：10	図番	S-24

構造図作成者：矢野雅男　一級建築士　第 231540 号

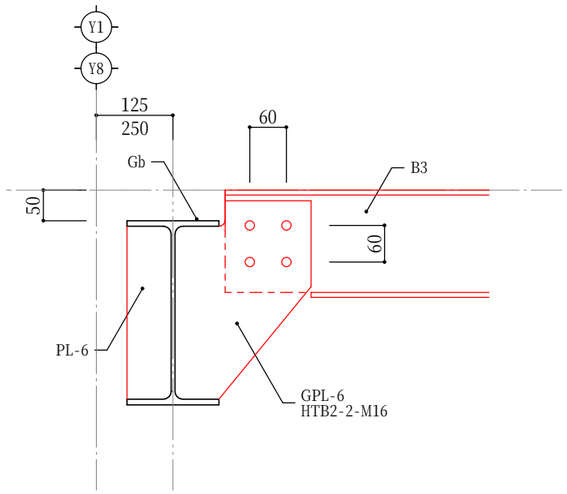
※左図に記した箇所以外の小梁天端は大梁の天端＋50とする。



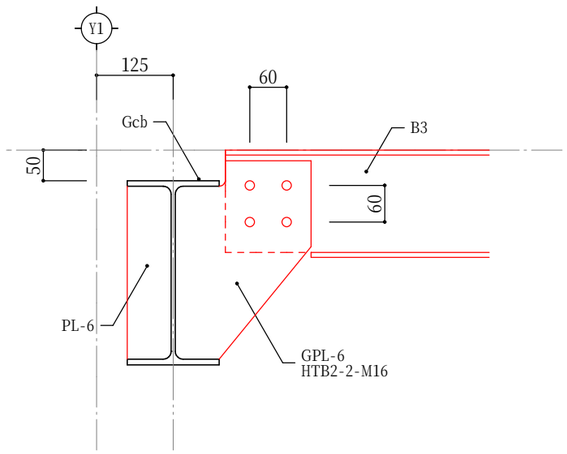
Ⅰ部詳細図



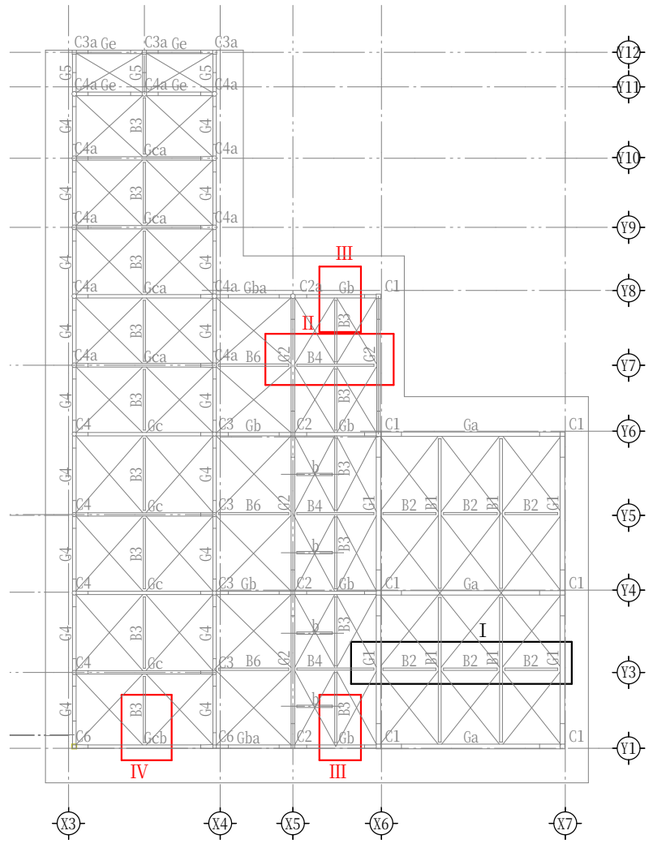
Ⅱ部詳細図



Ⅲ部詳細図



Ⅳ部詳細図



キープラン

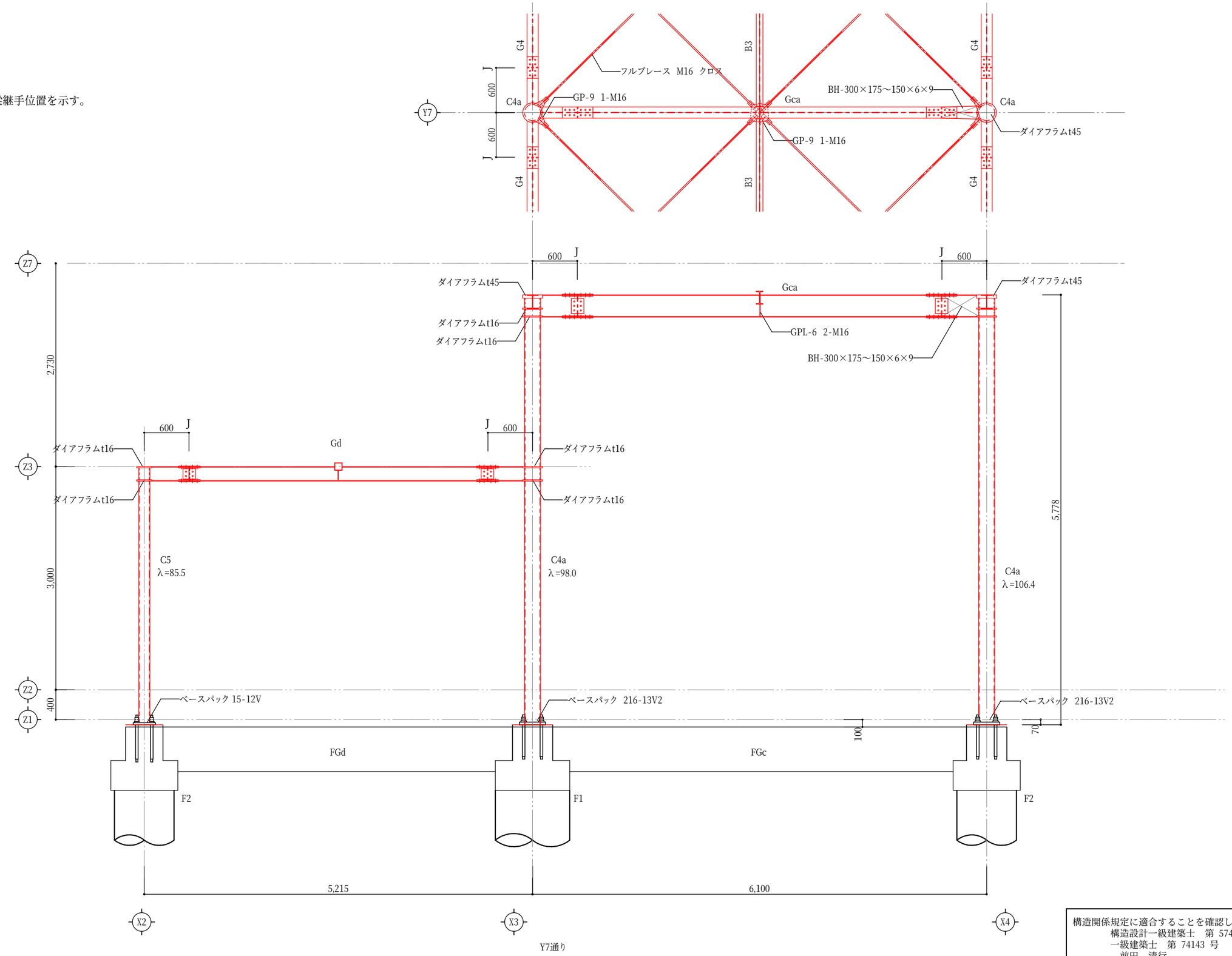
構造関係規定に適合することを確認した。
構造設計一級建築士　第 5743 号
一級建築士　第 74143 号
前田　清行

有限会社 環境計画建築研究所 DESIGN ENVIRONMENTAL	1級建築士事務所登録１５７２号 1級建築士登録６２４５６号 矢田和弘		工事名	永井隆記念館施設整備事業 永井隆記念館建設（建築主体）工事	図面名	横補剛詳細図	縮尺 1：10	図番 S-25

構造図作成者：矢野雅男　一級建築士　第 231540 号

凡例

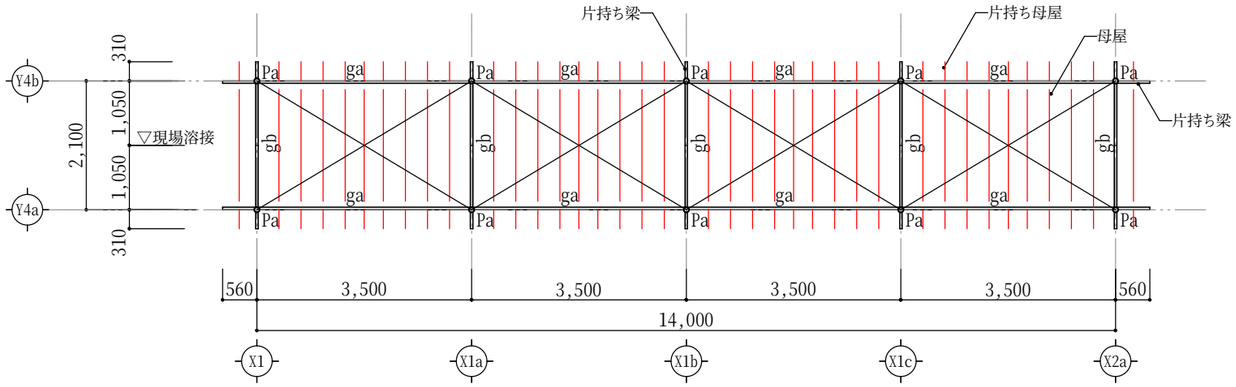
J：柱芯からの梁継手位置を示す。



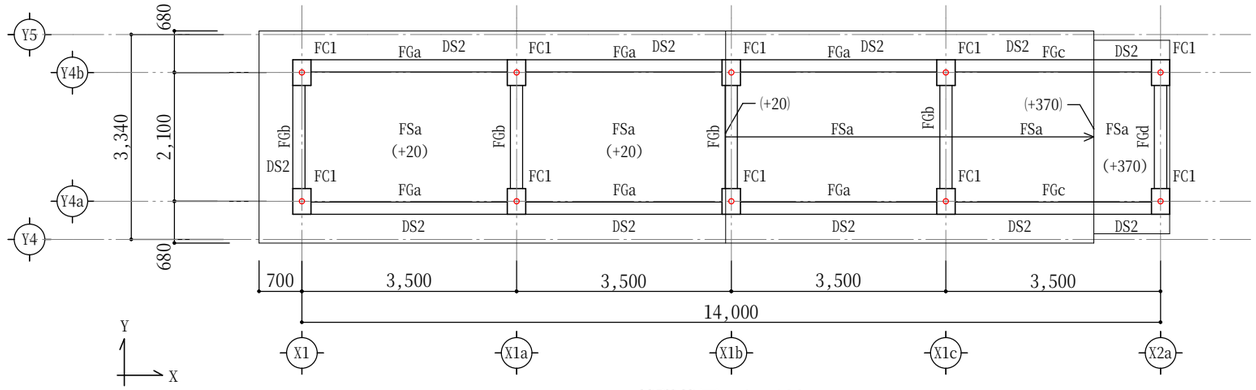
構造関係規定に適合することを確認した。
構造設計一級建築士 第 5743 号
一級建築士 第 74143 号
前田 清行

有限会社 環境計画建築研究所 DESIGN ENVIRONMENTAL	1級建築士事務所登録１５７２号 1級建築士登録６２４５６号 矢 田 和 弘		工事名	永井隆記念館施設整備事業 永井隆記念館建設（建築主体）工事	図面名	架構詳細図	縮尺 1：50	図番 S-26

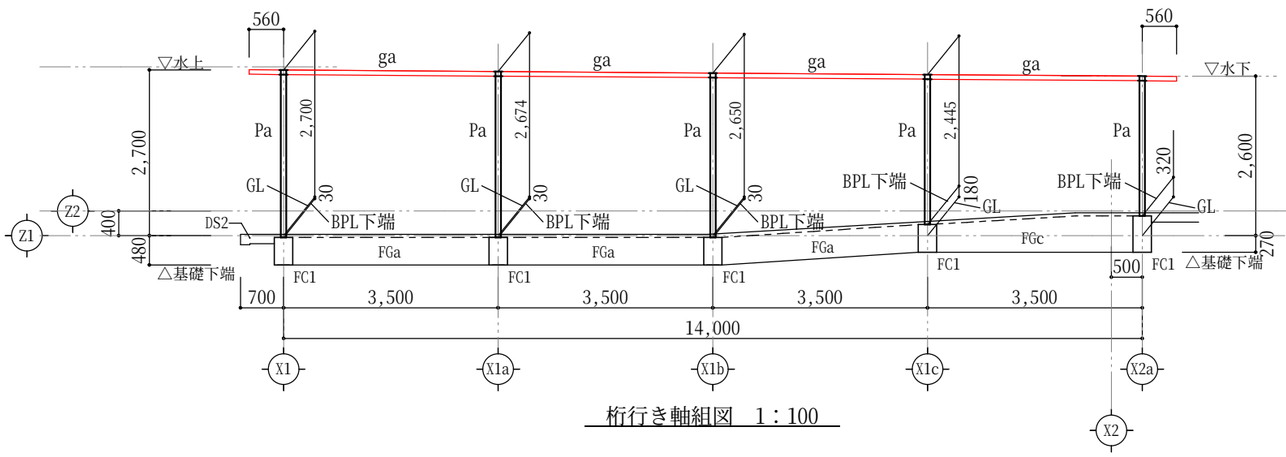
構造図作成者：矢野雅男 一級建築士 第 231540 号



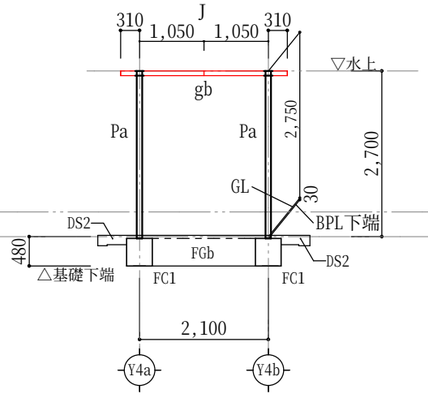
屋根梁伏図　1：100



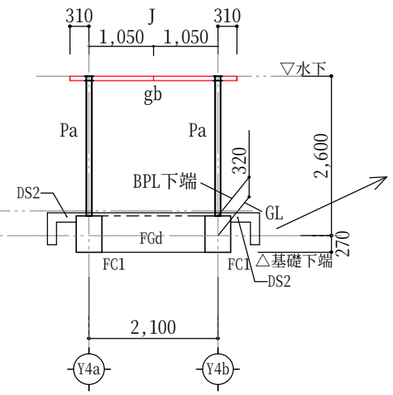
基礎伏図　1：100

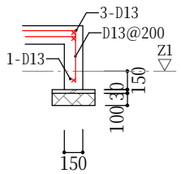


桁行き軸組図　1：100



X1～X1b通軸組図　1：100





鉄骨部材リスト	※使用鋼材　特記なき限り、ボルトはHTB、鋼材はSS400、SSC400とする。		
符号	部材	仕口または継手	備考
Pa	φ-89.1×4.2		溶融亜鉛めっき リン酸処理仕上げ
ga	[-75×40×5×7	完全溶込み溶接	
gb	[-75×40×5×7	完全溶込み溶接	
片持ち梁	[-75×40×5×7	完全溶込み溶接	
屋根ブレース	フルブレース　M12　クロス	GP-6　1-M12	
母屋	L-50×50×4@360	GPL-6　中ボルト2-M12	
片持ち母屋	L-50×50×4@360	完全溶込み溶接	
鼻隠し･ケラバ	[-75×40×5×7	片持ち母屋にすみ肉溶接	

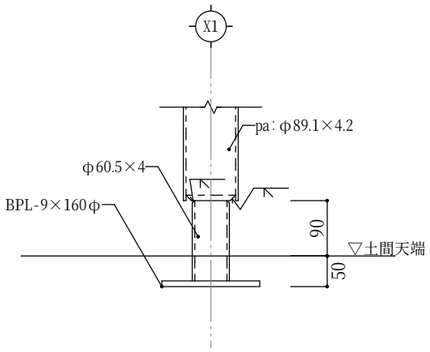
基礎伏図　凡例
(+○○) 内の数値はZ1からの土間天端レベルを示す。

凡例	
J	柱芯からの梁継手位置を示す。 継手は現場溶接とする。

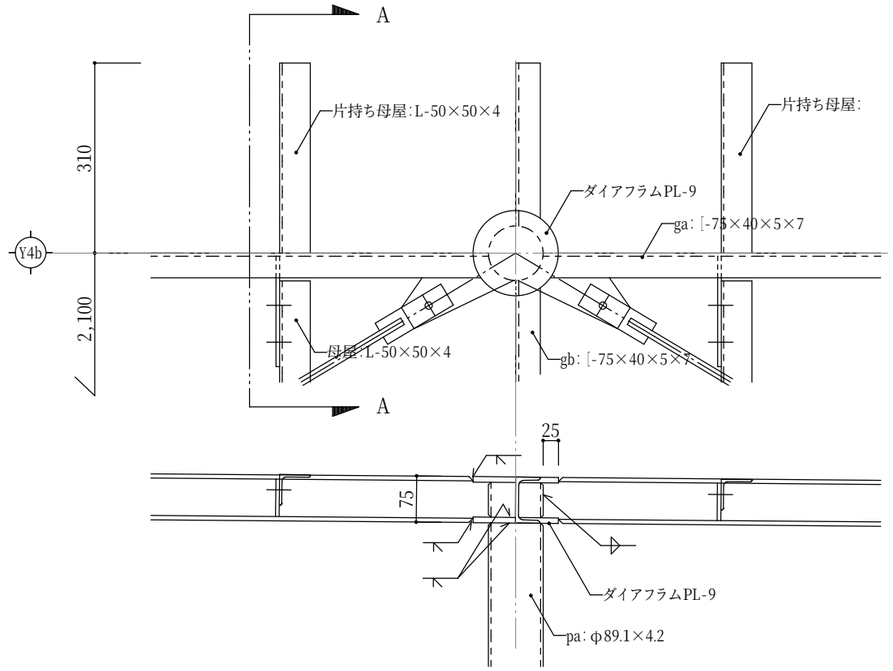
構造関係規定に適合することを確認した。
構造設計一級建築士　第 5743 号
一級建築士　第 74143 号
前田　清行

有限会社 環境計画建築研究所 DESIGN ENVIRONMENTAL	1級建築士事務所登録１５７２号 1級建築士登録６２４５６号 矢田和弘			工事名	永井隆記念館施設整備事業 永井隆記念館建設（建築主体）工事	図面名	アプローチ 伏図・軸組図	縮尺	1：100	図番	S-27

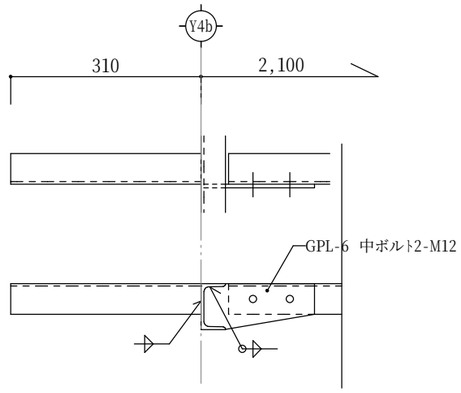
構造図作成者：矢野雅男　一級建築士　第 231540 号



柱脚部　1：10



柱頭部　1：10



A-A矢視

アプローチ地中梁リスト　1:50

巾止筋 D10@1,000

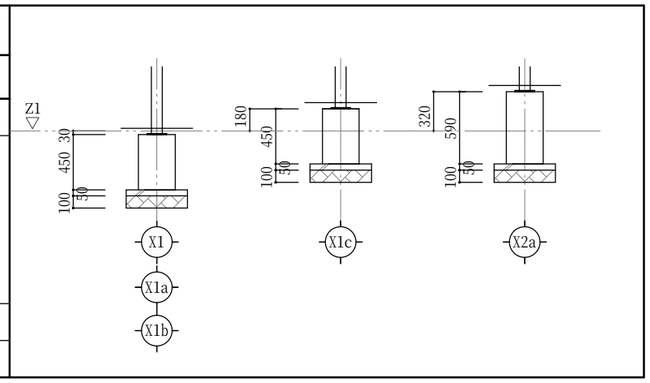
符　号	FGa	FGb	FGc		FGd
位　置	全断面	全断面	X1c端	X2a端	全断面
巾×成	200×450	200×450	200×450	200×590	200×450
断　面	※X1b～X1c通間はZ1-30～Z1+180	※X1c通はZ1+180			
上端筋	2-D13	2-D13	2-D13	2-D13	2-D13
下端筋	2-D13	2-D13	2-D13	2-D13	2-D13
STR	2-D10 @200	2-D10 @200	2-D10 @200	2-D10 @200	2-D10 @200
腹　筋	—	—	2-D10		2-D10

床版リスト

符　号	版　厚	位置	短辺方向	長辺方向	土間下仕様	備考
			全断面	全断面		
DS2	150	上	D10、D13@200	D10、D13@200	砕石砂利厚100	耐圧版
		下	D10、D13@200	D10、D13@200		
FSa	150	上	D10、D13@200	D10、D13@200	砕石砂利厚100	耐圧版
		下	D10、D13@200	D10、D13@200		

基礎柱リスト　1：50

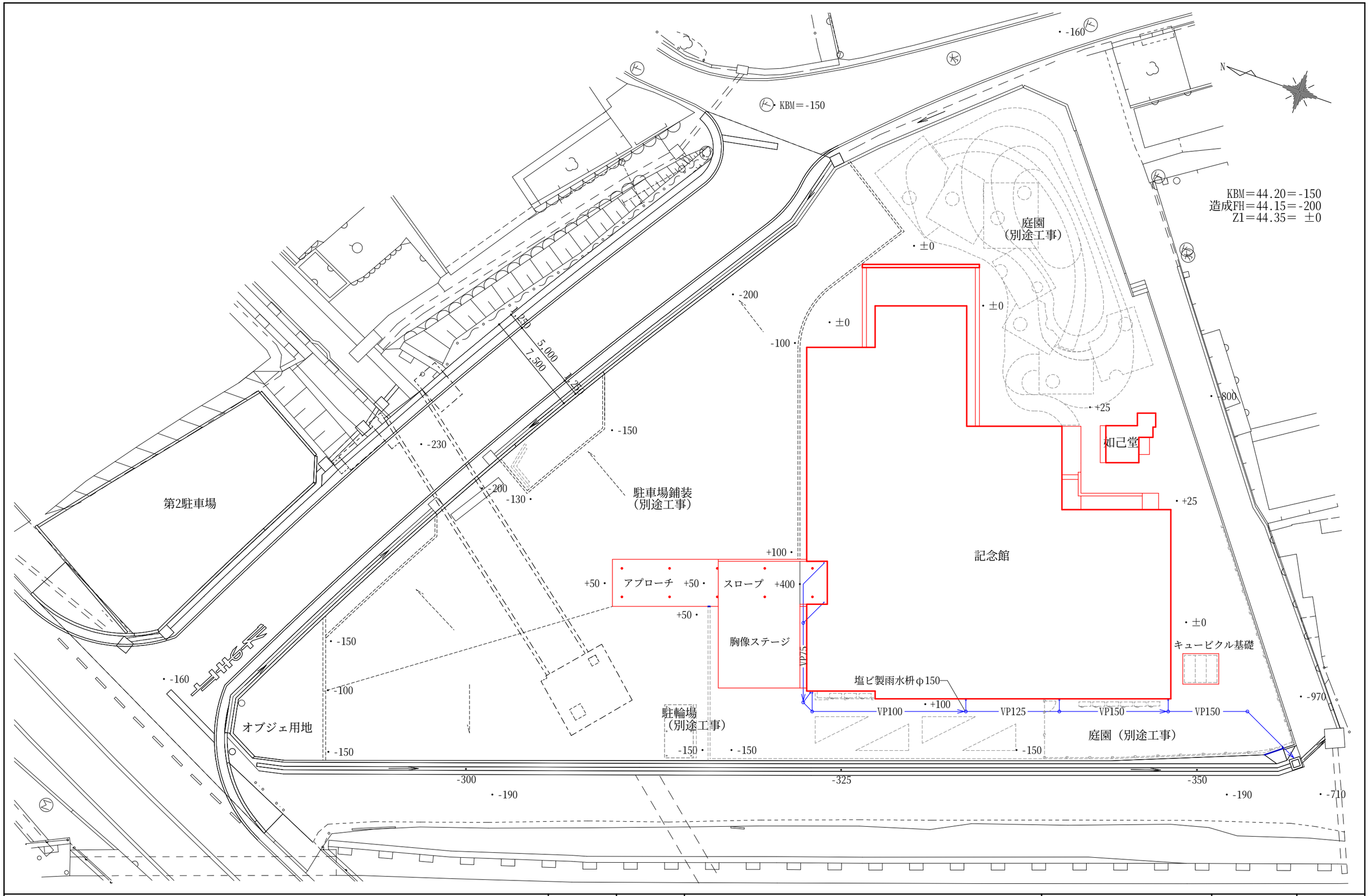
符　号		FC1
基礎柱	X×Y	300×420
	断　面	300×420
	主　筋	6-D16 (SD295)
	HOOP	2-D10@100(SD295)



構造関係規定に適合することを確認した。
構造設計一級建築士　第 5743 号
一級建築士　第 74143 号
前田　清行

有限会社 環境計画建築研究所 DESIGN ENVIRONMENTAL 1級建築士事務所登録１５７２号 1級建築士登録６２４５６号 矢　田　和　弘		工事名	永井隆記念館施設整備事業 永井隆記念館建設（建築主体）工事	図面名	アプローチ詳細図	縮尺 1：10 1：50	図番 S-28

構造図作成者：矢野雅男　一級建築士　第 231540 号

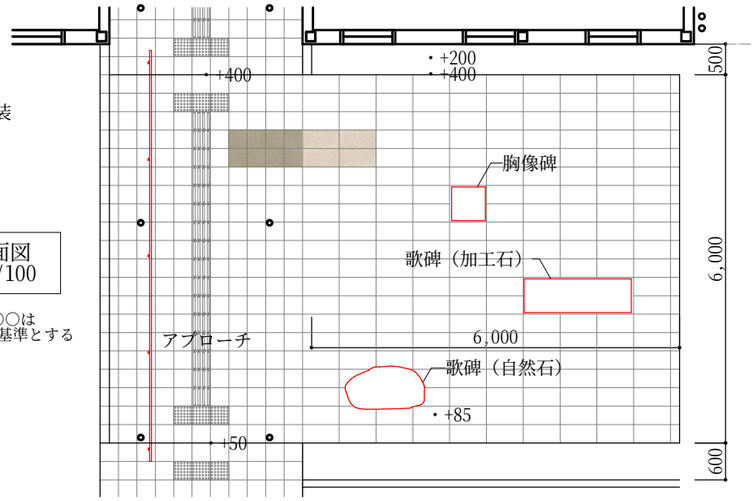


有限会社 環境計画建築研究所 DESIGN ENVIRONMENTAL	1級建築士事務所登録１５７２号 1級建築士登録６２４５６号 矢田和弘		工事名	永井隆記念館施設整備事業 永井隆記念館建設（建築主体）工事	図面名 外構図	縮尺 1/250	図番 EX-01

胸像ステージ廻り

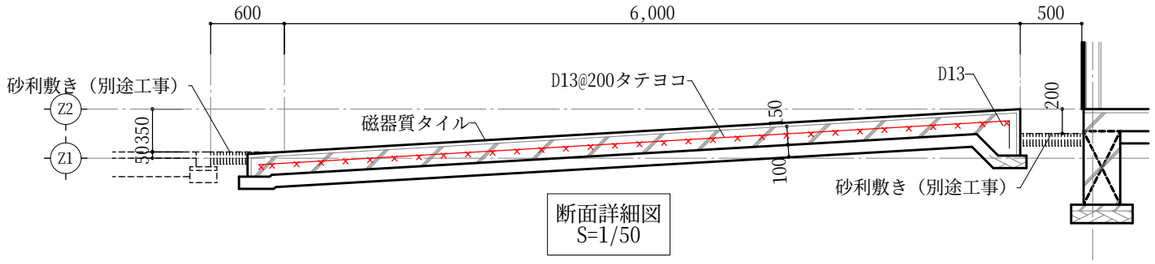
胸像ステージ

敷地内の胸像碑及び歌碑を移設再設置。
本設置前は敷地内へ仮置きする
胸像碑：石部洗浄・ブロンズ：洗浄後DP再塗装
歌碑：高圧洗浄
胸像、歌碑はモルタル充填固定の上
ステージ床タイル張り仕上



平面図
S=1/100

・+○○○は
Z1を基準とする



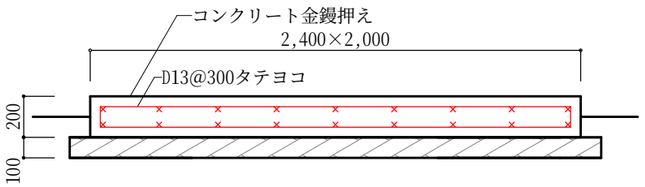
断面詳細図
S=1/50

胸像
500×500×2,300

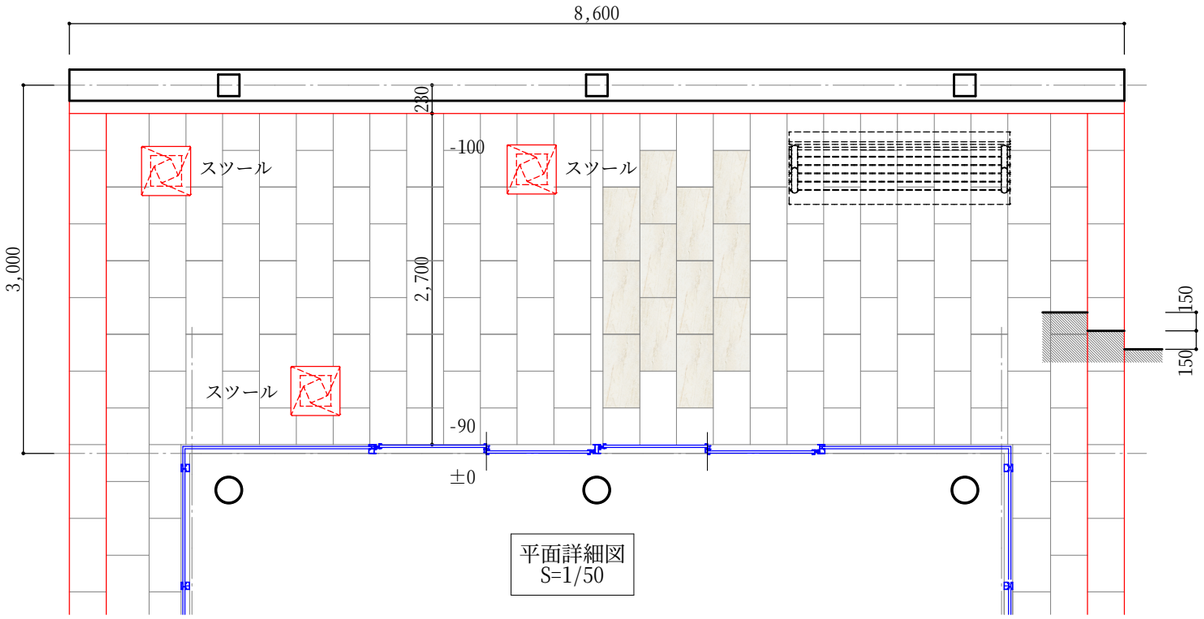
歌碑（加工石）
1,750×500×1,100

歌碑（自然石）
1,300×700×700

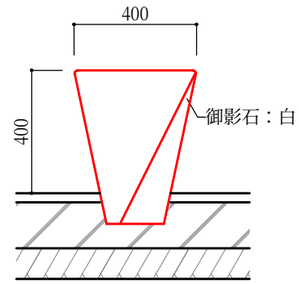
キュービクル基礎　S=1/30



図書テラス



平面詳細図
S=1/50

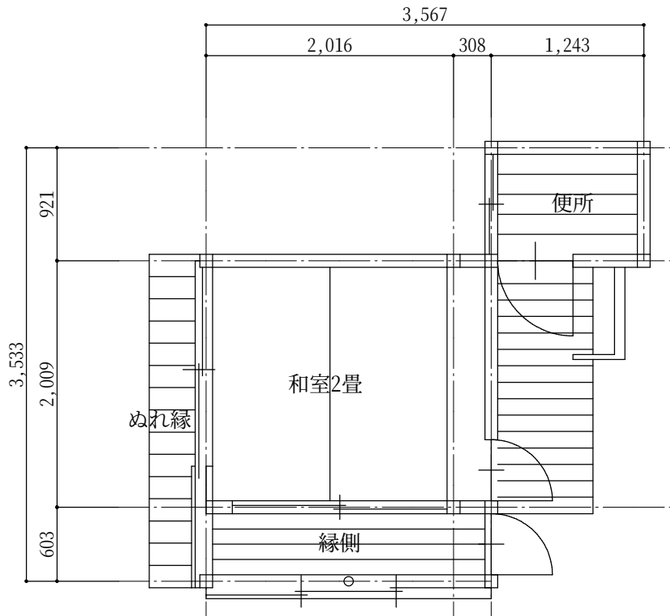


スツール
（設置位置は現場指示）

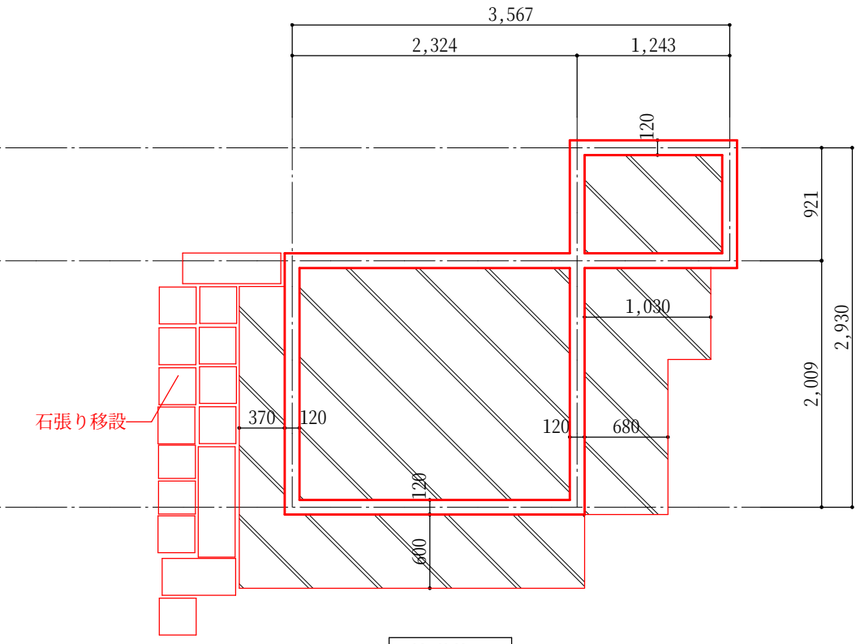
断面詳細図
S=1/20

スツール　㈱コトブキ EX-14120W同等品

有限会社 環境計画建築研究所 DESIGN ENVIRONMENTAL	1級建築士事務所登録１５７２号 1級建築士登録６２４５６号 矢田和弘		工事名	永井隆記念館施設整備事業 永井隆記念館建設（建築主体）工事	図面名	外構詳細図	縮尺 1/50 1/100	図番 EX-02



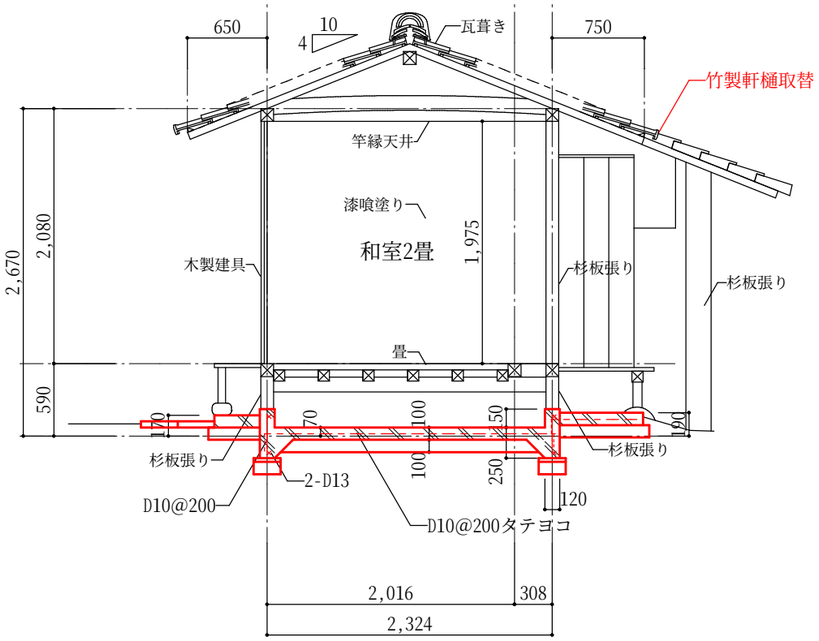
平面図



基礎伏図

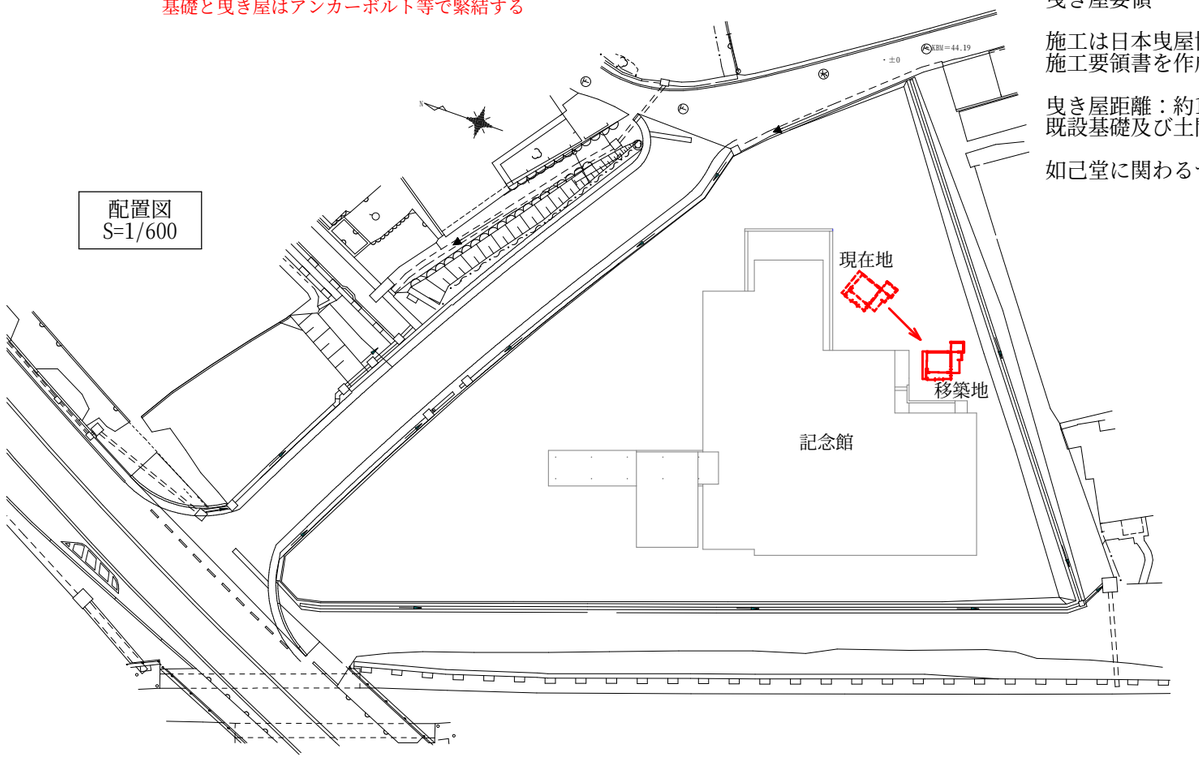
土間CON t100
D10@200タテヨコ
基礎と曳き屋はアンカーボルト等で緊結する

如己堂



断面図

配置図
S=1/600



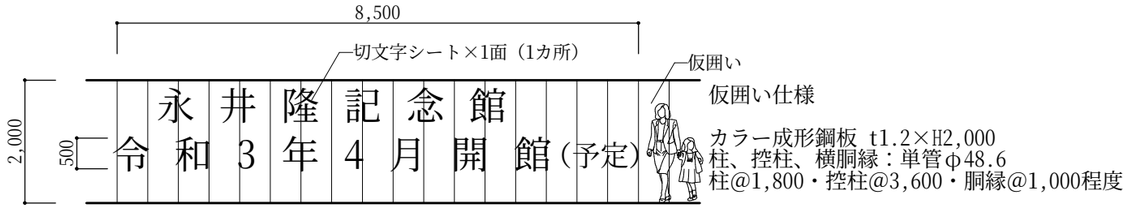
曳き屋要領

施工は日本曳屋協会の会員とする
施工要領書を作成、承認の上施工する

曳き屋距離：約10m
既設基礎及び土間コンクリート10.5㎡は撤去処分

如己堂に関わるサイン、石敷等全て移設本工事とする

有限会社 環境計画建築研究所 DESIGN ENVIRONMENTAL	1級建築士事務所登録１５７２号 1級建築士登録６２４５６号 矢田和弘			工事名	永井隆記念館施設整備事業 永井隆記念館建設（建築主体）工事	図面名	如己堂曳き屋図	縮尺	1/600 1/50	図番	EX-03

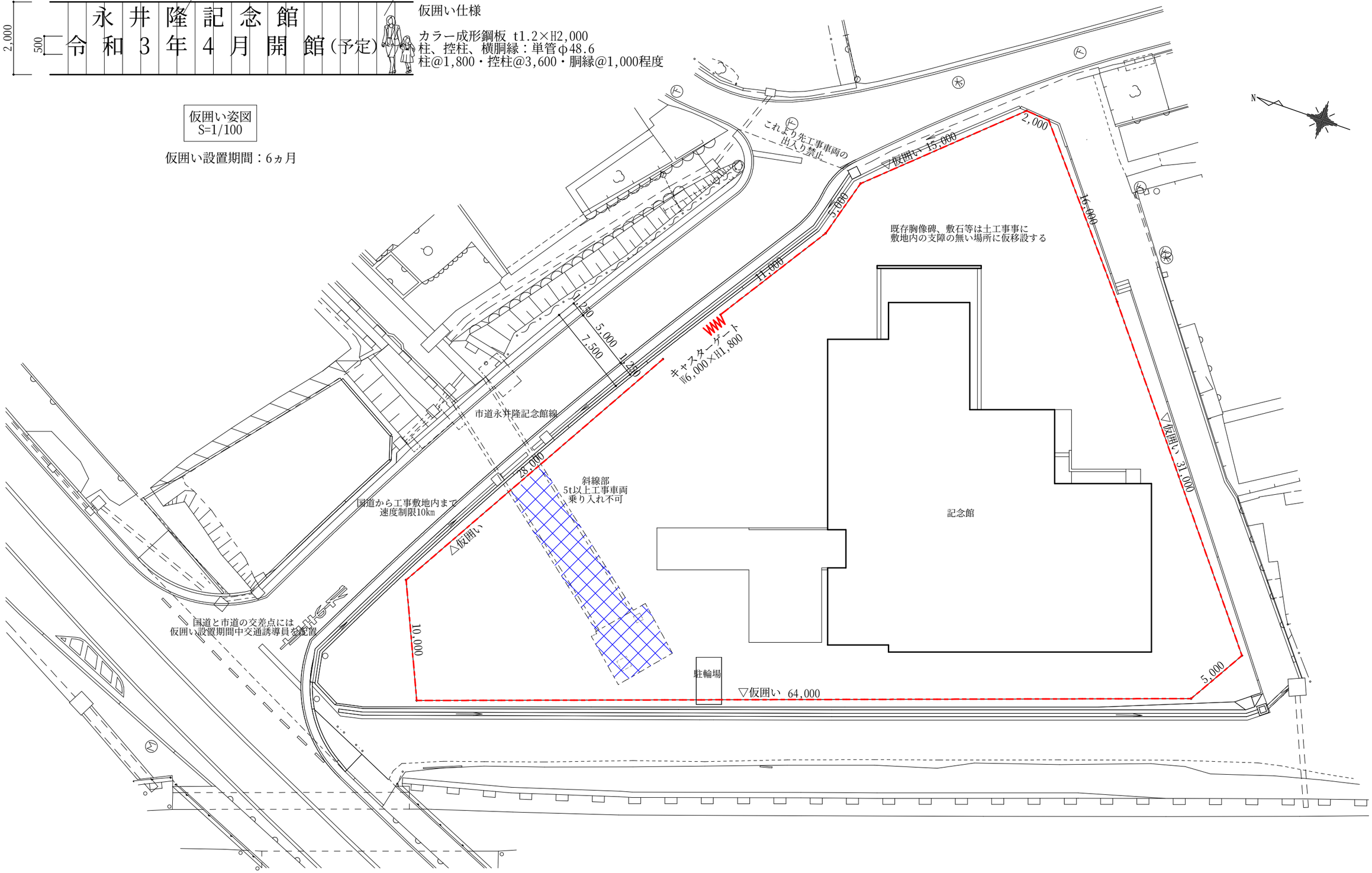


仮囲い仕様

カラー成形鋼板 t1.2×H2,000
柱、控柱、横胴縁：単管φ48.6
柱@1,800・控柱@3,600・胴縁@1,000程度

仮囲い姿図
S=1/100

仮囲い設置期間：6ヵ月



有限会社 環境計画建築研究所 DESIGN ENVIRONMENTAL	1級建築士事務所登録1572号 1級建築士登録62456号 矢田和弘			工事名	永井隆記念館施設整備事業 永井隆記念館建設（建築主体）工事	図面名 仮設計画図	縮尺 1/300	図番 EX-04